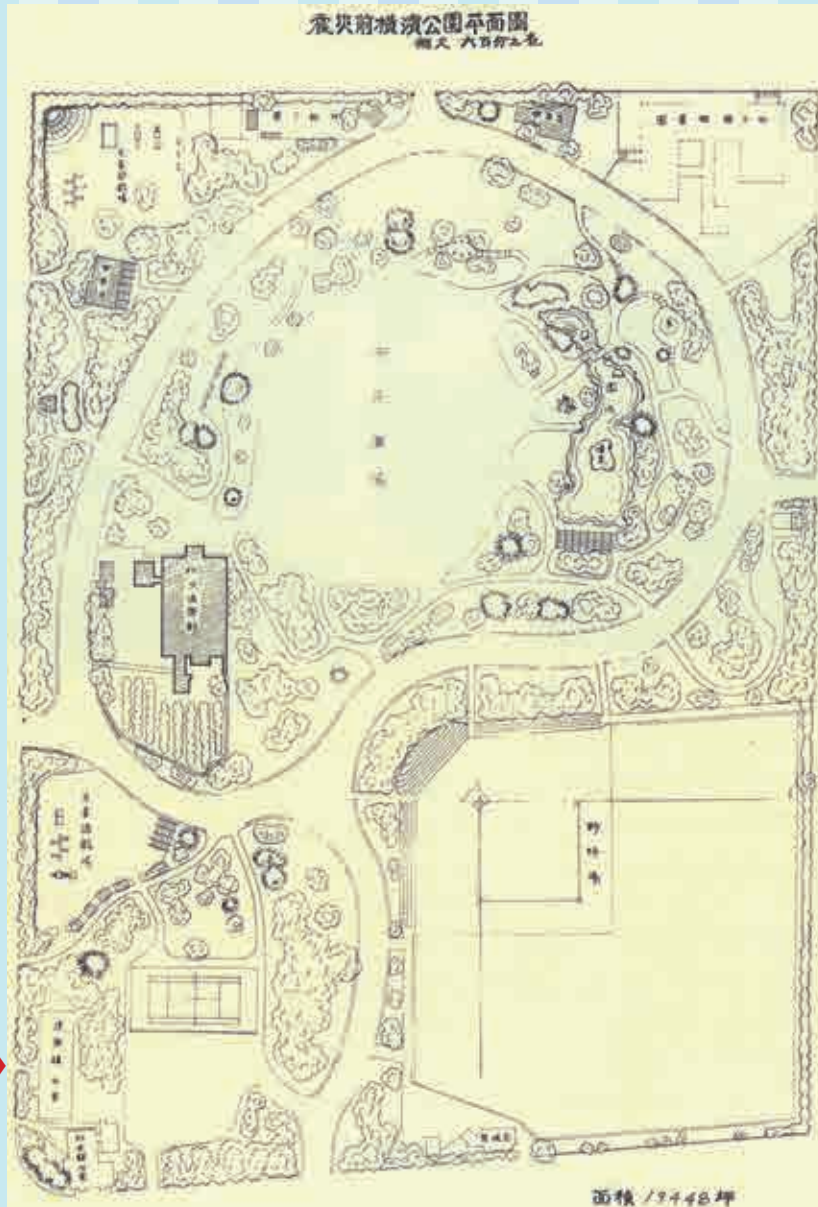




横浜市立図書館 100周年記念資料集



横浜市立図書館の開業



地図左下の建物に「建築課分室」とある。この付近に市立図書館仮閲覧所があったと推察される。

「震災前横浜公園平面図」（『日本公園緑地発達史 上』（都市計画研究所、1977刊）収録）



「横浜近郊 南部」（大日本帝國陸地測量部、1923.10刊）
※横浜公園付近の抜粋

1921（大正10）年6月11日、横浜市図書館の建設予定地である横浜公園内に、仮閲覧所を開業しました。これが横浜市立図書館のはじまりです。写真や図面が見つかっておらず、外観は知るすべがありませんが、では公園のどこに位置したのでしょうか。

同年1月18日の『横浜貿易新報』に、「公園内の建築事務所裏手空地を利用し軽易なる閲覧所を建設」との記載があります。また「震災前横浜公園平面図」（『日本公園緑地発達史 上』（都市計画研究所、1977刊）収録）を見ると、地図左下に「建築課分室」の文字が読み取れます。このことから閲覧所建設場所はこの「建築課分室」付近にあったと思われます。

さらに1923（大正12）年10月刊の横浜公園付近の地図とあわせて見ると、当時、仮閲覧所は横浜市役所に面した位置にあったことが伺えます。

横浜市立図書館の歴史

1919
(大正8)年

○12月

開港60周年、自治制施行30周年の記念事業として図書館の建設を計画し寄付金を募る



幻の図書館
(横浜市図書館設計図「横浜市要覧」)
震災前に建設が予定されていた設計図
関東大震災により、計画が実現することはなかった

1921
(大正10)年

○6月11日

横浜公園内仮閲覧所で
図書の閲覧を開始
【横浜市立図書館の開業】

1923
(大正12)年

○9月1日

関東大震災により仮閲覧所建物および
蔵書焼失

○12月

中村町閲覧所で閲覧開始



『Java』
(仮閲覧所時代の唯一残った本
製本に出していたため焼失を免れた)



中村町閲覧所(「横浜市図書館概要」)

1994
(平成6)年

○4月

中央図書館全面開館。
市立図書館をネット
ワーク化した図書館情
報システム全面稼働



目録カードから検索機へ(「横浜の本と文化」)

1990
(平成2)年

○1月

中央図書館建設
のため横浜市図
書館休館

1974
(昭和49)年

○10月

市立図書館2館目
となる、磯子図書館
開館

○1980年代

各区の図書館が開館
2館目の磯子図書館に続く図書館
建設を推進するため、「図書館開設
準備室」が次々設置され、各区の図
書館建設が進められた

1970
(昭和45)年

○8月

移動図書館「はまかせ
1号・2号」巡回開始



はまかせ号(1970年代撮影)

1995
(平成7)年

○5月

18館目の緑図書館
開館。1区1館となる

1998
(平成10)年

○3月

インターネットによる
蔵書検索サービス開始

2005
(平成17)年

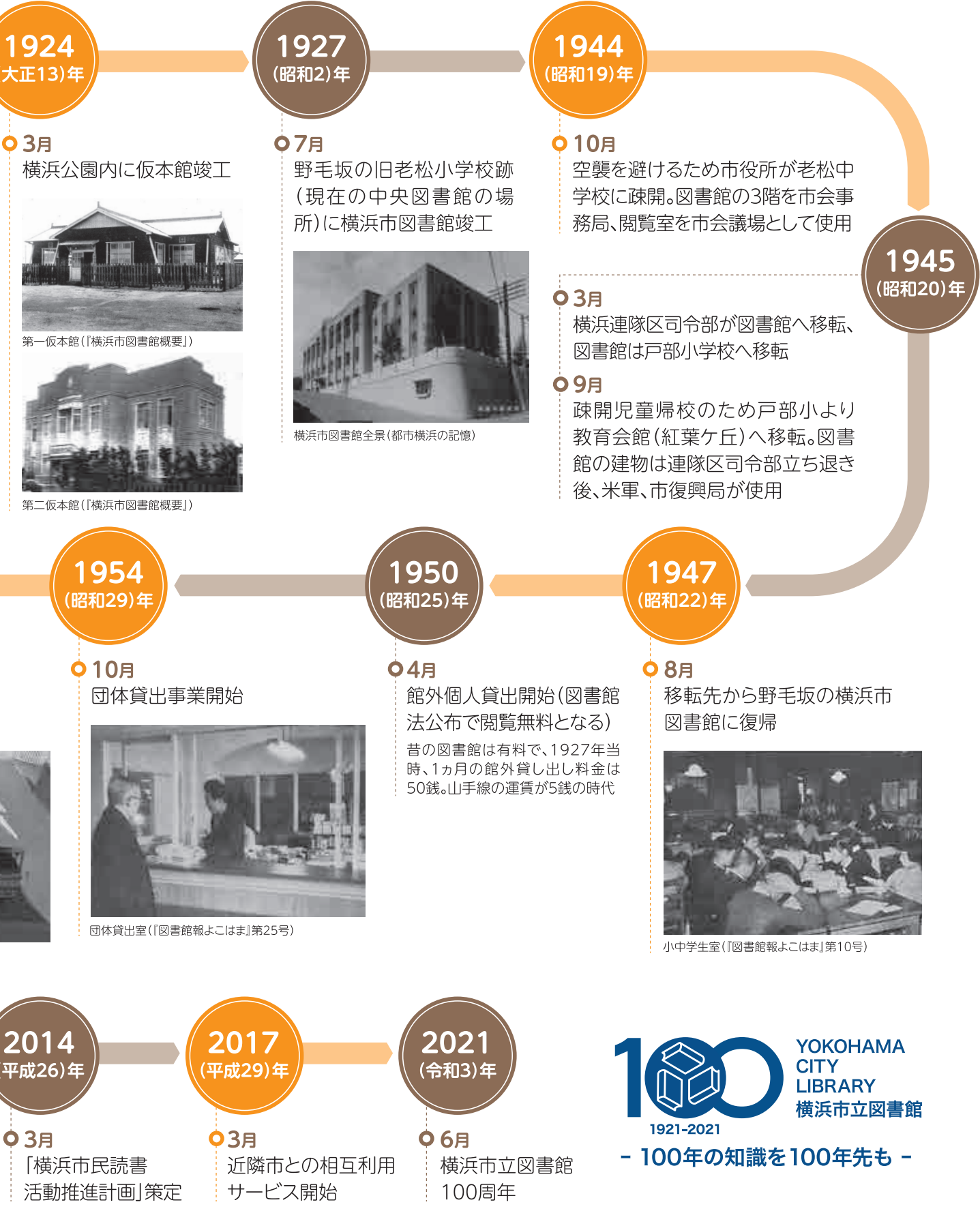
○10月

インターネットによる
予約・貸出延長サービス開始

2013
(平成25)年

○6月

「横浜市民の読書活動の
推進に関する条例」公布



1924
大正13年

3月
横浜公園内に仮本館竣工



第一仮本館(『横浜市図書館概要』)



第二仮本館(『横浜市図書館概要』)

1927
(昭和2)年

7月
野毛坂の旧老松小学校跡(現在の中央図書館の場所)に横浜市図書館竣工



横浜市図書館全景(都市横浜の記憶)

1944
(昭和19)年

10月
空襲を避けるため市役所が老松中学校に疎開。図書館の3階を市会事務局、閲覧室を市会議場として使用

1945
(昭和20)年

3月
横浜連隊区司令部が図書館へ移転、図書館は戸部小学校へ移転

9月
疎開児童帰校のため戸部小より教育会館(紅葉ヶ丘)へ移転。図書館の建物は連隊区司令部立ち退き後、米軍、市復興局が使用

1954
(昭和29)年

10月
団体貸出事業開始



団体貸出室(『図書館報よこはま』第25号)

1950
(昭和25)年

4月
館外個人貸出開始(図書館法公布で閲覧無料となる)
昔の図書館は有料で、1927年当時、1ヵ月の館外貸し出し料金は50銭。山手線の運賃が5銭の時代

1947
(昭和22)年

8月
移転先から野毛坂の横浜市図書館に復帰



小中学生室(『図書館報よこはま』第10号)

2014
平成26)年

3月
「横浜市民読書活動推進計画」策定

2017
(平成29)年

3月
近隣市との相互利用サービス開始

2021
(令和3)年

6月
横浜市立図書館100周年



1921-2021
- 100年の知識を100年先も -

横浜市立図書館開館の歴史

1921年 大正10年	6月11日 仮閲覧所
1927年 昭和2年	7月23日 横浜市図書館竣工
1974年 昭和49年	10月6日 磯子図書館
1977年 昭和52年	4月12日 山内図書館
1978年 昭和53年	11月1日 戸塚図書館
1980年 昭和55年	1月10日 鶴見図書館、5月15日 金沢図書館、8月27日 港北図書館
1982年 昭和57年	5月7日 保土ヶ谷図書館
1985年 昭和60年	1月17日 瀬谷図書館
1986年 昭和61年	5月14日 旭図書館
1987年 昭和62年	1月21日 港南図書館、10月21日 神奈川図書館
1989年 平成元年	2月22日 泉図書館、3月14日 栄図書館、5月21日 中図書館
1992年 平成4年	12月2日 南図書館
1994年 平成6年	2月22日 中央図書館一部開館、4月26日 中央図書館全面開館
1995年 平成7年	4月25日 都筑図書館、5月9日 緑図書館

幻の図書館から、1区1館まで

横浜市立図書館の歴史は、横浜公園内に建設予定だった図書館開設までをつなぐものとして、1921(大正10)年に仮閲覧所を開館したことから始まります。しかし、2年後の関東大震災により、資料と共に図書館の建設計画も灰塵に帰し、幻の図書館計画となってしまいました。

それでも多くの人々の尽力により、震災からわずか3か月後には南区にバラックの「中村町閲覧所」が開かれ、翌年には横浜公園内の「第一仮本館」「第二仮本館」に移りました。

そしてようやく、1927(昭和2)年に旧老松小学校の跡地に「横浜市図書館」いわゆる「野毛の図書館」が開館し、長らく唯一の市立図書館として親しまれました。その後、約50年後の1974年の磯子図書館開館を皮切りに約20年をかけて、すべての区に図書館が設置されました。



磯子図書館(1974年撮影)



山内図書館(1977年撮影)



戸塚図書館(1978年撮影)



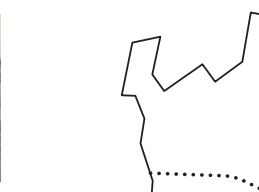
鶴見図書館(1980年撮影)



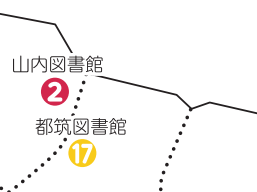
金沢図書館(1980年撮影)



港北図書館(「横浜市のとよかん'84」)



保土ヶ谷図書館(「横浜市のとよかん'83」)



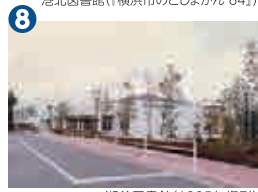
旭図書館(1986年撮影)



旭図書館(1986年撮影)



保土ヶ谷図書館(「横浜市のとよかん'83」)



瀬谷図書館(1985年撮影)



神奈川図書館(1987年撮影)



神奈川図書館(1987年撮影)



神奈川図書館(1987年撮影)



神奈川図書館(1987年撮影)



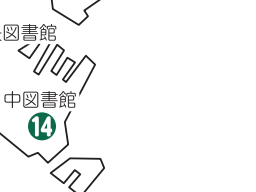
港南図書館(1987年撮影)



神奈川図書館(1987年撮影)



神奈川図書館(1987年撮影)



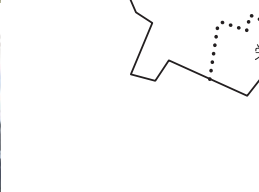
神奈川図書館(1987年撮影)



神奈川図書館(1987年撮影)



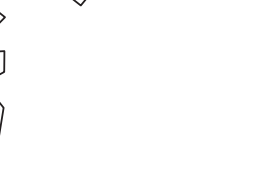
泉図書館(1989年撮影)



神奈川図書館(1989年撮影)



神奈川図書館(1989年撮影)



神奈川図書館(1989年撮影)



神奈川図書館(1989年撮影)



中図書館(1989年撮影)



中図書館(1989年撮影)



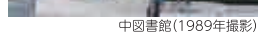
中図書館(1989年撮影)



中図書館(1989年撮影)



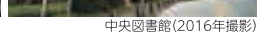
中図書館(1989年撮影)



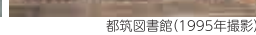
中図書館(1989年撮影)



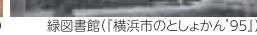
中図書館(1989年撮影)



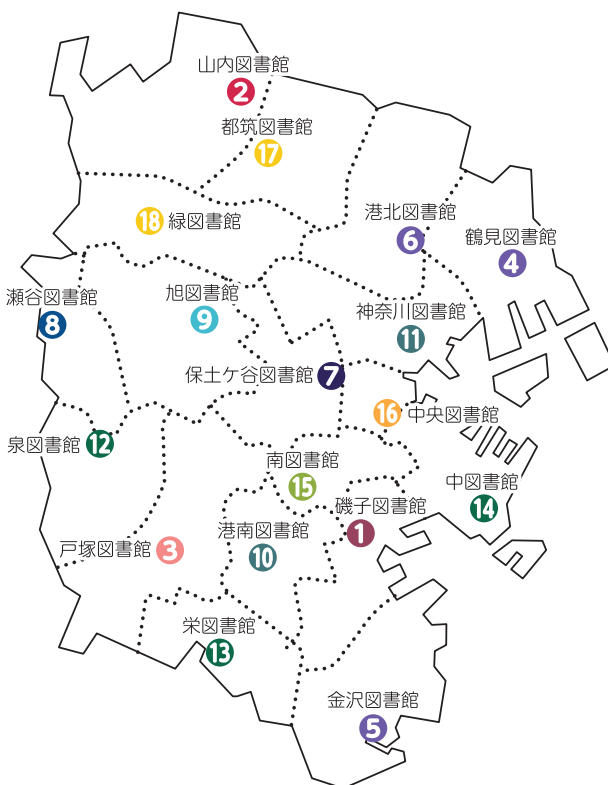
中図書館(1989年撮影)



中図書館(1989年撮影)



中図書館(1989年撮影)



中図書館(1989年撮影)



中図書館(1989年撮影)



中図書館(1989年撮影)



中図書館(1989年撮影)



中図書館(1989年撮影)

移動図書館の変遷



初代はまかぜ1号・2号(1970年～1978年)
日産エコGC240(26人乗りマイクロバス)を改造(積載量1600冊)



二代目はまかぜ1号(1978年～1989年)
二代目はまかぜ2号(1978年～1988年)
日野KM310(3.5tトラック)を改造(積載量2500冊)



左:三代目はまかぜ1号(1989年～2005年)
トヨタコースターN-BB21(26人乗りマイクロバス)を改造(積載量3000冊)
右:三代目はまかぜ2号(1988年～1998年)
いすずジャーニーBL36D(26人乗りマイクロバス)を改造(積載量3000冊)



左:四代目はまかぜ1号(2005年～2016年)
日産シビリヤン(26人乗りマイクロバス)を改造(積載量3500冊)
右:四代目はまかぜ2号(1998年～2006年)
三菱ふそうKC-FK727(4.6tトラック)を改造(積載量3500冊)



五代目はまかぜ1号(2016年～)
日野デュトロ(3.5t)を改造(積載量3000冊)



五代目はまかぜ2号(2022年4月～)
日野デュトロ(3.5t)を改造(積載量3000冊)
車体のマスコットキャラクターはマグネット製で着脱可能

移動図書館は1970(昭和45)年に2台の「はまかぜ号」で市内27か所の巡回を開始しました。当時、横浜市の図書館は1館のみで、地域へ図書館サービスを提供する第一歩でした。2007(平成17)年には排気ガス規制などの事情により「はまかぜ2号車」を廃止し1台となりましたが、市立図書館100周年を契機に2台目の車両を製作し、2022(令和4)年4月から再び2台で、市内全区に巡回します。

100周年記念事業 (詳細は90～111ページ)

記念式典・講演会をはじめ、全館で企画展示など100周年記念事業を行いました。

横浜市立図書館 100周年記念式典・講演会 (令和3年6月13日開催) 第一部「記念式典」

林文字横浜市長の主催者挨拶、ご来賓として横浜市会議長清水富雄様、神奈川県図書館協会会長(神奈川県立図書館長)南雲正二様からご祝辞を頂戴しました。

また、図書館開業100周年を記念して創立された横浜市立図書館功労者表彰では、受賞者代表の「鶴見歴史の会」「おはなしくまさん」に、鯉淵信也教育長が表彰状、感謝状を贈呈いたしました。



林文字横浜市長



市会議長清水富雄様



神奈川県図書館協会会長南雲正二様



横浜市立図書館功労者表彰時の様子



教育長(左)と、受賞者代表の「鶴見歴史の会」(中央)「おはなしくまさん」(右)

第二部「記念講演会『つなぐ とどける そこに本』」

高畑勲・宮崎駿両監督と共に、数々のアニメーション作品を送り出してきたスタジオジブリ・プロデューサー鈴木敏夫さん。その基礎を作り、世界をひろげたのは映画、そして本でした。これまでに製作された作品にまつわる膨大な記録の中から、過去・現在・未来を紹介した書籍『ALL ABOUT TOSHIO SUZUKI』。本書を編む過程を共に歩まれた、編集者の永塚あき子さんとの対談形式で講演会を行いました。



スタジオジブリ・プロデューサー鈴木敏夫様



講演会の様子

横浜市立図書館開業100周年記念展示(令和3年6月13日開催)

令和3年6月11日で開業100周年を迎えることを記念して、中央図書館で記念展示を行いました。『横浜市立図書館のあゆみ』のパネル展示のほか、「幻の図書館」の外観図が掲載されている本、関東大震災の被災を逃れたたった1冊の本『JAVA』等を展示しました。

『横浜市立図書館のあゆみ』パネルは、市立図書館全館で巡回展示を行いました。



100周年記念展示の様子



『JAVA (1855刊)』関東大震災の被災を逃れた唯一の本

SNSを活用した情報発信

Twitterを活用し、市立図書館開業100年の100日前から、毎日カウントダウンツイートを行いました。また期間限定の新しいTwitterアカウント「100ページ目のことばたち」を開設し、本の「100ページ目」に載っている、心に響く言葉を転載して発信しました。



カウントダウンツイート (100日前のもの)



期間限定ツイート「100ページ目のことばたち」

市立図書館ロゴマーク

横浜市立図書館開業100周年を記念して、電子申請や各図書館で、利用者の皆さまにご投票いただき、最も得票数が多かったロゴマークを、横浜市立図書館のロゴマークとして決定しました。これから先、横浜市立図書館を象徴するマークとして活用していきます。併せて、令和3年度の横浜市立図書館開業100周年を記念するために用いる、横浜市立図書館開業100周年記念ロゴマークも作成しました。



横浜市立図書館ロゴマーク

*投票期間

令和2年12月22日～令和3年1月11日

*投票結果(総数6,892票)

1位 B案 3,425票

(2位 A案 2,240票

3位 C案 1,227票)

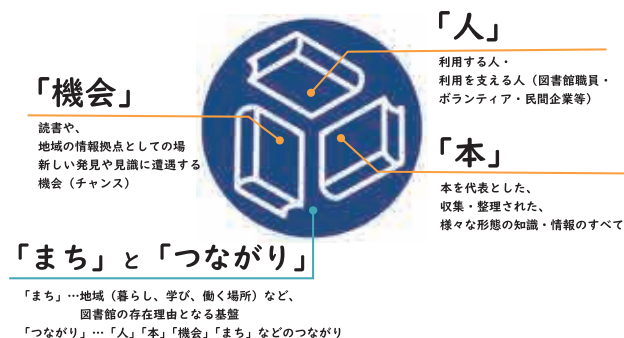


- 100年の知識を100年先も -
100周年記念ロゴマーク

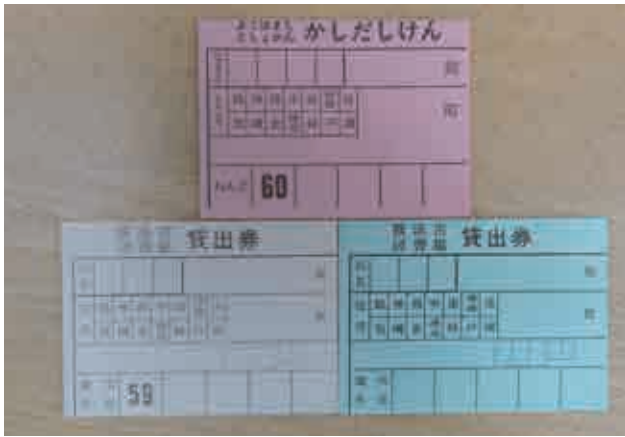
- 横浜市立図書館ロゴマークに込める思い -

3つの本は、図書館の構成要素である、「人」「本」「機会」。
3つの本で、中心に形作られた「Y」は「横浜」を、
土台となる円の部分は、図書館の存在の基盤となる「まち」と「つながり」を表します。

ロゴマーク全体で、「人」「本」「機会」「まち」をつなぐ、横浜市立図書館を象徴しています。



図書館カードや利用案内



図書貸出券（ブラウン式）



図書貸出券（ブラウン式）



図書貸出券（トークン方式）



貸出申込書



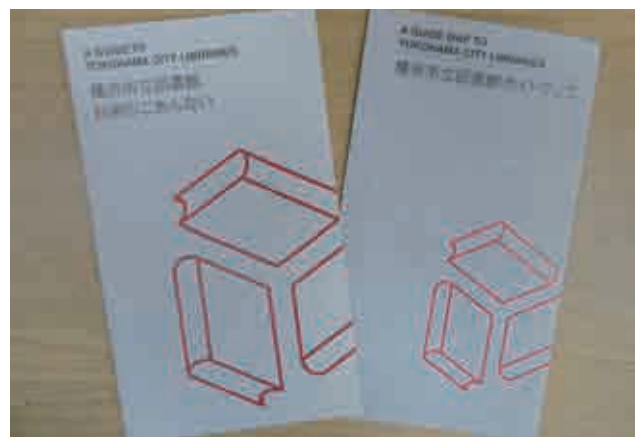
各図書館ごとに発行していた図書館カード



各図書館で作成していた利用案内

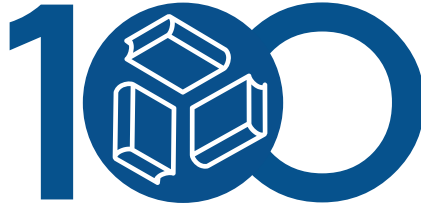


現在の図書館カード



中央図書館のロゴマークがデザインされた利用案内

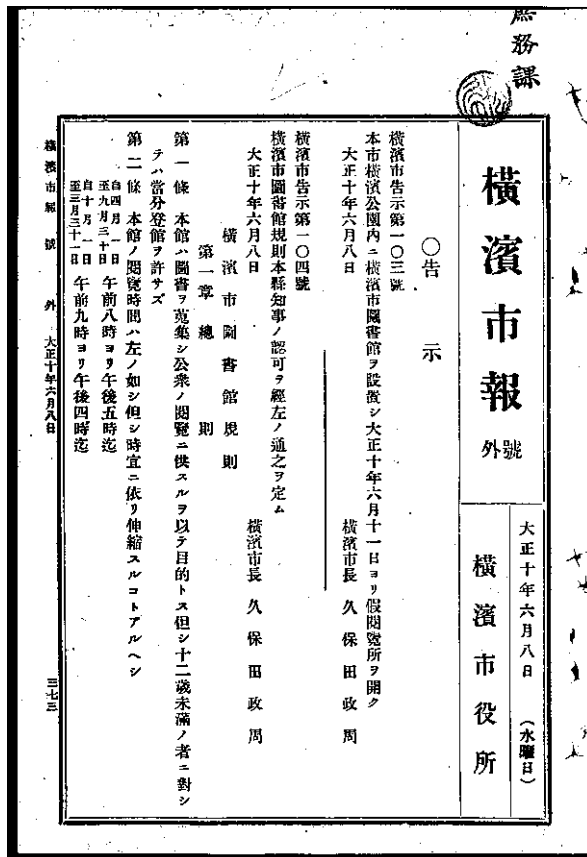
横浜市立図書館 100周年記念資料集



1921-2021

横浜市立図書館

- 100年の知識を100年先も -



市立図書館の開業を告示した横浜市報

「横浜市報号外」(大正10年6月8日(水))

横浜市告示第103号

「本市横浜公園内に横浜市図書館を設置し大正十年六月十一日より仮閱覽所を開く」とある

目次

教育長挨拶・中央図書館長挨拶	3
市立図書館100年のあゆみ	4
横浜市立図書館年表	12
障害者サービス事業の変遷	31
＜コラム＞	
団体に向けたサービス	13
障害のある方へのサービス	14
児童書の選定	17
蔵書の充実	18
図書館情報システムの導入	21
レファレンスサービス	22
音楽映像ライブラリー	25
学校連携事業	26
ヨコハマライブラリースクール	29
電子情報の提供	30
各図書館の歴史	
中央図書館	32
鶴見図書館	34
神奈川図書館	36
中図書館	38
南図書館	40
港南図書館	42
保土ヶ谷図書館	44
旭図書館	46
磯子図書館	48
金沢図書館	50
港北図書館	52
緑図書館	54
山内図書館	56
都筑図書館	58
戸塚図書館	60
栄図書館	62
泉図書館	64
瀬谷図書館	66
移動図書館	68
図書館功労者表彰	70
表彰状	72
感謝状	76
横浜市立図書館100周年記念事業	90
資料編	
横浜市図書館の変遷	112
歴代図書館長	114
組織図	114
主要刊行物一覧	117

横浜市立図書館開業100周年を迎えて



横浜市教育長
鯉淵 信也

横浜市は大正8（1919）年に、図書館の建設を決定し、開館に備えて約4,000冊の図書を集めていました。この図書の閲覧を求める市民の皆さまの声を受け、大正10（1921）年6月11日に仮閲覧所が開設されたのが、市立図書館の歴史の始まりです。

そのわずか2年後に起きた関東大震災、その後の太平洋戦争による接收など困難に見舞われながらも、市民の皆様をはじめ多くの方々からの御支援と図書館を待ち望む声に後押しされ、市立図書館は立ち上がることができました。

新型コロナウイルスへの警戒が続く現在も、徹底した感染防止対策の下で、利用者の皆様をはじめ、読み聞かせや図書の修理などに取り組む多くのボランティアの皆様が、市立図書館を支えてくださっています。皆様のお力添えに対し、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

人口減少社会の到来やグローバル化の一層の進展、人工知能の発展などにより、私たちの社会や生活は今後大きく変わることが予想されます。このような時代に、未来を担う子どもたちに、多様な本との出会いや深く学ぶ喜びを届け、すべての市民の皆さまの生涯の学びを支える場として、図書館は大きな役割を担います。今後の図書館の発展に御期待ください。

100年の知識を100年先も



横浜市中心図書館長
下澤 明久

横浜市立図書館は、大正10（1921）年に横浜公園内の仮閲覧所で開業してから100年、皆様と共に歩んでまいりました。市立図書館を利用し、支えてくださった皆様に、厚く御礼申し上げます。

関東大震災や太平洋戦争を経て、戦後の高度経済成長期の人口増加や、生涯学習の広がり、インターネットの普及など、100年の間に社会は大きく変わりました。市立図書館も、野毛坂の1館から18区すべてに整備され、図書館情報システムが稼働するなど、身近で便利なサービスを目指して、時代の大きな変化に対応してきました。100年目の節目となる令和3（2021）年は、電子書籍サービスや、移動図書館の事業拡大、図書取次サービスの拡充などをはじめ、新たな事業・サービスへの取組も始まりました。

このたび、市立図書館の100年を振り返るとともに、100周年記念事業を紹介した記念資料集を作成いたしました。市立図書館のこれまでの100年の歴史とこれから先の未来に思いを馳せていただき、次の100年も共に歩んでいただけますと幸いです。

横浜市立図書館は、これからも人と本をつなぎ、人と人をつなぎ、地域の情報を集め、地域をつなぐ拠点としての役割を果たしてまいります。

引き続き、横浜市立図書館の御利用・御支援のほど、よろしく御礼申し上げます。

【～1920年代】 市立図書館の開業

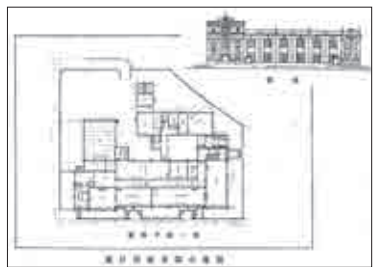
1919(大正8)年

▶ 12月15日

第8代市長久保田政周、開港60年・自治制30周年記念事業として図書館の建設を計画



横浜貿易新報(現神奈川新聞)1919年12月16日



横浜市図書館設計図(『横浜市要覧』より)

1921(大正10)年

▶ 6月11日

横浜公園内仮閲覧所で図書の閲覧を開始【横浜市立図書館の開業】

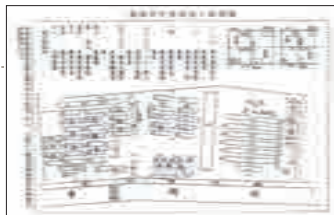


震災前横浜公園平面図(『日本公園緑地発達史』より)

1923(大正12)年

▶ 9月1日

関東大震災により仮閲覧所建物および蔵書焼失



関西村平面図(『横浜復興録』より)

▶ 12月16日

関西村内の中村町閲覧所で閲覧開始



中村町閲覧所(『横浜市図書館概要』より)



関西村全景(『デジタルアーカイブ都市横浜の記憶』より)

1924(大正13)年

▶ 3月20日

横浜公園内に仮本館竣工



第一仮本館(『横浜市図書館概要』より)



第二仮本館(『横浜市図書館概要』より)

1927(昭和2)年

▶ 7月23日

旧老松小学校跡(現在の中央図書館の場所)に横浜市図書館竣工



横浜市図書館全景(『デジタルアーカイブ都市横浜の記憶』より)

その頃の出来事

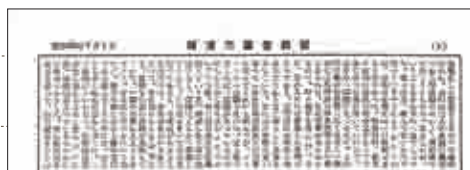
野毛山公園開園(1926)

【1930～1960年代】 戦時の不遇から野毛への復帰

1944(昭和19)年

▶ 10月

市庁舎の疎開により、横浜市図書館3階を
市会事務局、閲覧室を市会議場として使用



1945(昭和20)年

▶ 3月

横浜連隊区司令部が図書館へ移転、
図書館は戸部小学校へ移転

▶ 9月15日

戸部小学校疎開児童帰校のため、教育会館(紅葉ヶ丘)へ移転



「図書館の不遇時代」山本勇(「よこはま 横浜市図書館報(図書館よこはま)」第1号より)

1947(昭和22)年

▶ 8月27日

移転先から野毛坂の横浜市図書館に復帰



小中学生室(「図書館よこはま」第10号より)



「市の図書館移転 馴染み深い野毛坂へ」
(神奈川新聞1947年8月22日)

1950(昭和25)年

▶ 4月

館外個人貸出開始
(図書館法公布で閲覧無料となる)

1954(昭和29)年

▶ 10月

団体貸出事業開始

1964(昭和39)年

▶ 3月31日

市立図書館条例制定



団体貸出室(「図書館よこはま」第25号より)

その頃の出来事

横浜大空襲(1945) 図書館法制定(1950) 県立図書館設置(1954)

【1970年代】

2館目の市立図書館方面別図書館の建設へ

1970(昭和45)年

▶ 8月

移動図書館「はまかせ
1号・2号」巡回開始

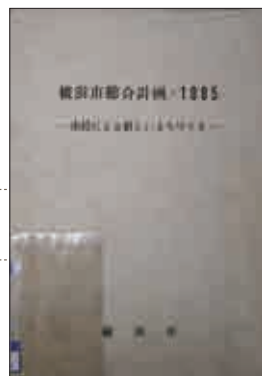


はまかせ号(1970年代撮影)

1972(昭和47)年

▶ 10月

『横浜市図書館行政の施策と展望』
(横浜市社会教育会議の意見具申。「いつでも、
だれでも、どこでも」利用できる図書館が早急に
建設されるよう要望)



『横浜市総合計画・1985』表紙



『横浜市図書館行政の施策と展望』表紙

1973(昭和48)年

▶ 11月

『横浜市総合計画・1985』
(中央図書館の整備、方面別図書館の建設)

1974(昭和49)年

▶ 10月6日

いそご
磯子図書館開館(2館目の市立図書館)
※1999(平成11)年に磯子区総合庁舎に移転開館



磯子図書館(1974年撮影)

1977(昭和52)年

▶ 4月12日

やまうち
山内図書館開館



山内図書館(1977年撮影)

1978(昭和53)年

▶ 11月1日

とつか
戸塚図書館開館、翌年より視覚障害者サービス開始



戸塚図書館(1978年撮影)

その頃の出来事

図書館法が公布された4月30日を「図書館記念日」に制定(1971)

【1980年代】 新たな図書館の構想

1980(昭和55)年

▶ 1月10日
つるみ
鶴見図書館開館



鶴見図書館(1980年撮影)

1980(昭和55)年

▶ 5月15日
かなざわ
金沢図書館開館



金沢図書館(1980年撮影)

1980(昭和55)年

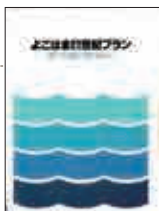
▶ 8月27日
こうほく
港北図書館開館



港北図書館(『横浜市のとしよかん'84』より)

1981(昭和56)年

▶ 12月
「よこはま21世紀プラン」策定
(1区1館建設及び
中央図書館建設方針を確立)



「よこはま21世紀プラン」表紙

1982(昭和57)年

▶ 5月7日
ほどがや
保土ヶ谷図書館開館



保土ヶ谷図書館(『横浜市のとしよかん'83』より)

1985(昭和60)年

▶ 1月17日
せや
瀬谷図書館開館



瀬谷図書館(1985年撮影)

1986(昭和61)年

▶ 5月14日
あさひ
旭図書館開館



旭図書館(1986年撮影)

1987(昭和62)年

▶ 1月21日
こうなん
港南図書館開館



港南図書館(1987年撮影)

1987(昭和62)年

▶ 10月21日
かながわ
神奈川図書館開館



神奈川図書館(1987年撮影)

1989(平成元年)

▶ 2月22日
いずみ
泉図書館開館



泉図書館(1989年撮影)

1989(平成元年)

▶ 3月14日
さかえ
栄図書館開館



栄図書館(1989年撮影)

1989(平成元年)

▶ 5月21日
なか
中図書館開館



中図書館(1989年撮影)

その頃の出来事

横浜開港資料館開館(1981)

横浜博覧会開催(1989)

【1990～1995年】 中央図書館開館と1区1館の達成

1990(平成2)年

▶ 1月

中央図書館建設のため横浜市図書館休館
3月に仮設館開館

▶ 9月

横浜市図書館を解体、中央図書館着工

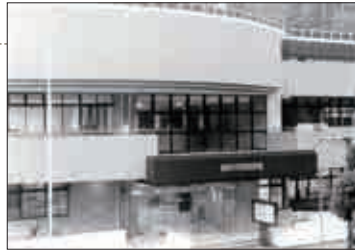


仮設館(『横浜市のとよかん'91』より)

1992(平成4)年

▶ 12月2日

みなみ
南図書館開館



南図書館(1992年撮影)

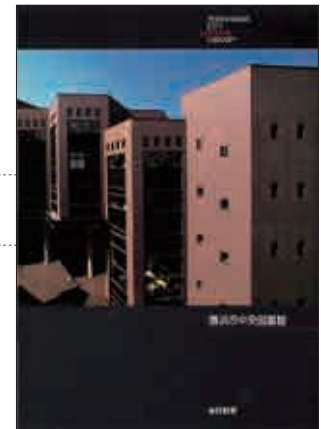
1994(平成6)年

▶ 4月26日

中央図書館全面開館
図書館情報システム全面稼働



中央図書館(2016年撮影)



『横浜市中央図書館施設概要』表紙

1995(平成7)年

▶ 4月25日

つづき
都筑図書館開館

▶ 5月9日

みどり
緑図書館開館
1区1館の達成



緑図書館(『横浜市の図書館'95』より)



都筑図書館(1995年撮影)



都筑図書館(1995年撮影)

その頃の出来事

横浜市歴史博物館開館(1995)

【1996～2000年】 便利な図書館へ

1996(平成8)年

▶ 1月

中央図書館で、来館困難な障害者に対する配送貸出サービス開始



配送貸出サービスで送る本

1998(平成10)年

▶ 3月

図書館ホームページ開設
インターネットによる蔵書検索
サービス開始



「横浜市の図書館'98」より



「横浜市の図書館2009」より



「横浜市の図書館2014」より

1999(平成11)年

▶ 11月

「予約図書情報ダイヤル(現「情報ダイヤル」)」サービス開始

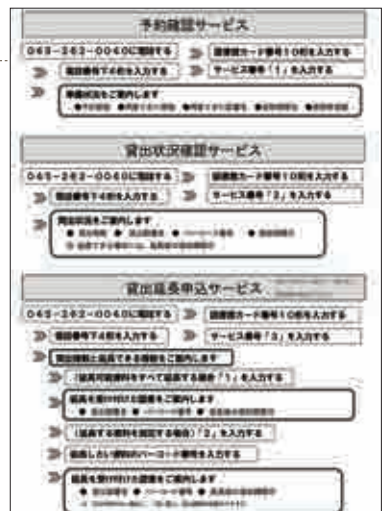


情報ダイヤルチラシ(現在のもの)

2000(平成12)年

▶ 4月

市立図書館全館で祝日等年間
30日の開館日拡大。中央図書館
の火曜日から金曜日の開館時間
を午後8時30分までに延長



その頃の出来事

子ども読書年(2000)

【2001～2010年】 新たな図書館サービス

2001(平成13)年

▶ 12月

市立図書館全館で月曜開館開始



【横浜波止場ヨリ海岸通異人館之真図】三代広重 「デジタルアーカイブ 都市横浜の記憶」より

2004(平成16)年

▶ 5月

Eメールレファレンスサービス開始



【神名川横浜新開港図】五雲亭貞秀 「デジタルアーカイブ 都市横浜の記憶」より

2005(平成17)年

▶ 4月

「Yokohama's Memory 都市横浜の記憶」を公開
(現「デジタルアーカイブ 都市横浜の記憶」)

▶ 10月

インターネットによる予約・貸出延長サービス開始

▶ 12月

図書取次サービス開始

(二俣川、東戸塚両行政サービスコーナー、奈良地区センターで予約図書
の貸出・返却を開始。2007(平成19)～2010(平成22)年に青葉区内地区
センター等7施設に拡充。2016(平成28)年に港南台地区センターで
開始)



東戸塚駅行政サービスコーナー図書取次カウンター(2017年撮影)

2007(平成19)年

▶ 2月

全館に「初めて出会う絵本
コーナー」開設

▶ 10月

全館で「ティーンズ・サービス」開始



中央図書館ティーンズコーナー(2021年撮影)



中央図書館初めて出会う絵本コーナー(2021年撮影)

その頃の出来事

子どもの読書活動の推進に関する法律制定(2001年)
文字・活字文化振興法制定(2005) 国民読書年(2010)

【2011～2020年】 読書活動の推進

2011(平成23)年

▶ 3月11日

東日本大震災(横浜市内でも震度5強を観測)

▶ 7月

節電のため中央図書館を除く市立図書館で、週1回輪番による休館を実施(9月まで)



東日本大震災時の中央図書館の様子

2013(平成25)年

▶ 6月

「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」公布(2014(平成26)年4月施行)

2014(平成26)年

▶ 3月

「横浜市民読書活動推進計画」策定



「横浜市民読書活動推進計画」表紙

2016(平成28)年

▶ 4月

都筑図書館、平成28年度子どもの読書活動優秀実践校等文部科学大臣表彰を受賞(2018(平成30)年度は鶴見図書館、2019(平成31)年度は緑図書館が受賞)



受賞の写真 都筑図書館



鶴見図書館



緑図書館

2017(平成29)年

▶ 3月

鎌倉市、川崎市、藤沢市、大和市と相互利用サービスを開始(2018(平成30)年4月から横須賀市、2020(令和2)年11月から町田市、2021(令和3)年4月から逗子市とも開始)



広域利用の図書館カード

2020(令和2)年

▶ 3月

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、図書館の一部サービスを停止(4・5月臨時休館、5月限定サービス再開)



新型コロナウイルス感染症対策をした様子(2020年6月撮影)

その頃の出来事

東日本大震災(2011) 市立学校への学校司書の配置開始(2013)

横浜市立図書館年表

年表内出典：①横浜市図書館60年の歩み－略年表－／②横浜の本と文化／③横浜市の図書館（図書館年報）／④職員録／⑤神図協会報

西暦	和暦	年月	できごと
1919	大正	8 12	久保田市長が開港60年・自治制30年記念事業として図書館の建設を計画。①③
1920	大正	9 4	市役所内に図書館建設事務所を設置。①
1921	大正	10 6	図書館令による文部省の設立認可を受ける。①③ 初代館長に伊東平蔵が就任。① 「横浜市図書館規則」と「横浜市図書館処務規程」が制定される。① 建設事務所内の仮閲覧所で図書の閲覧を開始。①
1922	大正	11 9	『横浜市図書館和漢図書分類目録 文学・語学の部』を刊行。①
1923	大正	12 9	関東大震災により蔵書1万3千冊と建物を焼失。①③
		12	中村町バラック内仮設閲覧所で閲覧を開始。①③
1924	大正	13 3	横浜公園内の旧閲覧所傍に仮本館が竣工し、落成記念の震災展覧会を開催。①③ 4 閲覧業務を実施。③ 9 館外貸出を実施。③
1925	大正	14 2	中村町閲覧所を廃止。①
		11	横浜公園内公衆集会所で「横浜史料古図錦絵展覧会」を開催。①
1926	大正	15 4	横浜公園内公衆集会所に移転。①
		12	館長伊東平蔵が退職し、早川友三が新館長に就任。①
1927	昭和	2 7	野毛坂旧老松小学校跡に新館竣工。①③
		8	「横浜史料展」を開催。①
1928	昭和	3 1	図書館講習会開催（神奈川県主催）。①
		5	『横浜市図書館増加図書目録』第1号を発行。①
1930	昭和	5 1	『横浜市図書館報』を創刊。①③
1931	昭和	6 7	横浜市図書館評議員会を設置。①
1934	昭和	9 3	館長早川友三が退職し、新館長に鈴木保太郎が就任。①
		11	巡回文庫開設。図書館週間を期に市内四カ所の隣保館に貸出文庫を開始。①②
1937	昭和	12 4	「横浜市図書館規則」一部改正。① 7 図書館を後援し、各種文化事業を行なう「横浜読書協会」の会員を募集。①③ 12 国民精神総動員によって出動軍人慰問用図書雑誌の寄附募集運動が起こる。①
1938	昭和	13 3	横浜読書協会創立総会開催。①
		8	図書館防衛隊設置。①
		9	灯火管制設備使用開始。①
1939	昭和	14 3	館長鈴木保太郎逝去し、渋谷国忠が館長事務取扱となる。①
		4	町村合併による市域拡張に伴い、都筑郡都岡村立図書館、同郡田奈村立図書館、鎌倉郡瀬谷村孫立図書館を廃止し、本館閲覧所として設置。①③
		12	鷗沢忠が館長に就任。①
1941	昭和	16 9	書庫と本館の大修理を行う。①
		12	太平洋戦争に突入したため、遮蔽設備不完全の一般閲覧室・特別室に代わって、点灯後は婦人室・休憩室・喫煙室を閲覧室にあてる。①
1942	昭和	17 4	館内での防空演習が行われる。①
		10	日本図書館協会が公共図書館に対し新刊図書優先配給制度を実施。加入する。①
1943	昭和	18 7	冊子「戦ふ市民の読書傾向」発行。①

西暦

和暦

年月

できごと

1944	昭和	10	複写閲覧業務開始（主に貴重図書を対象とする）。①
		12	金属の強制供出のより館内の金属製品が持ち出される。①
		19 2	食堂とその隣室に堅固な装備がほどこされ、市民の防護室として指定される。①
		4	慰問文庫開始（軍需産業戦士の宿舍、クラブなどに図書寄贈）。①
1945	昭和	10 10	市会事務局が図書館に疎開移転し、閲覧室は市会議場に模様替えされる。①③
		20 3	横浜連隊区司令部が図書館を接收したため、図書館・市会事務局は戸部小へ立ち退く。①③
			・ 鶴沢館長休職。①
		5	横浜大空襲では、図書館は連隊区司令部の消火作業で幸い焼失を免れる。①
1947	昭和	9	岡本孝正が館長事務を代行。①
			・ 図書館は教育会館に移転し、図書館の建物は連隊区司令部立ち退き後、米軍、ついで市復興局（後の建設局）が使用。①③
1948	昭和	11	岡本孝正が館長心得に就任。①
		22 8	図書館復帰運動が実り、野毛山に戻る。①③
1949	昭和	9	開架式で閲覧業務再開。図書館復帰式を挙行。①③
		23 4	全蔵書の閲覧開始。①
1950	昭和	1949 24 1	県より中央図書館業務を委託される。①
		10	図書館法公布を見越して横浜市図書館規則を改正。①
1951	昭和		・ フィルム・ライブラリー開設。①
		25 3	「神奈川県主要図書館蔵書総合目録」第一編 郷土資料編（神奈川県）を刊行。①②
		4	館外個人貸出開始。図書館法公布。閲覧料も無料となる。①③
		10	建設局、フィルム・ライブラリー立ち退きで全館使用可能となる。①
		11	岡本孝正が館長に就任。（『図書館報よこはま』第1号）
		26 1	製本講習会を実施。①
		2	第1回読書会を開催。①
		5	目録室設置。事務室を移動。①
		6	事務分掌改正（庶務・経理・資料・分類目録・閲覧・業務の各係に分け、別中央図書館係、図書選定委員をおく）。①②
		12	瀬谷閲覧所で図書館後援会結成のための懇談会を開催。①

コラム

団体に向けたサービス

1954（昭和29）年、配本を希望する団体の実費負担で、月1回配本する方式を開始しました。横浜市立図書館ではこの年を、団体貸出事業の開始としています。その後の中央図書館開館までの経緯は『横浜の本と文化』に委ね、本コラムでは1980年頃から現在までのサービスをまとめました。

1980（昭和55）年頃から、数人が同じ本を使って読書をする読書会への貸出し（以後「読書会貸出」という。）が各館で始まりました。横浜市立図書館の団体貸出は、個人貸出用資料とは別に、団体貸出専用の資料を用意し登録団体に提供するものです。一方読書会貸出は、規模が小さいなど団体貸出の登録要件を満たさない団体や、団体貸出の資料では活動内容に応えられない団体に対し、個人貸出用の資料を便宜的に貸し出すものでした。

その後、読書会貸出は、「読書会」の活動だけでなく、地域の読み聞かせ活動で使用するため、あるいは学校で教職員が児童生徒の学習や読書活動に使用するためにも利用されるようになっていきます。利用者のニーズに対応するため、2005（平成17）年に、市立図書館全館のサービスとして「読書会貸出」を位置づけるとともに、新たに市立学校の教職員に向けた「教職員向け貸出」も開始しました。さらに2010（平成22）年に、「読書会貸出」から「グループ貸出」へと名称等を変更し、読書会のほか、読み聞かせ等のボランティアなど、地域で活動するグループが広く利用できるサービスであることを明確にしました。

現在、横浜市立図書館は、図書館サービス及び読書の普及を図るとともに、地域の自主的な活動を支援することを目的に、次の2つの団体向けサービスを行っています。（学校へのサービスは「学校連携事業（26p）」をご覧ください。）

【団体貸出】市立図書館のうち6館で実施。構成員が30名以上の地域の自治会、町内会や地域文庫等の社会教育団体などへ1団体につき最多で1,000冊、1年間貸出を行う。団体貸出用の資料を提供。

【グループ貸出】市立図書館全館で実施。横浜市内で読書に関する活動を行う会員5名以上のグループを対象に、30冊まで、30日間貸出を行う。個人貸出用の資料を提供。

1952	昭和	27	1	■ 瀬谷閲覧所第1回運営委員会を開催。①
			5	■ 刀剣展覧会を開催。①
			6	■ 第1回音楽鑑賞研究会を開催。①
			7	■ 民間図書館（鶴見区下末吉・港北区中川青年会）への図書貸出を開始。①
			8	■ 市内学校図書館を対象に図書館事務講習会を開催。①
			9	■ 横浜詩祭を開催。①
			10	■ 建設局青写真室が移転を完了。①
			11	■ 「子供の集い」開催（浜田広介氏）。水上生活者慰安映画会を2回開催。①
				■ このころ横浜文化協会（労音の前身）が図書館内に置かれる。①
				■ 「横浜の文化を語る集い」を開催。①
				■ 読書週間中に、桜木町駅を中心に横浜市図書館案内、ブックガイドなど1,500枚を配布。①
1953	昭和	28	12	■ 図書館食堂を再開①
			3	■ 現代詩講演会開催。①
			4	■ 旧分類図書5万冊の分類切替えと目録の整備を3か年計画で開始。閲覧用目録整備。①
				■ 機構改革（庶務・整理・奉仕の3係を置く）。①
			10	■ 戦後初の利用者調査を実施。①
11	■ 文化の日開館。横浜市民文化講演会開催。①			
	■ 第1期改修工事、建物外面塗装、外柵の新設、水洗便所の大修理。（12月完了）①			
1954	昭和	29	1	■ 児童図書の館外貸出開始。①
			2	■ 禁帯出図書の範囲をせばめる。①
			3	■ 分類切替、総記・郷土資料部門を完了。①
			4	■ 関東地区公共図書館協議会第1回総会を本館で開催。①
			5	■ 小・中学生室新設、中学生予備閲覧室開設。第2閲覧室移転。公開書架室を拡充。①
				■ 図書館所蔵開港関係資料展示会を開催。①②
			7	■ 「横浜市図書館報」復刊。①②
			8	■ 館外貸出利用者との懇談会を開催。①
			9	■ 館長岡本孝正が退職し、草野徳義が新館長に就任。第1閲覧室を拡張。①

コラム

障害のある方へのサービス

横浜市立図書館の障害者サービスは、1978（昭和53）年の戸塚図書館開館時に県内で初めて対面朗読室・録音室を設置したことに始まります。翌年に実施した音声講習会（初級）の受講者を音訳者とし、本格的にサービスを開始しました。

その後、順次実施館を広げ、1994（平成6）年に中央図書館が開館すると、障害者サービスの中心館が戸塚図書館から中央図書館に移り、1996（平成8）年には来館困難な障害者に向けて資料の郵送貸出を開始しました。そして、2001（平成13）年の港南図書館・都筑図書館での対面朗読サービス開始により、市内の18館全館で対面朗読サービス実施体制が整いました。

障害者サービスの中心は、視覚に障害がある方に向けた、音訳者が資料を直接読み上げる対面朗読サービス・録音図書等の貸出し、心身に障害があり図書館への来館が難しい方に向けた、図書館資料の配送貸出サービスです。また、サビ工図書館（※1）の施設会員となり、全国の図書館等で製作した録音図書を活用して、サービスを提供しています。

障害者サービスの大きな契機として、2019（令和元）年度に、読書バリアフリー法（※2）が制定されました。本市においてもサービス対象者の拡充等、法の趣旨に則った対応を進めています。

また、デジタル化の動きも進んでいます。当初、カセットテープを用いていた録音図書は、2003（平成15）年度からはデイジー（※3）で製作しています。利用者も専用のデジタル図書再生機のほか、パソコンやスマートフォンで読書をしています。また2020（令和2）年度にはオンライン対面朗読、2021（令和3）年度には、本の文字情報をデジタル化し、パソコン等で音声読み上げができるテキストデイジーの製作も始めました。

読書バリアフリー法の成立、デジタル化の動き、利用者ニーズの多様化など、障害のある方へのサービスについても、時代の動きを敏感に感じ取り、時代に即したサービスを実施していくことが求められています。

※1 視覚障害者等の読書環境の整備に関する法律

※2 視覚障害者情報総合ネットワーク

※3 国際標準規格、デジタル・アクセシブル・インフォメーション・システムの略

1955	昭和	30	10	貸出文庫利用の配本希望団体に月1回配本開始。(団体貸出事業の開始) ①③ 読書週間行事として、一日図書館長(岸恵子氏)、書と古硯展を開催。①③			
			11	読書週間行事を開催。① 俳画展を香蘭会と共催。①			
			1	「本の歴史展」を開催。①			
			2	予備閲覧室を廃止し、情報室を新設。①			
			3	武田虎之助氏を招き、本館職員の研修会を開催。①			
			4	古書整理中に明治大正の書聖といわれた中林梧竹の条幅20本を発見。① 瀬谷青年団から松・あおき・甘茶・もみじ・つつじの寄贈を受ける。①			
			5	開港記念横浜歴史展を全館使用して開催。①			
			7	公開書架室を拡充し、カウンター前に移転。①			
			8	館長草野徳義が退職し、一時板橋教育長の館長事務取扱の後、島津為三が新館長に就任。①			
			10	読書週間に「子供の集い」「貸出文庫利用団体懇談会」「一日図書館員」の行事を実施。①			
1956	昭和	31	11	香蘭会俳画展「東海道俳画展」、優良児童図書展示会を開催。①② 横浜市図書館規則の館外閲覧規定を改正。①			
			4	横浜市図書館規則改正施行。横浜市図書館処務規程廃止。①			
			5	情報室を解消し、団体貸出専用の貸出文庫室を新設。郷土資料室を新設し、新聞閲覧室を一階の下足室に移す。① 瀬谷閲覧所が瀬谷公民館へ移転。① 中世文書研究会を開催(「郷土資料」指導 中村和伯氏)。①			
			6	郷土民謡を録音(「お茶場のうた」外)。①			
			7	表装同人会・雅心会共同展、合唱講座(指導 平岩康男氏)を開催。①			
			8	第1回利用統計委員会を開催。①			
			10	読書週間に「貸出文庫利用団体懇談会」「子ども読書グループの集い」「瀬谷閲覧所映画会」、紙芝居、コーラス、指人形、児童劇を実施。①			
			11	同人雑誌展、文芸講演会(小島信夫、瀬沼茂樹両氏)を開催。①② 戸塚区本郷図書館開館式。①			
			12	香蘭会俳画展を開催。①			
			1957	昭和	32	2	第1回整理規則作成委員会を開催。①
3	『横浜市図書館蔵書目録 第1編 郷土資料篇』を刊行。『郷土よこはま』発刊。①③ 古代の横浜を探る講演と映画会を開催。① 講演と映画の会を開催(淀川長治氏「映画の見方」) ①						
4	子ども読書サークル「芽ばえ会」が発足。①						
5	瀬谷閲覧所が毎週木曜日開館と決定。① 全国高校新聞連盟神奈川地区コンクール展示会が開かれる。① 郷土講演会開催-助野健太郎氏「横浜と天理教」、椎橋好氏「横浜風俗百年史」 ①						
7	小船幸次郎氏を招き、第1回音楽ゼミナールを開講。①②						
8	古老を招き「横浜民謡録音会」を開催。①						
11	サークル誌展示会を開催。図書館楽友会合唱団が水上学校、訓盲院等へ慰問巡回演奏を行う。①						
1958	昭和	33				3	横浜郷土研究会が発足。①
						5	開港百年記念展覧会「資料でみるハマの歩み」を開催。①
						7	『横浜市図書館蔵書目録 第2編 横浜絵・絵図篇』を刊行。①②
			8	巡回緑陰子供図書館を開設。日吉の慶応大学構内等で実施。①③ 第2回音楽ゼミナール公開講座開催(小船幸次郎氏) ①②			
			9	サンディエゴ写真展を開催。①			
			10	「子供のつどい」「楽友会合唱団第1回発表会」「製本講習会」「文化講演会」を開催。①			
			12	「館外個人貸出し及び読書会について」の調査の希望から読書会を発足。①			
			1959	昭和	34	1	国立国会図書館との相互貸借を開始。①
						2	第2回五大市図書館長会議を横浜で開催。①

1960	昭和	35	3	郷土講演会開催（岡本勇氏「掘り出された歴史」）。①
			4	参考事務の窓口新設。①
			5	姉妹市サンディエゴより資料の寄贈を受け、「サンディエゴ・横浜友情文庫」を特設。①③
			7	貸出文庫配本用自動車購入。①
			8	巡回緑陰子供図書館を新規購入の自動車でい、会場で貸出し翌日回収方式で実施。①
				音楽ゼミナール夏季公開講座を開講。①
			9	映画研究会（淀川長治氏）、初級合唱講座を開催。①
			10	郷土講演会開催（荒畑寒村氏「明治30年代の横浜－わがふるさとを語る」）。①②
				高校図書館との提携を促進するための懇談会を開催。製本講習会を学校図書館対象に実施。①
			11	科学講演会開催（岡豊比古氏「ラジオから電子計算機まで」）。①
1961	昭和	36	1	「人間の条件」の制作者、新藤兼人氏の座談会を開催。②
			2	館長島津為三が退職し、玉岡三男が新館長に就任。①
			3	ホールを間仕切して視聴覚室を新設。①
			4	館の企画運営にあたる運営委員会を設置。①
			5	日吉閲覧所開設。①③
				美術教室（彫刻）・洋画の部開設（中村好宏氏指導）。映画教室開催（淀川長治氏）。①
				学校図書館全国研究総会が開催される。①
			7	美術教室（彫刻）、合唱教室を開催。①
				巡回緑陰子供図書館開設（9か所12日間）。①
			8	瀬谷閲覧所が青少年の家へ移転。①
			10	市立小中高等学校図書館研究会の代表を招き、懇談会を開催。製本講習会実施（学校図書館・読書団体等を対象）。①
				地域読書団体の指導者を対象に読書指導研究会を開催（講師に石井桃子氏と三井為友氏）。①
12	香蘭会俳画展を開催。美術教室の作品を閲覧室や目録室に飾りつけ。①			
1962	昭和	37	1	新館増築のための基礎工事に着手。①
				古道探査「旧東海道を尋ねて」（指導 石井光太郎氏）を7月まで7回実施。①
			3	『横浜市図書館蔵書目録 第3編 伝記 日本各伝の部』刊行。本館所蔵伝記資料展開催。①
			5	美術教室「彫刻の部」開講（指導 井上信道氏）。①
			7	市内高等学校との懇談会開催。①
			8	新館増築工事竣工、第3閲覧室とする。（収容人員117名）①
			9	館長玉岡三男逝去。①
			10	創立40周年記念式典挙行。本館所蔵資料展開催。①
				『横浜市図書館40年略史』を記念出版。横浜郷土叢書第1巻『横浜もののはじめ』刊行。①
			11	文芸講演会（臼井吉見氏「生活の中の読書」）、グループ“目”作品展。映画講演会（津村秀夫氏）。古道探査「中原道をたずねて」実施。①
			12	中村八郎が新館長に就任。①
1963	昭和	38	2	「本を読む人々の集い」開催。①
			3	講演会開催（横山孝次郎氏「学校図書館と公共図書館について」）。①
				郷土講演会開催（丹波恒夫氏「"横浜浮世絵"と横浜を取材した本流浮世絵について」）。①
			6	教養セミナー開講（絵画、彫刻、音楽、映画、読書、郷土研究）。①
			9	「幕末明治の史蹟散歩」（バスによる初の史蹟めぐり）開催。本館増築工事始まる。①②
			12	旧館内部改築工事終了。この年だけ曝書を1日から15日まで実施。①
1963	昭和	38	1	増改築工事竣工。①③
			2	増築新館落成式典挙行。①

1964	昭和	39	2	横浜郷土叢書第2巻『横浜の伝説』刊行。 ^②
			3	文化講演会開催（小田実氏「この頃考えること」）。郷土講演会開催（和島誠一氏「三殿台遺跡について」）。 ^①
			4	米国文化センターでサンディエゴ市へ図書寄贈。 ^①
			5	団体貸出事務打合せ開催（図書貸出方式・取扱事務・配本計画・体験発表）。 ^①
			6	第3回教養セミナー開催。 ^①
			10	『横浜市図書館蔵書目録 第4編 伝記 外国人の部』刊行。 ^{①②}
				市内類縁機関連絡会を開催し、参考事務の協力を依頼。 ^①
				第9回全日本視聴覚教育研究大会分科会を開催。 ^①
			11	絵画・彫刻のセミナー卒業会員による作品展示会を開催。 ^①
			3	市史編集室が入るため、下足室・用務員室を改修工事。 ^①
1965	昭和	40	4	横浜市立図書館条例制定。 ^①
			4	市史編集室が1階に移転入館。 ^①
			5	館外奉仕活動に重点を置いた新事務分掌発表。 ^①
			7	小・中学生図書を青少年の家特別貸出用に転用し、辞書・年鑑類を自由閲覧とし、個人貸出は中止とする。 ^①
				夏季読書普及運動を実施。参加した団体は引き続き図書を利用することとなる。 ^①
			9	県図書館協会主催 第5回古文書解説講習会を開講。 ^①
			11	第1回利用者大会開催（記念講演・堀田善衛氏「社会と文学」、母と子の読書部会・グループ読書部会・読書普及部会の3部会と全体会議に約200人参加）。 ^①
			5	「英語教授と米国文学（'63～'64）資料展を開催（アメリカ文化センターの資料提供）。 ^①
			6	青少年の家読書普及研修会開催（講演・清水正三氏「本の知識」と配本用図書選定） ^①
			8	図書利用室にロッカー備えつけ、座席の指定制を実施。（108席） ^①
1966	昭和	41	9	保土ヶ谷地区利用者懇談会を鶴ヶ峰青少年の家で開催。 ^①
			10	長延寺から本市へ寄贈された約100年前オランダ領時使用の織布を受領。 ^①
			11	第2回利用者大会を開港記念会館で開催。 ^①
			2	鶴見区読書団体懇談会を市場青少年の家で開催（講師 八木義徳氏）。 ^①
			3	『横浜市図書館蔵書目録 第5編 郷土資料編その1』刊行。 ^{①②}
			4	個人貸出の保証金制度廃止等を内容とした横浜市立図書館規則が制定・施行

コラム

児童書の選定

市立図書館では、週に1回、全館の担当者が中央図書館に集まり、新刊児童書の内容報告会を経て購入する本を選んでいます。

中央図書館開館以前は、各区図書館に届く新刊書（「見計らい本」と言います。）を見ながら、それぞれの館が独立して購入する本を選んでいました。しかし、各館の担当者の人数は少ないため、日々出版される新刊を通読したり、同じテーマの本と比較の上での検討が困難でした。

1994（平成6）年の中央図書館開館に伴い、見計らい本の中央図書館への集約が決定。見計らい本の絶対数が増えるというメリットを生かしながら、担当者が実際に読んで図書を選定する体制づくりが検討され、「全館資料調整会児童分科会」が発足しました。1作品につき複数館の担当者が目を通し「選定票」（当時は「評価票」）を作成し、情報を共有します。担当者1人ずつの負担を減らしながらも、個人による選書の偏り避け、1冊1冊の児童書をしっかり見ていく方法です。

2000（平成12）年10月からは、選定票を電子化し、データベースとして情報の蓄積を開始しています。その後も、選定票作成作業の軽減化や情報発信を見込んだ書式の改訂を行い、今日まで選定票に基づく児童書の購入を続けています。

図書館の児童サービスにおいて、蔵書の充実がサービスの基礎となります。地区センターや学校に向けたテーマ別・年齢別のブックリストの作成、おはなし会、展示などの行事も、充実した蔵書なしには実現しません。選定票を全館で作成・蓄積・共有することにより、市立図書館全館が同質のレベルで児童書の収集ができ、1館ずつでは困難な広範囲で質の高いサービスを展開しています。

1967	昭和	42	3	される。①			
			6	規則の一部改正で業務係廃止、整理閲覧係と普及係が新設される。① 各区役所地域振興担当者と読書普及事業に関して懇談会を開催。① 保土ヶ谷地区読書団体懇談会を鶴ヶ峰青少年の家で開催。① 神奈川地区読書団体懇談会を神奈川区役所会議室で開催。①			
			7	町内会貸出懇談会を富岡小学校で開催。①			
			9	昭和41年度教養セミナー開講。①			
			10	市行政資料室、市大図書館等類縁機関との懇談会を開催。①			
			11	本を読む市民のつどい（第3回利用者大会）を横浜市教育会館で開催。①			
			3	町内会貸出懇談会を希望ヶ丘青少年の家等7会場で開催。①			
			4	菊田方氏より院展出品画「寂」の寄贈を受ける。① 有隣堂から旧横浜駅の模型の寄贈を受ける。①			
			6	中林梧竹の書、和鏡（池谷健治氏蔵）の展示と講演会を開催。①			
			9	本を読む市民のつどい（第1部講演会・松本清張氏「わたくしの創作手帖から」）。①			
			1968	昭和	43	11	本を読む市民のつどい（第2部図書館と利用団体責任者との連絡会議）。① 「横浜の古道と地図展」を開催。①
10	教養セミナー開講（石川利夫氏、加太こうじ氏、江川亮氏、生島順一氏らを招く）。①						
3	貸出団体責任者連絡会を開き、優良町内会に記念品を贈呈。①						
5	第1回母親読書教室開催（小田切秀雄氏、永井路子氏・渡辺茂男・松岡享子の各氏による講演等）。①						
6	北原白秋・岡本かの子等著名な歌人・作家から歌人尾山篤二郎氏あて書簡70余通を寄贈された榎田文氏に市長から感謝状と記念品を贈呈。①						
7	貸出団体責任者連絡会議を開催。①						
10	第2回母親読書教室を開催（松岡享子・佐々梨代子・荒井督子の各氏、瀬田貞二氏、西郷信綱氏、遠山茂樹氏らを招く）。① 「横浜と明治維新展」を開催。① 団体貸出事務担当者会議を開催。①						
11	エレファックスによる複写業務を開始。①						
12	斉藤由蔵氏より尾山書簡表装70点完成の上寄贈を受ける。①						
1969	昭和	44				3	『横浜市図書館蔵書目録 第6編 郷土資料編その2』刊行。①②
						5	第3回母親読書教室開催（代田昇・古田足日・八木田宣子・大川悦生の各氏、加藤幸三郎・高橋碩一・波木井皓三・河村十寸穂の各氏を招く）。①

コラム

蔵書の充実～市民の暮らしに役立つために～

100周年を迎えた市立図書館には、長い年月をかけて蓄積された蔵書があります。その蔵書は、戦前の貴重な資料から、郷土に関する資料、法律・医療・ビジネスなど身近な課題が解決できる資料、児童書まで多岐に渡ります。

『横浜市立図書館のあり方懇談会報告書』（2007（平成19）年8月）、『横浜市立図書館アクションプラン』（2011（平成23）年1月）において、「市民が必要とする資料・情報の提供を通じて市民生活を支援する」ことが市立図書館の将来像として確認されました。この将来像を、蔵書の面から達成するために、2011（平成23）年3月に、『蔵書再構成5か年計画』を策定。各館の蔵書を分析し、基本的な調べものに役立つ参考図書や基本書の補強を積極的に行いました。

続いて策定した『横浜市立図書館蔵書5か年計画』（2015（平成27）年2月）でも引き続き課題解決支援に取り組み、各図書館の特性にあわせ、子育てや医療など収集に力を入れる分野の検討やコーナー化を通して、情報にアクセスしやすくする工夫を行いました。また、「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」（平成25年6月5日条例第31号）の施行を受け、楽しみのための読書も重点取組に据え、児童向けロングセラー図書の補強などを行いました。

2021（令和3）年度現在は、『横浜市立図書館運営実行プラン』（2020（令和2）年3月策定）に基づき、各地域の情報拠点として、市民の暮らしに役立つ情報や学びのための読書に応えられるように、地域課題やニーズの把握に注力し資料を収集するとともに、紙媒体情報を補完するものとして、電子書籍やオンラインデータベースなどの電子媒体情報の提供強化にも取り組んでいます。これからも、どなたでも読書に親しめ、必要な情報を手に入れられるよう、蔵書の充実に努めていきます。

1970	昭和	45	書庫の増築工事完了。旧書庫内に電動ダムウェーター設置。①
			8 団体貸出向広報『ひろば』創刊①③
			9 第4回母親読書教室開催（中川李枝子・赤羽末吉・水口健・森久保仙太郎の各氏を招き絵本をテーマに講演）。①
			10 「横浜の埋立展」（吉田新田から現代まで）開催。①
			11 第5回母親読書教室開催（北川幸比古・山中恒・松谷みよ子・長崎源之助の各氏を招き、こどもと本をテーマに講演）。①
			12 郷土講演会開催（内田四方蔵氏「横浜の埋立について」ほか）。①
			2 郷土講演会開催（岡本勇氏「考古学よりみた横浜」、佐藤安平氏「横浜の原始・古代」）。①
			4 館内利用者向広報『こだま』創刊。①③
			5 第6回母親読書教室開催（齊藤尚吾・横谷輝・永井萌二・筑波常治の各氏、山田長夫・郡司篤孝・大門一樹・一杉哲也の各氏を招く）。①
			8 新館2階に便所新設。移動図書館用車庫及び書庫完成。①
			移動図書館車「はまかぜ」1号・2号が貸出開始（駐車場26か所）（トークン式）。①③
1971	昭和	46	第7回母親読書教室開催。①
			11 「横浜の交通展」（古道から地下鉄まで）開催。①
			2 郷土講演会開催（内田四方蔵氏「横浜の古道と紀行文」、長谷川弘和氏「鉄道よもやま話」）。①
			5 第8・9回母親読書教室開催（加古里子・吉村証子・松岡達英・矢島稔の各氏、飯島伸子・宇井純の両氏を招く）。①
			6 移動図書館利用者向新刊案内「はまかぜあたらしいほん」創刊。①
			10 第10・11回母親読書教室開催（砂田弘・来栖良夫・石上正夫・吉村徳三蔵の各氏、坂本忠芳・神田修・深谷鋤作・三輪定宜の各氏による）。①
			第1回団体貸出グループ代表者会議開催。①
			11 町内会貸出事務担当者会議開催。①
			創立50周年記念特別講演会開催（五木寛之氏「人間へのラヴコール」、黒井千次氏「私と小説」）。①
			12 創立50周年記念特別資料展「所蔵資料でみる横浜」を開催。①
			1972
2 横浜郷土叢書第3巻『横浜の新田と埋立』刊行。①			
4 社会教育委員会議中に図書館基本問題小委員会がおかれ、本市の図書館施策についての研究活動が開始される。（月1回定例会を開催）①			
5 配本用自動車の老朽に伴い新車を購入。①			
6 第12回母親読書教室開催（射場俊郎・星野安三郎・渡辺洋三・一番ヶ瀬康子・大川武・山田宗陸の各氏を招く）。①			
8 館長山崎運吉が転出し、太田俊二郎が新館長に就任。①			
「夏休み人形劇のつどい」を開催。①			
9 団体貸出利用団体連絡会議開催。①			
10 「横浜市図書館行政の施策と展望（意見具申）」が横浜市社会教育委員会議（議長 富田富士雄 関東学院大教授）より出される。①③			
第13回母親読書教室開催（乾孝・石子順・周郷博・城丸章夫・渥美寿二・寺内定夫の各氏を招く）。①			
11 郷土講演会開催（助野健太郎氏「明治の洋学校」、西ヶ谷恭弘氏「神奈川の城」）。①			
1973	昭和	48	12 「横浜の教育百年の歩み」展開催。①
			7 磯子図書館準備室開設。①
			8 雑誌のバックナンバーの館外貸出開始（永年保存のものは除く）。①
			10 第14回母親読書教室開催（古田足日・増村玉子・代田昇・渋谷清視・清水正三の各氏を招く）。①
			団体貸出利用団体連絡会議開催。①
			11 横浜国際港都建設審議会の答申により「横浜市総合計画1985」を確立、中央図書館の拡充整備と方面別図書館建設の方針が打ち出される。①③

1974	昭和	49	2	郷土講演会開催（青木美智男氏「開港前夜の民衆生活」、秋本益利氏「条約改正と横浜居留民」、高橋邦太郎氏「横浜異人館物語」）。①			
			3	「横浜もののはじめ展－文明開化とヨコハマ－」を開催。①			
				横浜郷土叢書第4巻『横浜もののはじめ』刊行。①			
			6	第15回母親読書教室開催（山住正己・金沢嘉市・斉藤次郎・横川嘉範・梅根悟各の各氏を招く）。①②			
				横浜歴史教室を横浜郷土研究会への委託事業として各区との共催で始める。①			
			9	郷土講演会開催（三宅正吉氏「港北ニュータウン遺跡について」、岡本勇氏「横浜の原始古代」）。①			
			10	第16回母親読書教室開催（沢登俊雄・飯坂良明・黒川俊雄・高橋暁正・木村和夫の各氏を招く）。①			
				磯子図書館開館。①③			
				「横浜の原始古代展」を開催。①			
				団体貸出利用団体連絡会議開催。①			
1975	昭和	50	6	第17回母親読書教室開催（矢野四年生・鳥越信・小松崎進・せなけいこ・石上正夫の各氏を招く）。①			
			9	団体貸出利用団体連絡会議開催。①			
			10	第18回母親読書教室開催（河村望・小林登美枝・佐藤竺・藤井治枝・橋本宏子の各氏を招く）。①			
1976	昭和	51	2	図書返却ポスト新設工事。①			
			3	郷土講演会開催（金井千介氏「地図でみる横浜の移り変り」）。①			
				「地図でみる横浜の移り変り展」を開催。①			
			4	山内図書館準備室発足。①			
			6	第19回母親読書教室開催（寺村輝夫・川崎大治・湯浅精四郎・石子順造・早船ちよの各氏を招く）。①			
			8	夏休み人形劇開催。①			
			9	団体貸出利用団体連絡会議運営委員会が発足。団体貸出し利用の来館団体に対し、図書運搬助成金を交付。団体貸出し連絡会議を飛鳥田市長出席のもとに開催。①			
			10	第20回母親読書教室開催（宇井純・小林勇・柳澤文徳・松井やより・竹内直一の各氏を招く）。①			
			1977	昭和	52	3	郷土講演会開催（池田千代吉氏「横浜の芝居」、丸岡澄夫氏「横浜の映画」）。①
							「横浜の演芸展」を開催。①
4	山内図書館開館。①③						
5	移動図書館駐車場「元石川」と「青葉台」を廃止し、「上郷」（戸塚区・当時）と「泥亀」（金沢区）を新設。①						
6	第21回母親読書教室開催（小河内芳子・猪熊葉子・斉藤惇夫・田島征三・谷川俊太郎の各氏を招く）。①						
	図書館が従来の課体制から、部体制に昇格。大森新一が横浜市図書館長に就任。①						
	移動図書館駐車場「上郷」（戸塚区・当時）を新設。③						
8	夏休み映画会開催。①						
	移動図書館車老朽により新車更新（ガソリン車からディーゼル車に）。①						
	戸塚図書館準備室発足。①						
10	第22回母親読書教室開催（紀田順一郎・松浦総三・早船ちよ・代田昇・森崎震二の各氏を招く）。①						
12	冬休み映画会開催。①						
1978	昭和	53	2	「幕末明治のヨコハマと横文字展」開催。①			
				郷土講演会開催（中村文也氏「明治初期の横浜」）。①			
			6	第23回母親読書教室を県青少年会館で開催（なだいなだ・石塚善太郎・加古里子・根岸貴子・清水正三の各氏を招く）。①			
			10	鶴見図書館準備室、金沢図書館準備室発足。①			

1979	昭和	54	第24回母親読書教室を婦人会館で開催（塚本哲・室俊司・志賀信夫・中村八朗・武田京子の各氏を招く）。①	
			11	戸塚図書館開館。本市で初めてコンピュータ方式を採用。①③
				史蹟めぐり「親子で歩こう旧東海道（保土ヶ谷→平戸）」を実施。①
				講演会を教育文化センター・ホールで開催（樋口清之氏）。バス見学会「横浜の原始古代を探る（新子安→市が尾）」を実施。「横浜をひらいた黒船展」を開催。①②
			12	「古文書で学ぶ横浜の歴史」を教育文化センターに展示。①
				図書館契約書店選考委員会を設置。①
			2	移動図書館駐車場「本牧」（中区）と「日野」（港南区）を新設。③
			3	春休み映画会開催。①
				港北図書館準備室発足。①
			5	戸塚図書館で視覚障害者サービス（対面朗読・カセット貸出・拡大読書器設備）を開始。③
			6	館長大森新一が転出し、牧野博明が新館長に就任。①
9	「鶴見区文庫の集い」を東寺尾図書館で開催。①			
10	「神奈川区文庫の集い」を斎藤分町南部町内会館で開催。①			
	第25回母親読書教室を教育文化センターで開催（佐野美津男・佐藤英和・猪熊葉子の各氏を招く）。①②			
11	「西区文庫の集い」を三ツ沢ハイタウン子供会で開催。①			
12	「中区文庫の集い」を元町自治運営会で開催。①			
1980	昭和	55	1	鶴見図書館開館。①③
			2	「南区文庫の集い」を永田町第1・第2町内会館で開催。①
				「港南区文庫の集い」を上大岡第2町内会館で開催。①
			5	金沢図書館開館。①
				配本車老朽により新車更新。①
				金沢図書館開館開館に伴い、移動図書館駐車場「泥亀」と「谷津坂西部」を廃止し、「片倉」（神奈川区）と「港南台中央公園」（港南区）を新設。①③
			6	「保土ヶ谷区文庫の集い」を権太坂境木自治会館で開催。①
				磯子図書館及び山内図書館をコンピュータ方式に転換。①③
			7	「旭区文庫の集い」を鶴ヶ峰青少年の家で開催。①
				館内利用者向広報『こだま』と館外利用者向広報『ひろば』を統合して、『図書館報よこはま』を発刊。①③

コラム

図書館情報システムの導入

業務の効率化と円滑なサービス提供を実現するため、現在では多くの公共図書館が図書館情報システムを導入しています。本市では1978（昭和53）年11月に開館した戸塚図書館で初めて図書館業務にシステムを導入しました。当時の最新のシステムではありましたが、リアルタイムで利用の状況を把握することはできませんでした。課題はありながらも、貸出記録に機械処理を導入することによって、貸出しや返却、統計等の業務での大幅な効率化が実現し、横浜市立図書館のシステム化にとって大きな第一歩になりました。戸塚図書館へのシステム導入を皮切りに次々とシステムが導入され、次の段階として中央図書館の建設にあわせた市立図書館全館のネットワーク化が計画されました。その後、市内全域にわたる広範なネットワークの整備は着々と進み、1994（平成6）年の中央図書館開館とともに大型汎用コンピュータによる図書館情報システムが新たに構築され、市立図書館全館のネットワークが完成しました。全館が所蔵する膨大な資料の一元管理や窓口業務のシステム化が実現したことで、図書館情報システムは図書館業務とサービスの双方を支える基盤になったといえます。

時代の進化とともに人々の情報ニーズは高度化し、図書館では豊富な情報源に容易にアクセスできるようなサービスが求められるようになりました。1998（平成10）年3月には図書館ホームページを開設し、インターネットを通じた蔵書検索が可能になり、2005（平成17）年10月からは貸出延長や予約申込もインターネットから申し込みできるようになりました。このようにして、図書館情報システムは情報技術の進展やインターネットの急速な普及といった社会環境の変化に対応させながら機能の向上に努め、2003（平成15）年、2013（平成25）年と、およそ10年周期でシステムを更新してきました。2024（令和6）年1月に稼働予定の次期図書館情報システムでは新たなICT技術を取り入れた機能の拡張や多様化する利用者ニーズに即したサービスの提供を目指します。

1981	昭和	56	8	「横浜市新総合計画」策定へ向けて館内で討議を始める。①
			8	港北図書館開館。①③
			9	中国上海市友好代表団が来館し、図書交換式を行い、上海図書館との間に年1回の図書交換を開始。①③
			10	「磯子区文庫の集い」を虹の輪文庫で開催。①
			10	「金沢区文庫の集い」を金沢図書館で開催。①
				全館研修（アン・ヘリング氏「児童文学ーももたろうをめぐるー」）。①
				県立図書館協会が「図書館報制定30周年記念・図書館まつり」を県政総合センターで開催。①
				第26回母親読書教室を教育文化センターで開催（五木寛之・木島始・内田庶・粒来トヨ子・松岡享子の各氏を招く）。①
			11	「港北区文庫の集い」を港北図書館で開催。①
			12	「緑区文庫の集い」を緑区役所で開催。①
			1	保土ヶ谷図書館開設準備室発足①
			1982	昭和
	中国遼寧省図書館との図書資料交換を開始（年1回郵送方式）。①③			
2	「瀬谷区文庫の集い」を瀬谷区役所で開催。①			
3	「横浜市中央図書館基本構想」発表。②			
4	各館を結ぶ連絡車の巡回を開始。①③			
	磯子図書館と港北図書館で、図書整理をそれぞれ高等養護学校と上菅田養護学校に委託。①			
5	館長牧野博明が転出し、鈴木武が新館長に就任。①			
9	第27回母親読書教室を教育文化センターで開催（中西進・平田喜信・今野達・麻原美子・松崎仁の各氏を招く）。①			
10	横浜市図書館創立60周年記念講演会を教育文化センター・ホールで開催（永井路子氏講演「歴史小説の周辺」）。①③			
	60周年記念パネル展「絵はがきでみる横浜のあゆみ」を教育文化センターで開催。①③			
12	「よこはま21世紀プラン」策定。1区1館建設及び中央図書館建設方針を確立。③			
	3	亀田威夫氏から赤穂浪士関係資料を寄贈していただき「亀田文庫」として受入・整理を行う。③		
	3	「横浜市中央図書館基本計画I」立案・報告。②		
	5	保土ヶ谷図書館開館。③		

コラム

レファレンスサービス

図書館の資料や機能を使って、調べ物や資料・情報探しのお手伝いをするレファレンス。1949（昭和24）年の図書館法成立以降、重要視されるようになったサービスで、参考業務・参考事務とも呼ばれます。過去の『横浜市図書館年報』を読み解くと、読書相談窓口の設置（1956（昭和31）年）、参考図書の集中配架（1957（昭和32）年）、いよいよ専任職員を1名配置（1959（昭和34）年）と、先達の苦闘を迎えることができます。その後、レファレンスサービスは市立図書館でも根幹業務として定着し、窓口・電話・郵便での受付に加え、電子メール（2004（平成16）年）やホームページ上の専用問合せフォーム（2016（平成28）年）へと拡大し、より相談しやすい環境の整備に努めてきました。これまでに調査・回答したレファレンス事例の一部は市立図書館ホームページや国立国会図書館レファレンス協同データベース（国立国会図書館が全国の公共図書館等と共同で構築しているデータベース。本市は2009（平成21）年より参加）で公開しています。また、司書が日々の業務の中で蓄積した調べ方や、書名やキーワードだけでは探しにくい情報源をまとめ、「調査のミカタ」として2006（平成18）年から発行、2009（平成21）年からは市立図書館ホームページでも公開しています。

本市職員に向けては、日常業務や新たな事業の企画立案等に必要な情報の提供を「庁内情報拠点化事業」として行っています（1999（平成11）年開始）。当時、全国的に先駆的な事例であり、図書館の調査機能を市政に活用できる事業として注目されました。

調査にあたっては、市立図書館所蔵資料やデータベースなどのデジタル情報源に留まらず、他機関との連携、インターネット情報の精査なども行った上で回答し、多様化・高度化する情報ニーズに応えられるよう努めています。

西暦

和暦

年月

できごと

1983	昭和	58	保土ヶ谷図書館開館開館に伴い、移動図書館駐車場「瀬戸ヶ谷」「川島」「日本鋼管、住友」「常磐会」を廃止し、「宮向」（神奈川区）「竹山」（緑区）を新設。 ^③	
			9	戸塚図書館で台風による地下書庫の冠水被害。 ^③
			10	第28回母親読書教室を開催（高橋均・松川哲哉・太田静行・吉田桂二・金森トシエの各氏を招く）。 ^③
1984	昭和	59	2	戸塚図書館で団体貸出開始。 ^②
			3	「横浜市中心図書館基本計画Ⅱ調査報告書」報告。 ^②
			9	第29回母親読書教室を開催（小沢正・中村妙子・山田馨・小松崎進・西内ミナミの各氏を招く）。 ^③
1985	昭和	60	3	「横浜市中心図書館基本計画調査Ⅲ報告書」報告。 ^②
			10	第30回母親読書教室を開催（名取弘文・竹内敏晴・渡辺久子・小河内芳子・吉田新一の各氏を招く）。 ^③
			11	国立国会図書館和図書館データベースのオンライン検索実験を実施（2か月間）。 ^③
1986	昭和	61	1	旭図書館開設準備室発足。 ^②
			3	保土ヶ谷図書館で団体貸出開始。 ^③
			4	『本牧表日記』刊行。 ^③
1987	昭和	62	4	区図書館で登録有効期間を4年と定め、登録更新を開始。 ^③
			6	移動図書館駐車場「北方」（中区）「中村」（南区）「笹山」（保土ヶ谷区）「川和」（緑区）を新設。 ^③
			9	館長鈴木武が転出し、勝田充久が新館長に就任。 ^{⑤④}
1988	昭和	63	1	団体貸出の配本業務廃止。 ^③
			10	港北図書館で視覚障害者サービスを開始（対面朗読、レファレンス、録音図書と拡大写本の製作・貸出）。 ^③
			11	第31回母親読書教室を開催（佐々木孝次・芹沢俊介・村瀬学・清水真砂子・最首悟の各氏を招く）。 ^③
			1	全館にファクシミリを導入。各館の所蔵調査が徹底される。 ^③
			4	移動図書館での貸出冊数制限を2冊から3冊に変更。 ^③
			5	移動図書館駐車場「高田」（港北区）「霧が丘」（緑区）を新設。 ^③
			10	旭図書館開館。 ^③
			10	中央図書館基本構想委員会を設置。延べ6回の委員会を開催。 ^③
			11	第32回母親読書教室を開催（本田和子・山本哲士・佐々木賢・森田伸子・上笠一郎の各氏を招く）。 ^③
			11	ストーリーテリング講習会開催（小澤俊夫氏らを招く）。 ^③
			1	港南図書館開館。 ^③
			3	講演会開催（斎藤龍氏「横浜と音楽」）。 ^③
4	地域図書館の火～木曜日の開館時間を午後7時までに延長（金曜日は以前から7時）。 ^③			
5	移動図書館駐車場「奈良北」（緑区・当時）「桂台」（栄区）を新設。移動図書館で紙芝居の貸出を始める。 ^③			
5	各区図書館で文化事業を展開するため、予算に「文化事業費」が位置付けられる。 ^②			
5	『横浜市中心図書館基本構想委員会報告書』提出される。 ^③			
6	館長勝田充久が転出し、塩田敏男が新館長に就任。 ^{⑤④}			
9	第33回市民読書教室を開催（村瀬春樹・長澤信子・福本英子・岡本浜江・高見沢たか子の各氏を招く）。 ^③			
10	神奈川図書館開館。 ^③			
11	各図書館報を統合して横浜市立図書館報『横浜』創刊。 ^③			
11	「文化の日」開館開始。 ^③			
12	保土ヶ谷図書館、金沢図書館で視覚障害者サービス開始。 ^③			

西暦	和暦	年月	できごと				
1988	昭和	63	1	山内図書館改修工事竣工、団体貸出開始。 ^③			
			3	横浜市図書館貴重資料展示会「100年前の横浜大探検」(会場・横浜松坂屋)開催。 ^③			
				中図書館、泉図書館、栄図書館の建設に着手。 ^③			
			4	移動図書館駐車場「並木」(金沢区)「荏田」(緑区・当時)を新設。 ^③			
				外部の講師を招き、文化講演会と「工作会」などの児童向け講習会の全館実施を開始。 ^{②③}			
1989	平成	元	9	移動図書館車「はまかぜ」2号の車両を更新。 ^③			
				第34回市民読書教室を開催(山辺昭代・国松俊英・吉谷昭憲・渡辺雄二・岡崎務の各氏を招く)。 ^③			
			2	泉図書館開館。 ^③			
			3	栄図書館開館。 ^③			
			4	移動図書館駐車場「鴨志田」(緑区・当時)を新設。 ^③			
			5	『横浜市中心図書館資料収集検討委員会報告書』が提出される。 ^③			
				中図書館開館。 ^③			
				「こどもの日」開館開始。 ^③			
			8	移動図書館車「はまかぜ」1号の車両を更新。 ^③			
			9	第35回市民読書教室を開催(村田栄一・斉藤洋・天野寛子・田中真砂子・松本キミ子の各氏を招く)。 ^③			
			11	「よこはま21世紀プラン」第3次実施計画策定により、中央図書館・分館を含めた図書サービスネットワーク確立の方針を打ち出す。 ^③			
1990	平成	2	1	中央図書館建設のため横浜市図書館休館。登録更新を停止。 ^③			
			3	横浜市図書館仮設館開館。 ^③			
				山内図書館で視覚障害者サービス開始。 ^③			
			4	移動図書館駐車場「左近山」(旭区)を新設。 ^③			
			6	木下勝裕が新館長に就任。 ^{⑤④}			
			9	横浜市図書館を解体、中央図書館着工。 ^③			
			10	泉図書館で視覚障害者サービス開始。 ^③			
				第36回市民読書教室を開催(佐橋慶女・藤田雅子・河島修・川越厚・桜井里二の各氏を招く)。 ^③			
			1991	平成	3	4	神奈川県図書館情報ネットワークシステム(KL-NET)に加入。 ^③
							バンクーバー公共図書館との図書交換開始。 ^③
10	中図書館で視覚障害者サービス開始。 ^③						
11	第37回市民読書教室を開催(北原恵子・正木健雄・平井富雄・永井明・砂田登志子の各氏を招く)。 ^③						
1992	平成	4	6	佐藤一郎が新館長に就任。 ^④			
			9	学校週5日制に伴い、図書館利用の促進を図るためのリーフレット「としょかんはたのしいよ」を小学校1年生全員に配布。 ^③			
				「土曜こども劇場」として、各館で年1回、第2土曜日に図書館に対する親しみの増進、読書への動機づけとなるような事業を開始。 ^③			
			10	栄図書館で視覚障害者サービス開始。 ^③			
				第38回市民読書教室を開催(ゆりはじめ・藤富保男・越智登代子・藤井誠・大塚英志の各氏を招く)。 ^③			
			12	南図書館開館。 ^③			
1993	平成	5	1	南図書館開館開館に伴い、移動図書館駐車場「別所」「六ッ川」「大岡」を廃止し、「西菅田」(神奈川区)「杉田大谷」(磯子区)「名瀬」(戸塚区)を新設。 ^③			
			10	横浜市図書館仮設館の個人貸出・閲覧業務を停止。 ^③			
1994	平成	6	1	各図書館で「横浜市立図書館情報システム」による窓口業務開始。 ^③			
				個人貸出の冊数を3冊から6冊に引き上げる。 ^③			
			2	中央図書館一部開館。 ^③			
				館長佐藤一郎が中央図書館担当部長に就任、塩田敏男が新館長に就任。 ^⑤			
			4	中央図書館全面開館。図書館情報システム全面稼動。 ^③			
	10	中央図書館で「横浜市の学童疎開展」、関連映画会、講演会、シンポジウム等を開催。 ^③					

1995	平成	12	<ul style="list-style-type: none"> 南図書館で視覚障害者サービス開始。^③ 「ゆめはま2010プラン」基本計画策定。1区1館達成後、図書館8館の新設と地区センター等とのネットワーク整備を計画。^③ 		
		7	<ul style="list-style-type: none"> 4 都筑図書館開館。^③ 5 緑図書館開館。1区1館の達成。^③ 6 都筑図書館、緑図書館開館開館に伴い、移動図書館駐車場「霧が丘」「荏田」「川和」を廃止し、「南日吉」（港北区）を新設。^③ 		
		1996	平成	8	<ul style="list-style-type: none"> 1 中央図書館で来館困難な障害者に対する配送貸出サービス開始。^③ 3 神奈川図書館で視覚障害者サービス開始。^③ 5 中央図書館でCD-ROM検索サービス（新聞・雑誌記事、判例情報の検索）開始。^③
				12	<ul style="list-style-type: none"> 緑図書館で視覚障害者サービス開始。^③
1997	平成	9	<ul style="list-style-type: none"> 3 磯子図書館、移転再整備工事着手。^③ 		
1998	平成	11	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館で市民講座「よこはま新発見」を委託事業として開催（全8回）。^③ 		
		10	<ul style="list-style-type: none"> 2 神奈川図書館で『横浜シネマ商会』作品目録を発行。^③ 3 図書館ホームページを開設、インターネットによる蔵書検索サービス開始。^③ 中図書館で『本牧波乱の100年』写真集を刊行。^③ 旭図書館で視覚障害者サービス開始。^③ 4 移動図書館駐車場「綱島東」（港北区）を新設。^③ 「考えるためのブックリスト」として「環境とは何か」「地球温暖化を考える」の2種類のブックリストを発行。^③ 9 移動図書館車「はまかぜ」2号の車両を更新。車椅子対応車両の導入。^③ 11 中央図書館で市民講座「素顔のよこはま」を委託事業として開催（全5回）。^③ 図書館サービス調査事業を実施（来館者調査（2月から3月に来館者、7月から8月に市民向けアンケートを実施））。^③ 		
1999	平成	11	<ul style="list-style-type: none"> 3 鶴見図書館で視覚障害者サービス開始。^③ 横浜市立図書館所蔵資料のアピールを目的とした「Yokohama's Memory」事業の開始。（ホームページでの公開、絵葉書の発行、展示会の開催）^③ 		
			4	<ul style="list-style-type: none"> 「来館困難な市民に対する図書館サービスプロジェクト」の調査を受けて、月に1回病院、地域ケアプラザ、高齢者デイケアサービスポイント、障害者更生施設への巡回を本格実施。（平成10年度に試行）^③ 館長塩田敏男が退職し、梅田誠が新館長に就任。^{⑤④} 「庁内情報拠点化事業」開始。^③ 	
		11	<ul style="list-style-type: none"> 磯子図書館、磯子区総合庁舎に移転開館。^③ 「予約図書情報ダイヤル」サービス開始。^③ 		

コラム

音楽映像ライブラリー

1994（平成6）年度に全面開館した中央図書館の地下1階フロアには、当時の国内公共図書館では珍しい大規模な音楽映像ライブラリーが設置されました。地下1階フロアを中心に、各階に合計72席の視聴座席を設置し、座席の受付と音楽映像ソフトの送信を地下1階カウンターで一括して行っていました。

開館当初に収集された資料は、音声資料ではコンパクトディスク（以下、CD）約3,300枚、映像資料ではビデオテープ約5,600本のほか、主流になるメディアと目されていたレーザーディスク（以下、LD）約1,400枚を所蔵していました。

そして、国内最大といわれた楽譜のコレクションを地下1階フロアに配架し、楽譜を見ながら曲を視聴することができました。

2000（平成12）年度からは、新しいメディアとしてDVDの購入が始まりました。視聴方法もカウンターから音楽映像ソフトを送信する形式から、座席で利用者自身が再生機器を操作して視聴する形式に変わりました。

その後、時代の流れからビデオテープやLDはだんだんと世の中から消えていき、メーカーが再生機器の生産を終了したため、既存の再生機器をメンテナンス、修理しながらサービスを続けていましたが、2021（令和3）年度をもってビデオテープとLDのサービス提供を終了することとなりました。

時代とともに変遷していった音楽映像ライブラリーがある中央図書館地下1階フロアは、2022（令和4）年度から「交流と学びのフロア」として、グループで学習や討議ができるフロアに生まれ変わります。併せて、CD、DVD等の音楽映像資料は、引き続き同フロアの視聴ブースで市民の皆様にご提供していきます。

2000	平成	12	磯子図書館で視覚障害者サービス開始。 ^③
		12	3 瀬谷図書館で視覚障害者サービス開始。 ^③
		4	市立図書館全館で祝日等年間30日の開館日拡大。中央図書館の火～金曜日の開館時間を午後8時30分までに延長。 ^③
2001	平成	13	- 「情報通信技術（IT）講習推進特例交付金」の交付によるIT講習会を市立図書館で15館で開催（延べ285回）。 ^③
2002	平成	12	市立図書館全館で月曜日開館開始。 ^③
		14	10 音楽・映像ライブラリーでシステム更新を実施。一時利用停止。 ^③
2003	平成	12	「横浜市中期政策プラン」策定。地区センターとの連携、図書館情報システムの改善を計画。 ^③
		15	1 中央図書館で企画展示「忠臣蔵三百年・読み継がれた元禄事件」を開催。 ^③
		1	図書館情報システムを更新。 ^③
2004	平成	-	子どもの読書に係わる市民および学校、地域施設などにおける活動実態や要望を把握することを目的に「読書ボランティア調査事業」を実施。 ^③
		-	中央図書館で「情報検索講座」を開催。 ^③
		-	視覚障害者支援事業でデージー録音図書（CD）の製作を開始。 ^③
		16	3 蔵書検索ページに「BOOK」データベースの目次・要旨・内容紹介等の情報を追加。同時にこれらの情報から資料が検索可能となる。 ^③
		4	館長梅田誠が退職し、高井祿郎が新館長に就任。 ^④
2005	平成	4	学校向け事業の内容をまとめた「学校向け来館利用案内」を作成、配布。 ^③
		5	Eメールレファレンスサービス開始。 ^③
		-	「読書ボランティア調査事業」で要望の高かったボランティアへの研修として「おはなしボランティア講座」を開始。 ^③
		17	1 登録更新手続きを開始。 ^③
		4	館長高井祿郎が転出し、小川恵一が新館長に就任。 ^④
			ホームページにバナー広告掲載開始。 ^③
			ホームページに「Yokohama's Memory《都市横浜の記憶》」を公開。 ^③
			地区センター等蔵書情報を公開。 ^③
	5 移動図書館駐車場「青葉台」「市が尾」（青葉区）「緑園」（泉区）を新設。 ^③		
	5 「地区センター等ネットワーク試行調査事業」先行実施。 ^③		
	6 地域で活動するボランティア・読書会などに対する「読書会貸出」及び教職員向けの図書貸出を開始。 ^③		
	9 貸出レシートに広告掲載開始。 ^③		

コラム

学校連携事業

横浜市立図書館と約500校の市立小中学校との連携は、図書館見学や職業体験の受入、学校訪問、先生方への資料提供など、各図書館で個別に対応してきた時代が長くありました。しかし、2006（平成18）年に策定された「横浜市子ども読書活動推進計画（はまっ子読書プラン）」の中で、学校との連携が大きな柱となったこともあり、全館でのサービスの推進を目指して「学校連携事業担当者連絡会」が設置されました。そこでの情報共有や話し合いを受けて、2010（平成22）年度から全館で各区の小中学校に向けて「学校向けプログラム」の配布を開始しました。

教職員向けには現在、1人につき40冊30日間の貸出を行っています。また、2010（平成22）年秋から、授業でよく取り上げられるテーマについて、図書館であらかじめ司書が選び、20～40冊のセットにした「セット貸出」も始めました。当初、19種類1,980冊で始まったセット貸出は、その後、新しいテーマの追加や、同じテーマでもより新しい本、ふさわしい本への差し替えなどを繰り返して、2020（令和3）年度には37種類6,420冊になりました。

2013（平成25）年度から4年かけて全市立小中学校に学校司書が配置されると、連携事業の内容も変わってきました。ブックトークや読み聞かせのために市立図書館から司書が学校へ訪問することは減りましたが、教職員からの問い合わせに応えるレファレンスの件数は増えています。児童生徒への直接サービスから、学校司書への研修や学校図書館整備相談、学校で活動するボランティア向けの講座など、学校図書館を支える人々へのサービスへと重点が移ってきています。

コロナウィルス感染症による影響で、図書館見学や学校訪問は減少していますが、リニューアルしたセット貸出の利用件数は増加しました。2021（令和3）年度からサービス対象を拡大した母語セット（外国につながる児童生徒向けの外国語図書貸出）の利用も好調です。時代に応じた新しいサービスが求められています。

2006	平成	10	<ul style="list-style-type: none"> インターネットでの予約（図書）・貸出延長サービス開始。それに伴い予約の受付冊数を6冊までとする。^③ 「横浜市窓口満足度調査」を実施。^③
		11	<ul style="list-style-type: none"> 第7回図書館総合展（会場・パシフィコ横浜）にブースを出展、講演会を開催。^③
		12	<ul style="list-style-type: none"> 「地区センター等ネットワーク試行調査事業」開始。（二俣川、東戸塚両行政サービスコーナーでの貸出・返却サービス、東急田園都市線3駅への返却ポスト設置）^③
		18	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館でインターネット閲覧サービス開始。^③ 来館者を対象に「利用者アンケート」を実施。^③ 「横浜市立図書館のあり方懇談会」開設。^③ 市民との協働事業として「本の世界をひろげよう 読み聞かせボランティアハンドブック」を編集・発行。^③ 「横浜教育フェスティバル」の一環として中央図書館で「読書フェスティバル」を開催。^③ 「横浜市中期計画（横浜リバイバルプランⅡ）」策定。「市立図書館のあり方検討」を計画。^③
		19	<ul style="list-style-type: none"> 戸塚図書館再整備工事着手。^③
2007	平成	1	<ul style="list-style-type: none"> 地域図書館5館でインターネット閲覧サービス開始。^③
		2	<ul style="list-style-type: none"> 全館に「初めて出会う絵本コーナー」開設。^③
		4	<ul style="list-style-type: none"> 4月23日の「子ども読書の日」にちなみ、全館で「読書スタンプマラソン」を実施。^③
		7	<ul style="list-style-type: none"> 戸塚図書館再整備工事着手。^③
		8	<ul style="list-style-type: none"> 『横浜市立図書館のあり方懇談会報告書』の提出を受ける。^③
2008	平成	10	<ul style="list-style-type: none"> 全館で「ティーンズ・サービス」開始。^③ 「地区センター等ネットワーク試行調査事業」拡充。（青葉区内地区センター等6施設での貸出・返却開始）^③
		20	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館「音楽映像ライブラリー」改装。^③ 横浜市立図書館情報紙『@Lib』創刊。^③ 「横浜市立図書館児童サービスの基本的考え方」及び「横浜市立図書館児童サービス2か年計画」を策定。^③
		4	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館「PCリサーチコーナー」改装。^③
		5	<ul style="list-style-type: none"> 第4回アフリカ開発会議に合わせ、中央図書館で「子どもの本で読む、知る、楽しむ、アフリカ」展を開催。^③
		7	<ul style="list-style-type: none"> 雑誌のインターネット予約受付開始。^③
2009	平成	21	<ul style="list-style-type: none"> 電子申請によるレファレンス申込の受付を開始。^③ 乳幼児向け絵本紹介・図書館紹介パンフレット「おひざにだっこで楽しむ絵本」発行。^③ 保土ヶ谷図書館耐震補強等工事完了。^③ 図書館ホームページリニューアル。ティーンズページ、キッズページを開設。^③ 全地域図書館にインターネット閲覧サービス拡大。^③
		4	<ul style="list-style-type: none"> 横浜開港150周年事業を開催。（～12月）^③ 移動図書館駐車場「八景西」（金沢区）を新設。市民協働として地域の市民ボランティアが活動を行う。^③
		6	<ul style="list-style-type: none"> 金沢区役所と連携し、金沢文庫駅に返却ポストを設置。（現在は終了）^③
		10	<ul style="list-style-type: none"> 開港150周年にあたって小学生から募集した『ヨコハマの子どもが選んだ150冊』を発表。^③
		22	<ul style="list-style-type: none"> 「横浜市立図書館児童サービスの基本的考え方」及び「横浜市立図書館児童サービス2か年計画」を受け、「横浜市立図書館年齢別読書プログラム」「横浜市立図書館学校連携事業 学校支援計画」を策定。^③ 文部科学省による図書館プロジェクト「図書館海援隊」（課題解決支援サービスに取り組む図書館で構成）に参加。^③
2010	平成	3	<ul style="list-style-type: none"> 金沢図書館耐震補強等工事完了。^③
		4	<ul style="list-style-type: none"> 館長小川恵一が退職し、神谷洋二が新館長に就任。^④

2011	平成	23	1	山内図書館で指定管理者による運営を開始、あわせて平日火～金曜日の開館時間を午後8時30分まで延長。 ^③
			7	中央図書館司書補助業務委託、及び書誌作成業務委託導入。 ^③ 国民読書年事業として「ヨコハマ、本の虫宣言～2010年は国民読書年」を開催。 ^③
			8	移動図書館駐車場「みなとみらい」（西区）を新設。地域住民に加え、ビジネス街で働く人の利用を目的とする。 ^③
			9	第1回サイエンスカフェ開催。 ^③
			11	「横浜市立図書館司書人材育成計画」を策定。 ^③
			12	教職員向けセット貸出サービス開始。 ^③
			1	山内図書館で有料宅配サービスの試行開始。 ^③
			3	「横浜市立図書館アクションプラン」を策定。「横浜市教育振興基本計画」が策定される。 ^③ 「蔵書再構成5か年計画」及び「横浜市立図書館児童サービス5か年計画」を策定。 ^③
			4	東日本大震災発生。3月12日・13日に臨時休館した。電力不足と計画停電に伴い、3月15日から4月15日まで開館時間を午後5時までに短縮。7月1日から9月30日に中央図書館を除く17館で輪番休館を実施した。（9月16日まで中央図書館・山内図書館の開館時間を午後7時までに短縮）燃料不足により図書館連絡車の運行が滞り、3月16日から28日の予約受付を停止。 震災後は震災館連リンク集や一時避難場所に図書コーナーを設置、震災関連図書の展示や計画停電・放射性物質の測定結果などの掲示を行うなど、市民への情報提供に努めた。 ^③
			4	都筑図書館、戸塚図書館司書補助業務委託導入。 ^③ 行政サービスコーナーでの図書取次サービスをオンライン化。登録更新が可能となる。 ^③
2012	平成	24	1	横浜市立図書館メールマガジンの配信を開始。 ^③
			6	横浜市立図書館創立90周年。記念事業開催。 ^③
			7	東日本大震災に伴う節電のため9月まで、中央図書館を除く地域図書館で、週1日輪番による休館を実施。 ^③
			9	「レファレンス向上プログラム」を策定。 ^③
			1	市立図書館90周年事業のひとつとして、地域情報発信のための基盤整備モデル事業を実施。 ^③ デジタルアーカイブ「都市横浜の記憶」と国立国会図書館が提供する横断検索サービス「国立国会図書館サーチ」と連携を開始。 ^③
			4	移動図書館、巡回日が祝日・施設点検日の運行を開始。 ^③
			8	サイエンスカフェの名称を「ヨコハマライブラリーカフェ」に変更。 ^③
			11	第14回図書館総合展（会場・パシフィコ横浜）の関連企画としてプレフォーラム「デジタルネットワーク社会における学校教育と図書館」を中央図書館ホールで開催。 ^③
			12	来館者を対象に「利用者アンケート」を実施。 ^③
			1	図書館情報システムを更新。システム移行に伴い1月4日から10日を臨時休館する。 ^③
2013	平成	25	3	市立図書館ホームページに「ボランティア活動お役立ち情報」サイト開設。 ^③
			6	「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」公布。 ^③
			10	市立学校への学校司書の配置開始。学校司書への研修・交流会を実施。 ^③
			3	港北図書館耐震補強等工事完了。 ^③ 図書館ホームページトップページリニューアル。 ^③ 「横浜市民読書活動推進計画」が策定される。 ^③
2014	平成	26	4	館長神谷洋二が退職し、山口隆史が新館長に就任。 ^④ 「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」施行。各区に読書活動推進担当課長を設置。 ^③ 広告事業のひとつとして、雑誌を寄贈していただく「雑誌スポンサー制度」の公募を開始。 ^③
			10	ボランティア向けメールマガジン配信開始。 ^③

2015	平成	11	横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム「横浜読書百貨展」(第1回)開催。 ^③
			「第2期 横浜市教育振興基本計画」策定。 ^③
		11	第16回図書館総合展(会場・パシフィコ横浜)の関連企画として「ICTを活かす学校図書館」を中央図書館ホールで開催。 ^③
		12	蔵書検索ページに「レファレンス検索」項目を追加。 ^③
		27	2 「横浜市立図書館蔵書5か年計画」及び「横浜市立図書館児童サービス5か年計画」を策定。(平成27年度～平成31年度) ^③
2016	平成	3	「横浜市立図書館アクションプラン(第2期)」(平成27年度～平成31年度)を策定。 ^③
		11	横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム「横浜読書百貨展」(第2回)開催。 ^③
		28	1 港南台地区センターでの図書取次サービス開始。 ^③
		3	「司書人材育成計画」を見直し、「司書職人材育成計画」を策定。 ^③
			移動図書館「はまかぜ」新車両運行開始。 ^③
2017	平成	4	都筑図書館、平成28年度子どもの読書活動優秀実践校等文部科学大臣表彰を受賞。 ^③
		10	家庭での読み聞かせに向く絵本のリスト「おうちでいっしょに楽しむ絵本」を作成、配布。 ^③
		11	港北図書館、図書館総合展にて地方創生レファレンス大賞審査会特別賞を受賞。 ^③
			横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム「横浜読書百貨展」(第3回)開催。 ^③
		29	3 鎌倉市、川崎市、藤沢市、大和市と相互利用サービスを開始。 ^③
2018	平成	7	ヨコハマライブラリーカフェの名称を「ヨコハマライブラリースクール」に変更。 ^③
		11	ツイッター(Twitter)による情報発信を開始。 ^③
			横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム(第4回)開催。 ^③
		30	1 外国につながる児童・生徒の母語による読書活動に活用するため、母語セットの提供開始。 ^③
		3	各図書館で発信していたメールマガジンの配信を終了。(ボランティアメールマガジンのみ配信) ^③
4	横須賀市と相互利用サービスを開始。 ^③		

コラム

ヨコハマライブラリースクール

「ヨコハマライブラリースクール」は、学術分野で最先端の研究成果を学ぶ「教養講座」、法律や経営など生活上の課題解決に役立つ知識を学ぶ「実用講座」の2シリーズを柱とし、中央図書館で実施している総合講座です。

ヨコハマライブラリースクールの原型は、2010(平成22)年度に、独立行政法人理化学研究所横浜研究所(現:国立研究開発法人理化学研究所横浜事業所)と共催で開催した「サイエンスカフェ」です。理化学研究所のほか、海洋研究開発機構や国立天文台等から講師を迎え、計10回開催しました。

2012(平成24)年度からは、取り上げるテーマを人文・社会科学分野にも広げ、名称を「ヨコハマライブラリーカフェ」に変更。横浜市内企業に飲料提供のご協力をいただき、お茶を飲みながらリラックスした雰囲気の中で行われる講座形式は大変好評で、計50回開催しました。

「知的情報共有の場」として、最先端の研究成果を学ぶ機会の提供を主眼としてきましたが、2017(平成29)年度からは、起業や相談など実用分野にも対象を広げ、現在の名称に変更しました。

時代に合わせて取り上げるテーマを広げてきましたが、研究者や専門家による講演、図書館によるテーマ関連図書など情報源の紹介、という基本スタイルは変えることなく、市民の皆様の学びを深める場の提供を目指しています。



ロゴマーク: 教養を学ぶことで形成される「人生の指針(光)」を照らす灯台

ロゴマーク: 「解決」に向かって、大海に漕ぎ出す船

2019	平成	31	12	鶴見図書館、平成30年度子供の読書活動優秀実践校等文部科学大臣表彰を受賞。 ^③
			2	ふるさと納税（横浜サポーターズ寄附金）受付開始。 ^③
			4	「第3期 横浜市教育振興基本計画」策定。 ^③
			4	蔵書検索ページをリニューアル。 ^③
2020	令和	2	5	館長山口隆史が退職し、田雑由紀乃が新館長に就任。 ^④
			12	緑図書館、平成31年度子供の読書活動優秀実践校等文部科学大臣表彰を受賞。 ^③
			2	「司書職人材育成計画」を改訂。 ^③
			2	「第二次 横浜市民読書活動推進計画」策定。 ^③
2021	令和	3	2	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、2月26日以降のイベントを中止。 ^③
			3	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、図書館の一部サービスを停止。（3月2日から4月10日まで閲覧フロアへの立ち入りを中止） ^③
			4	「横浜市立図書館アクションプラン」「横浜市立図書館蔵書5か年計画」「横浜市立図書館児童サービス5か年計画」を統合し「横浜市立図書館運営実行プラン」を策定(令和元年度～令和4年度)。 ^③
			4	新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受け、4月11日から5月26日まで全館臨時休館。（5月27日から6月9日までサービスを限定、予約資料の貸出、返却、登録のみ行う。6月2日に新規予約の再開、6月10日に閲覧フロアの限定再開、6月24日に閲覧席の利用再開、7月1日にイベント再開） ^③
			11	戸塚図書館、令和2年度子供の読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受賞。 ^③
			3	町田市と広域相互利用サービスを開始。 ^③
2022	令和	4	1	横浜市立図書館のロゴマークを決定。 ^③
			2	市立図書館全館に本の除菌機を設置。 ^③
			3	電子書籍サービス、オンライン対面朗読サービス開始。 ^③
			4	館長田雑由紀乃が退職し、下澤明久が新館長に就任。 ^④
			6	逗子市と広域相互利用サービスを開始。 ^③
			1	金沢図書館、令和3年度子供の読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受賞。 ^③
	令和	4	6	横浜市立図書館開業100周年。記念式典・講演会等を開催。 ^③
			4	慶應義塾大学協生館内の日吉図書取次所（日吉の本だな）で図書取次サービス開始。 ^③
			4	移動図書館「はまかぜ」2号、新車両運行開始。 ^③

コラム

電子情報の提供～デジタルアーカイブ・オンラインデータベース・電子書籍～

図書館資料といえば、長年、紙の図書や雑誌が対象でした。しかし、1990年代以降、パソコンやインターネットの普及に伴って情報の電子化が進み、市立図書館でも対応を行ってきました。

当初はデータベース情報を記録したCD-ROMやDVD-ROMの提供が主流でしたが、100周年を迎えた令和3年現在は、インターネットを利用して最新のデータ検索を行うオンラインデータベース、そして自身のパソコンやスマートフォンで、いつでもどこでも読書を楽しめる電子書籍サービスへと移行しています。変化のスピードが速いデジタル情報だからこそ、新たな動きにも目配りし、紙媒体と合わせて効果的な情報提供ができるように努めています。

合わせて、館内での持ち込みパソコン利用を可とする、Wi-Fi整備を進めるなど、利用者の情報探索活動の利便性強化にも取り組んでいます。

外部で作成・販売されるデジタル情報の活用を進める一方で、市立図書館では、横浜の変遷、成長過程を浮き彫りにすることを目的に所蔵資料をデジタルの形で保存・提供し、次世代に継承する事業を2005（平成17）年から開始しました。

「都市横浜の記憶」と名付けたデジタルアーカイブは、都市横浜の記憶装置として、100年にわたり蓄積してきた浮世絵、歴史地図、行政資料などの横浜関連資料をデジタル化し、インターネット上で公開しています。次の100年に向けて、より検索しやすく活用しやすいフォーマットへの対応を目指します。

紙の資料では得られない情報も増えている中、電子化された情報はますます重要となっていくことが予想されます。紙の資料との両輪で、多様な情報を充実させていきます。

障害者サービス事業の変遷

西暦	和暦	年月	できごと
1978	昭和	53 11	戸塚図書館開館。県内で初めて、対面朗読室・録音室を設け、視覚障害者の職員を配置
1979	昭和	54 1	戸塚図書館で音声訳講習会（初級）実施
		5	戸塚図書館で全市対象の視覚障害者サービスを市内で初めて開始
1980	昭和	55	戸塚図書館で、全国の点字図書館・公共図書館との間で資料の相互貸借を試みる
		2	戸塚図書館で音声訳講習会（初級）実施
1984	昭和	59 4	戸塚図書館で他館からの借用による点字図書の貸出しを開始
1985	昭和	60 10	港北図書館で視覚障害者サービスを開始
1986	昭和	61 10	職員の自主研修制度を利用して、マニュアル作成を開始、『図書館利用に障害のある人々へのサービスを進めるための実務マニュアル』を作成
1987	昭和	62 12	保土ヶ谷図書館・金沢図書館で視覚障害者サービスを開始
1990	平成	2	3月に山内図書館、10月に泉図書館で視覚障害者サービス開始
1991	平成	3 10	中図書館で視覚障害者サービスを開始 朗読者の採用を館別から業務別の共通登録制に切り替え、朗読者の柔軟な配置が実現する
1992	平成	4 10	栄図書館で視覚障害者サービス開始
1994	平成	6 2	中央図書館一部開館。それに伴い視覚障害者サービスコーナーを開設
		12	南図書館で視覚障害者サービスを開始
1996	平成	8 1	中央図書館で、障害のある方に図書の郵送貸出(現来館困難障害者図書配送事業)を開始 3月に神奈川図書館、12月に緑図書館で視覚障害者サービスを開始
1998	平成	10 3	旭図書館で視覚障害者サービスを開始
1999	平成	11	3月に鶴見図書館、12月に磯子図書館で視覚障害者サービスを開始
2000	平成	12 3	瀬谷図書館で視覚障害者サービスを開始
2001	平成	13	港南図書館、都筑図書館で視覚障害者サービス開始 市立図書館全館に対面朗読サービス実施環境整備完了
2004	平成	16	デージー録音図書（CD）の製作、デージー録音図書受け入れ・貸出し開始
2006	平成	18	5年ぶりに音訳者を追加募集。10月に『新着図書案内』デージー版の製作を開始
2008	平成	20	「24時間テレビ」チャリティー委員会（日本テレビ内）から「視覚障害者サービス用機器」が寄贈され、8月から中央図書館視覚障害者サービスコーナーで利用開始
2009	平成	21	DAISY（デージー）録音図書読書機ゆっくり！操作体験会実施 展示「指と耳で読む広がる視覚障害者の読書」実施
2011	平成	23	中央図書館障害者サービスコーナーリニューアル。デジタル録音機による録音図書製作開始
		11	「支援者のための入門セミナー～視覚障害者向け情報ネットワーク『サピエ』のご紹介」開催
2014	平成	26 12	「見えない見えにくい人のための図書館活用講座」開催
2015	平成	27	中央図書館で製作した録音図書を国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスを通じて配信開始 中央図書館で長年音訳をされている方が社会教育功労者表彰（文部科学大臣表彰）を受ける
		11	視覚障害者向けライブラリーツアーを開催
		12	見えない・見えにくい障害を知る～ヒューマンライブラリー＆講演会開催（2019年まで開催）
2016	平成	28 12	図書音訳者養成講座（入門）実施
2017	平成	29 9	視覚障害者向けライブラリーツアーを実施
2021	令和	3 3	オンラインでの対面朗読を開始し、来館しなくても利用可能なサービスを充実

各図書館の歴史

中央図書館

平成6(1994)年2月22日開館



住 所 〒220-0032 西区老松町1

建 物 鉄骨鉄筋コンクリート造
地下3階地上5階
延床面積 (21,834.36㎡)

西暦

できごと

- 1989年 3月 ■ 横浜市中央図書館資料収集検討委員会報告書、横浜市立図書館資料収集方針制定
- 1990年 9月 ■ 生まれ変わる横浜市図書館（中央図書館着手記念イベント）開催
（①写生大会②パネル展③パソコン通信④フロアトークング）
- 1994年 2月 ■ 中央図書館開館
開館当時の蔵書数は約52万冊。地下1階に音楽映像ライブラリーやホールを併設
4月の全面開館に合わせ、音楽映像ライブラリーの利用開始
- 1996年 5月 ■ CD-ROM検索サービス開始
- 1997年 ■ 「図書館協力プログラム」開始
- 1999年 4月 ■ 庁内情報拠点化事業開始
- 2004年 ■ デジタルアーカイブ「都市横浜の記憶」公開開始
5月 ■ Eメールレファレンスサービス開始
- 2005年 1月 ■ 公衆無線LAN「ホットスポット」のサービス開始（中央4階、保土ヶ谷、都筑の3館）
4月 ■ フルカラー複写機を4階に1台設置
11月 ■ 3階に市内大学・企業の資料を収集し「大学・企業資料コーナー」開設
全館で教科書展示会を実施、採択教科書を図書館資料として所蔵
図書館ホームページに「中央図書館のビジネス支援サービス」のページ開設
- 2006年 2月 ■ インターネット閲覧用パソコンを試行設置
3月 ■ 図書館ホームページに「レファレンス事例集」の掲載を開始
3階に外国語本コーナー開設に合わせ「姉妹友好」「日本紹介」コーナー開設
4階にビジネス関連資料コーナーリニューアル
- 11月 ■ 「調査のミカタ」シリーズ発行開始（年度内に「横浜市中央図書館所蔵新聞目録」等 資料目録6種類、「判例を探す」などパスファインダー5種類を発行）
- 12月 ■ 4階に医療情報コーナー開設
- 2007年 ■ 音楽映像ライブラリー改装。楽譜を地下1階から5階へ移設
- 2008年 ■ 文部科学省委託事業として「横浜市立図書館における児童生徒に対する多文化・多

- 言語サービス推進事業」を実施
- 4月 ■ 「中央図書館読み聞かせボランティア」活動開始
- 2008年 4月 ■ 3階PCリサーチコーナーリニューアル
新聞、官報、判例・法令、経営情報、医学文献情報の6種のオンラインデータベースの提供を開始。CD-ROM閲覧用、インターネット閲覧用を含む計15台のパソコンを擁したコーナーが誕生
- 12月 ■ 4階に法情報コーナー開設
- 2009年 12月 ■ 図書館ホームページにパスファインダー「調査のミカタ」公開
- 1月 ■ 電子申請によるレファレンス申込受付開始
- 4月 ■ 1階にヘルプデスク設置
- 6月 ■ 『ヨコハマDEKIGOTO資料集』刊行
- 11月 ■ 国立国会図書館「レファレンス協同データベース」に提供している事例を市立図書館ホームページ内「レファレンス事例集」から検索できるようになる
- 12月 ■ 企画事業「い・にし・え散歩」開始
- 2010年 1月 ■ 「中央図書館図書修理ボランティア」活動開始
- 3月 ■ 市立図書館ホームページに「横浜の郷土資料を探す」「横浜の郷土雑誌を探す」開設
- 4月 ■ 中央図書館司書補助業務委託導入
- 5月 ■ 横浜F・マリノスと協働事業開始
- 8月 ■ 第1回サイエンスカフェ開催
- 9月 ■ 野毛山動物園連携事業「動物たちのSOS展」実施
- 2011年 12月 ■ 市立図書館創立90周年記念事業、地域情報発信のための基盤整備事業実施
5階に写真集コーナー設置
- 4月 ■ 「中央図書館書架整理ボランティア」活動開始
- 2012年 3月 ■ 4階で公衆無線LAN「FREESPOT」導入
- 8月 ■ 第1回ヨコハマライブラリーカフェ開催
- 2013年 2月 ■ 貴重資料「横浜海岸フランス役館之景」が「第2266回関東・中部・東北自治宝くじ」の図柄に採用される
- 2014年 4月 ■ 4階「医療情報コーナー」を「医療・健康情報コーナー」と改めリニューアル
- 2月 ■ 中央図書館開館20周年記念オリジナル壁紙&ブックカバー公開
- 4月 ■ オンラインデータベース複写サービス開始
- 2015年 2月 ■ 西区読書活動推進目標策定、西区読書関連施設MAP作成（3月発行）
- 9月 ■ 小中学生のPOP展示「西区の子どもたちのおすすめ本」開始
- 2016年 1月 ■ 4か月検診でのわらべうた・絵本紹介開始
- 2月 ■ 4階に社史コーナー開設
- 7月 ■ 野毛山動物園・西区役所と3者連携して工作会、環境パネル展示開催
- 2017年 3月 ■ 4階法情報コーナーをリニューアル
- 7月 ■ 第1回ヨコハマライブラリースクール開催
- 9月 ■ 「西区民読書活動推進目標」の一環で、西区内の大学・専門学校と連携した大学連携事業、「にしくらぶ」開始
- 11月 ■ 老松中学校70周年記念POP展示「なぜわた本～なぜわたしがこの本を選んだのか～」開催
- 2018年 1月 ■ 外国につながる児童・生徒の母語による読書活動に活用するため、母語セットの提供開始
- 2020年 12月 ■ 第二次西区読書活動推進目標策定、西区読書関連施設マップ発行
- 2021年 3月 ■ 電子書籍サービスの開始
1階にすべての子どもたちに本を届ける「りんごの棚」コーナー開設
- 2022年 1月 ■ 「フレッツスポット」サービス提供を停止
- 3月 ■ 地下1階リニューアル。「交流と学びのフロア」開設
■ 公衆無線LAN「FREESPOT」を地下1階、3階、5階へ拡大

鶴見図書館

昭和55(1980)年1月10日開館



住所 〒230-0051 鶴見区鶴見中央2-10-7

建物 鉄筋コンクリート造
地下1階地上3階(図書館部分2・3階、地下)
延床面積(1,510.45㎡)

併設施設 鶴見保育園

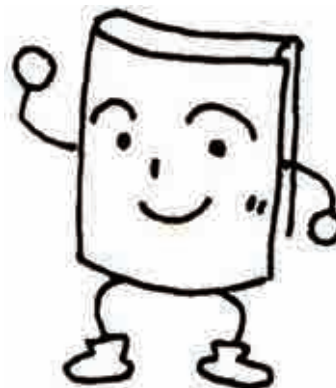
西暦

できごと

- 1980年1月 ■ 鶴見図書館開館(複合施設:1階は当時のさざんか学園)
- 8月 ■ おはなし会開始
- 1985年3月 ■ 開館5周年記念講演会「古典を読む」(中野孝次氏)開催
- 1987年3月 ■ 『鶴見の百年』(鶴見図書館/編集)刊行
- 1990年1月 ■ 開館10周年記念事業実施
連続講演会「百人一首とその歌人たち」開催
- 1991年3月 ■ 郷土資料『鶴見の坂道』(鶴見歴史の会・鶴見図書館/編集)刊行
- 11月 ■ 郷土資料展「埋立ての歴史からみた鶴見」開催
- 1997年8月 ■ 区役所との連携事業開始
区民講座「鶴見学」で図書館の紹介を開始
家庭教育学級で講座「ようこそ絵本の世界へ」を担当
「鶴見大百科事典(仮称)編纂ワークショップ」に参加
- 1999年3月 ■ 視覚障害者サービス開始
- 6月 ■ 鶴見保健所(現鶴見福祉保健センター)との共催で、乳幼児健診の場でわらべうたと絵本を紹介する事業(2002年から「つるみっこ絵本広場」)を開始 ※市立図書館で初の取組
- 2001年 ■ ポルトガル語資料の収集を開始
- 8月 ■ 企画展示・フロアトーク「鶴見は面白い町だ!」開催
- 2003年2月 ■ つるみ子育て・個育ちフォーラムに出展し図書・パネルを展示※以降継続
- 2007年8月 ■ 鶴見区制80周年記念パネル展示「鶴見線のものごたがり」開催
- 2008年9月 ■ 鶴見区郷土資料展開催
- 2009年3月 ■ 開館30周年記念事業実施
- 7月 ■ パネル展「鎖国から開国への日々展 生麦事件を中心に」開催
- 10月 ■ 講演会・展示「花月園ものがたり」(齋藤美枝氏)開催
■ 企画展示会「小説で読むヨコハマ+ツルミ」開催
- 12月 ■ マスコットキャラクターの名前募集、500通近い応募の中から「つるぼん」に決定
- 2010年 ■ 外壁改修工事、外観が明るいいレモンイエローに。

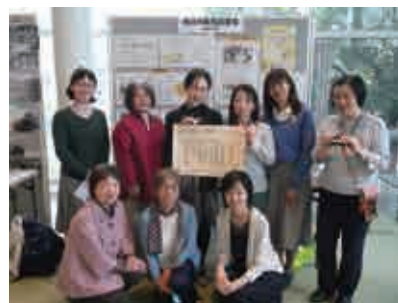


『鶴見の百年』



鶴見図書館マスコットキャラクター「つるぼん」

- 利用者・団体懇談会開催（初の開催）
- 2012年 ■利用者フロアの照明LED化工事、2階仮設窓口で予約図書のみ貸出
- 4月 ■歴史講演会「浅野総一郎とその時代」開催
- 2013年 ■空調設備改修工事を実施。1階玄関の仮設窓口で予約図書のみ貸出。
- 11月 ■郷土史講演会「中世の鶴見・鶴見川」（サトウマコト氏）開催
- 2014年 ■開館35周年記念郷土講演会開催
- 10月 ■第1回「鶴見見どころ写しどころ～写真あれこれ～」
- 12月 ■第2回「鶴見とブラジル、沖縄とのつながり」
- 2015年 1月 ■第3回「鶴見の教育力」
- 2月 ■鶴見区読書活動推進目標策定
- 9月 ■「やってみよう！ビブリオバトル」開催
- 10月 ■「ビブリオバトル@鶴見図書館」開催
- 2016年 3月 ■講演会「お年寄りと絵本でちょっといい時間」（山花郁子氏）開催
- 鶴見大学、横浜商科大学と連携して「大人のための図書館ツアー」開催
- 2017年12月 ■講演会「知ってる？紙芝居ってね…。」（長野ヒデ子氏）開催
- 2018年 1月 ■講座「つくってみよう鶴見の紙芝居」（ときわひろみ氏）開催
- 2018年 4月 ■子供の読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受賞
- 鶴見区制90周年記念鶴見歴史写真パネル貸出開始
- 2019年 ■開館40周年記念事業実施
- 「次世代に伝えたい鶴見連続講座」開催
- 7月 ■第1回「心は「鶴見人」」
- 9月 ■第2回「関東大震災と鶴見の人々」
- 11月 ■第3回「鶴見の田祭り」
- (2021年) 2月 ■第4回「沖縄ヘルーツを探る旅を続けて」
- 12月 ■第二次鶴見区読書活動推進目標策定
- 2020年 1月 ■「つるぼんのおんがえし～40年にありがとう」開催
- 2月 ■講演会「物語の生まれるところ」（角野栄子氏）開催



子供の読書活動優秀実践図書館
文部科学大臣表彰受賞

つるみっこ絵本広場

鶴見図書館では、鶴見福祉保健センターと協力して、4か月児健診、1歳6か月児健診にいらっしゃる赤ちゃんと保護者の方に、ご家庭でもふれあいの時間を大切にもらうために、わらべうたと絵本の紹介をしています。

この事業は1999年度より開始しましたが、2002年度からは「協力スタッフ」と名づけた市民ボランティアの協力を得て、鶴見に生まれたすべての赤ちゃんを対象に、わらべうたと絵本による子育て支援を行っています。



神奈川図書館

昭和62(1987)年10月21日開館



住所 〒221-0063 神奈川区立町20-1

建物 鉄筋コンクリート造
地下1階地上2階（図書館部分1階）
延床面積（1502.32㎡）

併設施設 老人福祉センター「うらしま荘」

西暦

できごと

- 1987年10月 ■ 神奈川図書館開館。旧神奈川公会堂ステンドグラスを移築
 - 定例おはなし会開始
- 1991年 ■ 神奈川区区政施行65周年記念事業「神奈川区絵画展」開催
 - 1月 ■ 郷土資料展「神奈川区と交通」実施
- 1996年3月 ■ 視覚障害者サービス開始
- 1998年2月 ■ 『横浜シネマ商会の業績：映画作品目録1923-1945』刊行
 - 3月 ■ 上映会「よみがえる戦前の幻の名画たち～横浜シネマ商会の映像世界～」開催
 - 4月 ■ 神奈川図書館開館10周年記念事業
- 1999年10月 ■ リサイクルブックフェア開催
- 2001年3月 ■ 『東海道神奈川宿名物亀の甲せんべい資料集』刊行
 - 10月 ■ 「全国の亀の甲せんべい展」開催
- 2002年10月 ■ 『横浜のパン資料集』刊行
- 2003年11月 ■ 「古文書らくらく入門講座」開催
- 2004年7月 ■ 『武蔵国橘樹郡神奈川宿青木町枝郷三ツ沢山田家文書』刊行
- 2007年 ■ 「ティーンズコーナー」開設
 - 2月 ■ 「初めて出会う絵本コーナー」開設
 - 10月 ■ 神奈川図書館開館20周年記念事業
 - 講演会「目で見える神奈川区域の産業史」（横浜開港資料館調査研究員）開催
 - 講演会「神奈川宿を現代に伝える」（平塚あけみ氏）開催
 - 企画展示「神奈川区の産業～神奈川宿から現代へその変遷～」開催
 - 上映会（神奈川区ゆかりの自動車産業、老舗料亭等のDVD上映）開催
- 2008年11月 ■ 横浜線開通100周年記念巡回資料展「鉄道とまちの歩み」開催
- 2009年2月 ■ 影絵公演「境木のお地藏さん」（出演：影絵サークル「シルエットフェア」ほか）開催
 - 4月 ■ パネル展「横浜開港前後・浮世絵東海道宿ものがたり－神奈川宿－」開催
 - 6月 ■ 展示「開港5か国と神奈川区の元領事館案内」開催
 - 9月 ■ 書架整理ボランティア活動開始
 - インターネット閲覧サービス開始
- 2010年 ■ 神奈川図書館利用者懇談会開始



旧神奈川公会堂ステンドグラス



亀の甲せんべい資料集

- 3月 ■ 展示「調べよう！自分の住む町～小学3年生から見た神奈川区～」開催
- 10月 ■ 講演会「ヨーロッパのステンドグラスと横浜のステンドグラス」（光ステンド工房代表：平山健雄氏）開催
- 11月 ■ ビデオ上映会「わが町の歴史に触れる」開催
- 2011年 ■ 「はじめて出会う物語コーナー」開設
- 2012年10月 ■ 神奈川図書館開館25周年記念講演会「2時間でさくっと学ぶ神奈川区の歴史」（横浜市歴史博物館：斉藤司氏）開催
- 2013年 ■ 記念展示「あなたの暮らしを守ります！図書館は大きな知恵袋」開催
- 2014年 ■ 「子育て情報コーナー」開設
- デジタルアーカイブ「都市横浜の記憶」神奈川区風景写真データベース開始
- 3月 ■ 展示「新しく収集した神奈川区の資料～学校史を中心に～」開催
- 4月 ■ 「読書の日展示」開始
- 「朗読の会クローバー」による「大人のための朗読会」開始
- 5月 ■ 展示「横浜の図書館がひとつになった日」開催
- 2015年3月 ■ 神奈川区読書活動推進目標策定
- 11月 ■ 神奈川区役所との連携事業「かめ太郎の神奈川区内読書施設マップ」発行
- 12月 ■ 読書活動団体「かなぶっく」発足
- 2016年1月 ■ 読書活動推進講演会「歴史小説の存在意義と新潮流」（作家：伊東潤氏）開催
- 3月 ■ 「いきいきシニアコーナー」開設
- 講演会「古本屋のおやじが語る、古本よもやま話」（神奈川古書組合：劔重豊氏）開催
- 11月 ■ 図書修理ボランティア活動開始
- 「ここだけの本の話、きっと聞けます 知的書評合戦ビブリオバトル神奈川区予選」
- 読書活動推進講演会「読書がもっと楽しくなる話」（文芸評論家：市川真人氏）開催
- 2017年 ■ 「わが街神奈川区地域資料コーナー」開設
- 3月 ■ 「読み聞かせに向く絵本コーナー」開設
- よこはまの浦島太郎講演会（横浜市歴史博物館：阿諏訪青美氏）・パネル展示開催
- 10月 ■ 神奈川図書館・うらしま荘開館30周年まつり開催
- 神奈川図書館キャラクター「乙姫カナちゃん」誕生
- 「神奈川区デジタルライブラリーかなデジ」開始
- 講演会「江戸時代の神奈川湊」（横浜市歴史博物館：吉崎雅規氏）開催
- パネル展示「写真でふりかえる神奈川区の昭和」開催
- 11月 ■ 読書活動推進講演会「ほんとうの読書は中年を過ぎてから」（書評家：永江朗氏）開催
- 2018年3月 ■ 「神奈川区おはなし会マップ」作成
- 10月 ■ 講演会「皆様の夢を乗せて 横浜市営地下鉄という装置」（横浜市交通局：高木市行氏）開催
- 「土曜のおはなし会」ボランティア活動開始
- 2019年 ■ 無線LANサービス開始
- 1月 ■ 読書活動推進講演会「教養人たれ～出口流・人生に効く読書術～」（出口治明氏）開催
- 2020年1月 ■ 神奈川ロータリークラブ寄贈による「がん情報ギフト」コーナー開設
- 読書活動推進講演会「絵本と鳥の巣の不思議」「『みずとはなんじゃ？』ができるまで」（絵本作家：鈴木まもる氏）開催
- 3月 ■ 第二次神奈川区読書活動推進目標策定
- 2021年2月 ■ タウンニュースに「図書館司書のおすすめBOOK」連載開始
- 5月 ■ 「情報科学コーナー」開設
- 10月 ■ 読書活動推進講演会「『なぜ？』から始まる思考力の育て方」（筑波大学サイエンスコミュニケーター：尾嶋好美氏）動画配信



神奈川図書館キャラクター
「乙姫カナちゃん」

中図書館

平成元(1989)年5月21日開館



住所 〒231-0821 中区本牧原16-1

建物 鉄筋コンクリート造2階
延床面積 (1506.48㎡)

併設施設 本牧地区センター
知的障害者の通所施設「オリブ工房」

西暦

できごと

- 1989年 5月 ■ 21日中図書館開館。市立図書館15館となる
10月 ■ 定例おはなし会を開始 (毎月第1、3水曜日)
11月 ■ 講習会「絵本を楽しんでいますか？」(山崎翠氏) 開催
12月 ■ 文化講演会「食卓をめぐって」(本間千枝子氏) 開催
- 1991年 2月 ■ 文化講演会「小説家の頭」(阿刀田高氏)、読み聞かせ講習会(櫻井美紀氏) 開催
10月 ■ 視覚障害者サービスを開始
11月 ■ 講習会「親子でたのしむ絵本とわらべ歌」(石川道子氏) 開催
- 1992年 3月 ■ 文化講演会「緑豊かな町づくり～生態学的な提案～」(宮脇昭氏) 開催
11月 ■ 文化講演会「ともに生きる」(大森黎氏) 開催
- 1993年 9月 ■ 講習会「紙芝居実演講習会」(右手和子氏) 開催
10月 ■ 文化講演会「竹取物語～原文によるかたりよみ鑑賞会～」(創造の会) 開催
- 1994年 11月 ■ 文化講演会「生と死の図像」(若桑みどり氏) 開催
- 1995年 11月 ■ 文化講演会「『ビートルズを知らなかった紅衛兵』日本に暮らして」(唐亜明氏) 開催
- 1997年 3月 ■ 文化講演会「版画の扉を開いて」(山本容子氏) 開催
10月 ■ 区制70周年記念事業「本牧再発見」開催
写真展「本牧の70年」、歴史散歩「本牧歴史ウォーク」(嶋田昌子氏)、
講演会「本牧の変遷－接收解除から現在まで－」(田口俊夫氏)、
ジャズコンサート「本牧ジャズ物語－トークと演奏－」開催
- 1998年 3月 ■ 写真展「本牧の70年」をもとに写真集『本牧波瀾の100年』刊行
10月 ■ 講習会「家族新聞を作ろう」(石川隆一氏、清水雅彦氏、長谷川径弘氏) 開催
12月 ■ 文化講演会「子供への暴力防止 (おとな向けワークショップ)」(CAPかながわ) 開催
- 1999年 ■ 「知っているようで知らない中区の郷土を体験しよう」開催
7月 ■ 「大道芸に挑戦～マジックバルーン」(むごん劇かんぱにい) 開催
■ 「横浜家具の歴史」(竹中幸雄氏) 開催
8月 ■ 「さあ出かけよう本牧歴史ウォーキング」(シティガイド協会) 開催
■ 「昔の味をたずねて～アイスクリンを作ってみよう」(北條蓉子氏) 開催
■ 「海があった頃の本牧・根岸」(横浜市漁業協同組合本牧支所) 開催
- 2005年 6月 ■ 絵本の読み聞かせ入門講座開催
10月 ■ 「中区文化財パネル・埋蔵文化財展」開催
- 2006年 6月 ■ ボランティアグループ(めぐみ座、絵本の森、ことりの会、もみの木)によるおは

- なし会開始
- 2007年9月 ■ 中区区制80周年記念展示「中区ゆかりの人と本」開催
- 2009年5月 ■ 開港150周年・中図書館開館20周年
展示会「『横浜開港見聞誌』本の挿絵に見る開港期横浜の状景」開催
- 6月 ■ 記念講演会「開国・横浜の開港と本牧」（嶋田昌子氏）開催
- 12月 ■ 記念事業で中図書館マスコットの名前を募集し、「モック」に決定
- 2010年1月 ■ 展示「アジアをテーマとした児童書の展示」開催
講演会「絵本で知るアジアの国々」（依田和子氏）開催
- 7月 ■ 「図書館書架整理ボランティアスタート講座」開催
- 2011年1月 ■ 中図書館おはなしボランティア モックの会によるおはなし会開始
- 2月 ■ 展示・講演会「消えゆく文字～中国女文字最後の伝承者を招いて」（遠藤織枝氏）開催
- 3月 ■ 展示・上映会「フェンスのあったころの本牧」開催
- 6月 ■ 展示「閨門から宇宙へ！～古川飛行士を応援しよう～」開催
- 7月 ■ 展示「'60年代横浜・中区ミニ写真展～映画『コクリコ坂から』舞台は私たちの街～」開催
- 8月 ■ 講演会「宇宙飛行士の謎をさぐれ！～宇宙飛行士になるには～」（山口孝夫氏）開催
- 9月 ■ 上映会「わたしたちの町を走ったチンチン電車」開催
- 11月 ■ 古川宇宙飛行士帰還ライブ中継パブリックビューイング開催
- 2012年8月 ■ 「聞こう！知ろう！はじめての落語」（絵書家筆之輔氏）開催
- 2013年2月 ■ 講演会「地震被害を知る・防ぐ」（白坂光行氏）開催
- 3月 ■ 展示「東北に絵本の花、ひらいた！」開催
- 9月 ■ 児童フロアに「ベビーコーナー」を開設、ティーンズコーナーを2階に移設
- 2014年1月 ■ 「めぐみ座のおはなし会」定例開催開始（毎月第1土曜日）
- 3月 ■ 講演会「東北の昔話と宮沢賢治の世界を訪ねて」（細井律子氏）開催
展示「昭和の本牧小学校の思い出」開催
- 5月 ■ 開館25周年
- 11月 ■ 展示「周五郎と本牧～中区ゆかりの作家たち～」開催
- 12月 ■ 開館25周年記念パネル展示「1989年の横浜」開催
- 2015年2月 ■ 「大人が楽しむおはなし会」（浅見和子氏）開催
Y.S.C.C講演会「地域に根差したスポーツクラブを目指して」（吉野三郎氏）開催
- 3月 ■ 中区読書活動推進目標策定
- 11月 ■ 「本活コミュニケーション」を開始
講演会「三溪園今昔～古写真で巡る昔の三溪園～」（吉川利一氏）開催
- 2016年10月 ■ 「ビブリオバトルinハローよこはま2016」開催、「なか区ブックフェスタ」を開始
- 2017年1月 ■ 展示「根岸競馬場の歴史」開催
- 2018年6月 ■ 横浜スタジアム設立40周年記念展示「横浜スタジアムの歴史」開催
- 7月 ■ 中図書館Twitterアカウントを開設
- 2019年4月 ■ 展示「中図書館は30歳～開館30周年記念展示～」開催
- 5月 ■ 開館30周年企画展示「空から見た本牧のうつりかわり」、「モックのぬりえ」（作品展）開催
- 「読み聞かせに向く絵本コーナー」、「日本語学習コーナー」を開設
 - 「ことりの会のおはなし・おはなし」定例開催開始（奇数月第3土曜日）
- 9月 ■ 台風15号による床の浸水被害のため、臨時休館
- 10月 ■ 「本牧モック亭特別寄席～中図書館・本牧地区センター・オリブ工房開館30周年記念事業～」(絵書家筆之輔氏)開催
- 11月 ■ 写真展「三溪園四季の写真展」開催
- 12月 ■ 講演会「原三溪～没後80年を迎え～」(中島哲也氏)開催
- 2020年10月 ■ 0～2歳児向けの「おひざにだっこのおはなし会」を開始（毎月2回）
- 11月 ■ 本牧歴史講座「本牧を愛した文豪たち」（相澤竜次氏）開催
- 2021年3月 ■ 第二次中区読書活動推進目標策定



中図書館マスコット
キャラクター「モック」

南図書館

平成4(1992)年12月2日



住所 〒232-0067 南区弘明寺町265-1

建物 鉄筋コンクリート造4階
(図書館部分2・3階)
延床面積 (1790.34㎡)

併設施設 弘明寺公園プール
自転車駐輪場

西暦

できごと

- 1992年12月 ■ 市内16番目の市立図書館として開館
- 1993年 ■ 隣接する弘明寺公園に展望台が完成
- 1994年12月 ■ 視覚障害者サービスを開始
この頃から定例のおはなし会が始まる
- 1995年2月 ■ 文化講演会「『もの食う人びと』をめぐって」(辺見庸氏) 開催
- 1996年1月 ■ 文化講演会「暮らしの中で楽しむハーブ」(広田親子氏) 開催
12月 ■ 文化講演会「犯罪と文学」(佐木隆三氏) 開催
- 1997年10月 ■ 講座「自分史をつくる」(鈴木政子氏) 開催。文集を作成する
- 1998年11月 ■ 「ストーリーテリング講習会」(伊藤洋子氏) 開催
- 1999年2月 ■ 文化講演会「絵本・子ども・自然」(いわむらかずお氏) 開催
- 2000年2月 ■ 文化講演会「ぼちぼちいこか」(今江祥智氏) 開催
- 2002年 ■ 開館10周年。「弘明寺公園と親しもう」などの企画事業を行う
- 2003年 ■ 中国語とタガログ語を中心に集めた「外国語資料コーナー」を開設
- 2008年 ■ 館内にAEDスタンドを設置
1月 ■ 南区文化財ウィークとして「南区郷土資料展」開催
- 2010年 ■ 南図書館修理ボランティア発足、活動を開始する
■ 「医療情報コーナー」を開設
1月 ■ パネル展「みなみのあゆみと懐かしの風景」開催
- 2011年3月 ■ 「春からエコ活！」と題して緑のカーテンの実験&栽培教室を開催
6月 ■ 南区在住だった児童文学作家「長崎源之助展 長崎先生ありがとう」開催
9月 ■ 図書修理ボランティアの活動を伝える展示「よみがえる本」開催
- 2012年 ■ 開館20周年
「南区から世界が見える！おはなし会」などの記念事業を行う
8月 ■ 男女共同参画センター横浜南との共同事業「女性のためのシゴト探し相談」が始まる(以後毎年開催)
12月 ■ 南図書館のマスコットキャラクター「ぐみよにゃん&ぐみよじい」誕生
■ 南区役所の4歳児健診に出張してわらべうたと絵本の読み聞かせを始める
■ 港南・磯子・金沢図書館と共同で地域写真を収集、デジタル化を進める(地域情報)



パネル展「みなみのあゆみと懐かしの風景」

- 基盤事業)
- 2013年 3月 ■ 『横濱関西村記念写真帖』が寄贈される（現在は中央図書館で所蔵）
地域写真収集の成果として、4館合同展示「横濱南部歴史写真帖」開催
 - 南区役所と共催で「南区がたどった70年の軌跡写真展」開催
 - 8月 ■ 夏休み期間に図書館閉館後の「こわいおはなし会」を開催（以後毎年開催）
 - 2014年 2月 ■ 「かみしばい・いっぽ」と共同で手作り紙芝居講座を開催（以後毎年開催）
 - 8月 ■ パネル展「横浜・関東大震災の記憶」開催
 - 11月 ■ 南区読書活動推進目標策定
 - 2015年12月 ■ 講演会「本とともにあゆむ人生」（堀内まゆみ氏）開催
 - 2016年11月 ■ 講演会「蒔田の吉良氏戦国まぼろしの蒔田城とさき姫伝説」（阿諏訪青美氏）開催
 - 2017年 ■ 開館25周年
日本や日本語についての本を集めた「日本紹介（OnJapan）コーナー」を開設
 - 5月 ■ 講演会「平和を考える 絵本からYAまで」（宇野和美氏・ほそえさちよ氏）開催
 - 11月 ■ 講演会「夢を乗せて走る！市電から地下鉄へ」（高木一行氏）などの記念事業を行う
 - 2018年 4月 ■ 講演会「絵本『エアポートきゅうこうはっしゃ！』ができるまで」（みねおみつ氏）開催
 - 2019年 ■ 講演会「子どものみかた」（柴田愛子氏）開催
 - 毎月第4木曜日に乳幼児向けの定例おはなし会をはじめ
 - 南区についての資料を集めた「郷土南コーナー」を開設
 - 2020年 ■ 点字つき絵本・さわる絵本・LLブックなどを集めた「りんごの柵コーナー」を開設
 - 4月 ■ 第二次南区読書活動推進目標策定



講演会「絵本『エアポートきゅうこうはっしゃ！』ができるまで」

横濱南部歴史写真帖

京浜急行弘明寺駅から徒歩1分と利用しやすい場所にある南図書館は、自然環境豊かな弘明寺公園と隣接していて、屋上が市民プールになっている全国でも珍しい図書館です。

2012年には、活気にあふれる商店街の様子など、南区の歴史を記録した写真を多数収集しました。この事業は港南・磯子・金沢の3館でも行われ、「横濱南部歴史写真帖」として、市立図書館デジタルアーカイブ「都市横浜の記憶」でご覧いただけます。



市電三吉橋停留場 1972（昭和47）年

港南図書館

昭和62(1987)年1月21日開館



住 所 〒234-0056 港南区野庭町125

建 物 鉄筋コンクリート造2階
延床面積 (1,503.36㎡)

西暦

できごと

1987年1月 ■ 21日開館 (1985年12月20日起工、86年11月24日竣工)

1,524人登録 (3か月で貸出は11万4千冊)

10月 ■ 文化講演会「小説家の頭」(阿刀田高氏) 開催

1988年1月 ■ 絵本の読み聞かせ講習会開催

1989年1月 ■ 文化講演会「しばし、ふらめん考」(逢坂剛氏) 開催

8月 ■ 展示会「アメリカ図書館協会の図書館ポスター展」開催

1990年1月 ■ 文化講演会「源氏の恋文」(尾崎佐永子氏) 開催

10月 ■ 文化講演会「女性翻訳家への入口」(徳岡孝夫氏) 開催

11月 ■ ストーリーテリング講習会「“おはなしひろば”へようこそ」開催

12月から講習会参加者自主グループによるおはなし会開始

1991年10月 ■ 文化講演会「死体は語る生命の尊厳」(上野正彦氏) 開催

1992年11月 ■ 講演会「小さな雑誌で町づくり・谷根千の冒険」(森まゆみ氏) 開催

1993年9月 ■ 講演会「ヨーロッパ文学に目を開く」(大貫三郎氏) 開催

1995年2月 ■ 講演会「私の愛する女性たち」(山崎洋子氏) 開催

1996年3月 ■ 講演会「『ソフィーの世界』を語る」(池田香代子氏) 開催

10月 ■ 開館10周年記念講演会「絵本とわたし」(瀬名恵子氏)、「絵本を楽しく読見(よみ)ましよう」(川端誠氏) 開催

11月 ■ 講演会「日本文学における父性の欠如」(鈴木光司氏) 開催

1997年1月 ■ 開館10周年記念パネル展示開催

11月 ■ 講演会「トルコ風の旅」(新藤悦子氏) 開催

2000年2月 ■ パネル展「港南区制30周年記念思い出の写真展」開催

9月 ■ リサイクル文庫設置

2001年2月 ■ 対面朗読サービス開始

2003年5月 ■ ボランティア合同おはなし会「おはなしいっぱい」開催 (以降定期的に開催)

2004年12月 ■ 港南区読み聞かせボランティア連絡会開催



文化講演会「小説家の頭」(阿刀田高氏)



文化講演会
「しばし、ふらめん考」(逢坂剛氏)

2005年3月 ■ 講演会「子どもの脳を育てる～読書と遊びの効用」開催

■ 図書館ホームページ開設

2007年1月 ■ 開館20周年記念事業

講演会「毎日を楽しく！生活の中の科学」（元中央図書館長：小川恵一氏）、パネル展「港南区の文化財」、リサイクルブック市開催

10月 ■ ティーンズサービス開始

12月 ■ 情報検索講座「横浜の地図を探す」開催

2008年11月 ■ 港南図書館見学会開催

2009年1月 ■ 講演会「写真（映像）で見る港南区の歴史」（貞昌院副住職：亀野哲也氏）開催

10月 ■ 展示「区制40周年記念・郷土よこはまの歴史を振り返ろう！」開催

12月 ■ 港南図書館懇談会設置

2010年9月 ■ 図書修理ボランティア養成講座開催、10月からボランティアによる図書修理開始

2011年11月 ■ 森の恵み塾写真展「ヨコハマ里山紀行」開催

2012年1月 ■ 開館25周年記念事業

パネル展示「上永谷いまむかし」、企画展「港南・昔話の森」、講演会「港南の昔話」開催

3月 ■ 開館25周年記念誌『横浜市港南図書館の歩み』刊行

11月 ■ 講演会「あかちゃんと遊ぼう！おもちゃ講座～五感を育むおもちゃとの出会い～」（福谷雅子氏）開催

2013年2月 ■ 講演会「身近な石仏・石塔から「こうなん」の昔を見ると」（主催：港南歴史協議会）開催

2014年1月 ■ 「こうなんいまむかし」写真パネル展、ギャラリートーク開催

2015年2月 ■ 港南区読書活動推進目標策定

6月 ■ 書架整理ボランティア講座開催、活動開始

2016年1月 ■ 写真パネル展「こうなんいまむかし」開催

5月 ■ 開館30周年事業「お休み処」の設置（中庭の開放）

7月 ■ 開館30周年事業港南歴史講座（夏休み親子歴史講座）開催

2017年1月 ■ 開館30周年事業写真パネル展「こうなんいまむかし～空から見た港南～」、記念講演会「江戸時代の港南区域の村々を検索する」

（神奈川大学教授：田上繁氏）、パネルディスカッション「港南図書館の誕生の頃」開催

9月 ■ 「医療情報コーナー」開設

2018年1月 ■ 写真パネル展「こうなんいまむかし」開催

講演会「こうなん今昔ばなし」（亀野哲也氏）開催

2019年6月 ■ 「医療情報コーナー」拡大リニューアル

11月 ■ 港南区制50周年写真パネル展「こうなんいまむかし」開催

2020年3月 ■ 第二次港南区読書活動推進目標策定

11月 ■ 読書活動推進講演会「好きこそもの上手なれ～動物画家藪内正幸について～」（藪内正幸美術館館長：藪内竜太氏）開催

2021年2月 ■ 読書活動推進事業「親子で楽しむわらべうた」（藤平等子氏）開催

11月 ■ 港南図書館35周年特別企画展示会「井上ひさし展～ふかいことをおもしろく～」、講演会「わが友 井上ひさし」（小川荘六氏）開催



ボランティア合同おはなし会



開館20周年記念事業リサイクルブック市



「お休み処」

保土ヶ谷図書館

昭和57(1982)年5月7日開館



住所 〒240-0006 保土ヶ谷区星川1-2-1

建物 鉄筋コンクリート造3階
(図書館部分2・3階)
延床面積 (2,477.02㎡)

併設施設 保土ヶ谷公会堂

西暦

できごと

- 1982年 5月 ■ 7日保土ヶ谷図書館開館
- 9月 ■ 区政施行55周年記念の文化のつどいで錦絵・写真資料を展示
- 12月 ■ 第1回目のおはなし会開催。100名近い子どもたちが参加
- 1983年 7月 ■ 子ども向け「1日図書館員」を全館で初めて開催
- 10月 ■ 胡桃沢耕史氏を講師に招き文化講演会開催
- 11月 ■ 郷土資料展「横浜もののはじめ」開催
- 1984年 ■ 図書資料数が10万冊を超える
- 1985年 3月 ■ 団体貸出サービス開始
- 1986年 8月 ■ 国際図書館連盟第52回大会参加の中国代表团、保土ヶ谷図書館を視察
- 秋 ■ 「読み聞かせとストーリーテリング講習会」保土ヶ谷・旭・瀬谷図書館合同開催
- 10月 ■ 尾辻克彦(赤瀬川原平)氏を講師に招き文化講演会開催
- 11月 ■ 上海市友好学校代表团、保土ヶ谷図書館を視察
- 12月 ■ 大庭みな子氏を講師に招き文化講演会開催
- 1987年 12月 ■ 視覚障害者サービスを始め、録音図書の製作を開始
- 常盤新平氏を講師に招き文化講演会開催
- 1988年 12月 ■ 池内紀氏を講師に招き文化講演会開催
- 1989年 11月 ■ 菊池信義氏を講師に招き文化講演会開催
- 1990年 ■ ドイツ人研修生受け入れ(日本の公共図書館制度に関心を持つ女性研究者)
- 12月 ■ 工藤直子氏を講師に招き文化講演会開催
- 1991年 11月 ■ 澤幡正範氏を講師に招き文化講演会開催
- 1992年 ■ 開館10周年記念事業
- 5月 ■ 人形劇公演開催
- 8月 ■ 子ども落語寄席開催
- 10月 ■ 大沢在昌氏を講師に招き文化講演会開催
- 1993年 1月 ■ 西村秀俊氏を講師に招き開館10周年記念講演会開催
- 1994年 10月 ■ 西丸與一氏を講師に招き文化講演会開催
- 1995年 2月 ■ 林望氏を講師に招き文化講演会開催
- 1996年 1月 ■ 網野善彦氏を講師に招き文化講演会開催



1983年文化講演会(胡桃沢耕史氏)



開館10周年記念事業(大沢在昌氏)

- 1997年 2月 ■ 中嶋博行氏を講師に招き文化講演会開催
- 12月 ■ 佐々木瑞枝氏を講師に招き文化講演会開催
- 2002年 3月 ■ 展示会「Yokohama's Memory〈保土ヶ谷〉の記憶を呼び戻す」開催
- 2005年 9月 ■ 読み聞かせ等ボランティア養成講座開催
- 2007年
 - 「初めて出会う絵本コーナー」設置
 - リサイクル文庫（現：リユース文庫）設置
- 10月 ■ 区制80周年記念展示「保土ヶ谷区誕生の頃は…」ほか開催
 - 「ティーンズコーナー」設置
- 2008年
 - 利用者用インターネット端末設置
 - 7月 ■ 保土ヶ谷・旭・泉・瀬谷図書館合同企画「としょかんキッズスタンプラリー」開催
- 2009年 3月 ■ 半年にわたる耐震補強等工事が完了。3月29日に再開館。
再開記念イベントとして、記念親子おはなし会、展示「浮世絵・東海道宿ものがたり 保土ヶ谷・神奈川・戸塚」開催
- 2010年 5月 ■ オンラインデータベース提供開始（聞蔵ビジュアルⅡ）
- 2012年 5月 ■ 開館30周年記念事業
歴史講座「伝馬制度と保土ヶ谷宿」、展示「保土ヶ谷宿」「写真でたどるあの頃の保土ヶ谷」、歴史散歩「東海道保土ヶ谷宿を訪ねて」、郷土の紙芝居上演開催
 - 「読み聞かせに向く本コーナー」設置
- 2014年 9月 ■ 「子育て支援コーナー（現：子育て情報コーナー）」設置
- 10月 ■ 保土ヶ谷区読書活動推進目標策定
- 2016年 1月 ■ 「身近な法律相談コーナー」設置
- 2017年 5月 ■ 開館35周年記念事業
講演会及び展示「相鉄の昨日・今日・明日」
通年テーマ展示「おとなの教養リベラルアーツ」
児童向け企画「本の木を育てよう！」開催
- 2019年 1月 ■ 「情報科学コーナー」設置
- 2020年 1月 ■ 保土ヶ谷区役所との共催で齋藤孝氏を講師に招き文化講演会開催
 - ティーンズコーナーをリニューアル
- 3月 ■ 第二次保土ヶ谷区読書活動推進目標策定



開館30周年記念事業展示『保土ヶ谷宿』



リニューアル後のティーンズコーナー



第二次保土ヶ谷区読書活動推進目標

旭図書館

昭和61(1986)年5月14日開館



住 所 〒241-0005 旭区白根4-6-2

建 物 鉄筋コンクリート造2階
延床面積 (1,507.80㎡)

西暦

できごと

- 1986年5月 ■ 旭図書館開館。相鉄沿線には、保土ヶ谷・旭・瀬谷図書館の3館が揃う
- 1987年10月 ■ 「ストーリーテリング講習会」(佐々梨代子・湯沢朱実・木戸ノブ子・松居直の各氏) 開催 (全5回)
- 1988年2月 ■ 講演会「日本の文字社会の特質」(網野善彦氏) 開催
- 1989年12月 ■ 講演会「文化の重層性と生の円環運動」(丸山圭三郎氏) 開催
- 1990年10月 ■ 講演会「現代文学の行方～文学賞選考に見る～」(江藤淳氏) 開催
- 1992年1月 ■ 講演会「脳から見た世界」(養老孟司氏) 開催
- 9月 ■ 「絵本の読み聞かせ講習会」(石川道子氏) 開催
- 11月 ■ 郷土資料展「旭区今昔都筑の里から今日まで」開催
関連行事として郷土史に造詣の深い講師を招き講演会を2回開催
- 1993年9月 ■ 講演会「ゾウの時間ネズミの時間」(本川達雄氏) 開催
- 1994年11月 ■ 講演会「漱石再入門」(小森陽一氏) 開催
- 講習会「紙芝居の世界－その魅力と演じ方」(右手和子氏) 開催 (全3回)
- 1995年12月 ■ 講演会「野球と映画と私」(赤瀬川隼氏) 開催
- 1996年1月 ■ 講習会「布えほんを作ってみませんか」(池上従子氏) 開催 (全4回)
- 12月 ■ 開館10周年記念文化講習会「わたしの原風景～絵の中のほくの村」(田島征三氏) 開催
- 1997年2月 ■ 講演会「昔話のメッセージ」(小澤俊夫氏) 開催
- 11月 ■ 講習会「手ぶくろ人形講習会」(高田千鶴子氏) 開催 (全3回)
- 1998年3月 ■ 視覚障害者サービスを開始
- 10-11月 ■ 「旭のいきいき人間登場」を初めて開催*区内在住の講師陣を招いての講演会「ヒロシマを撮る」(土田ヒロミ氏)、「旭区と畠山重忠」(福島勉氏)、「かるたは好きですか?」(渡辺令恵氏)、以後ほぼ毎年開催。
- 2006年 ■ 開館20周年利用者アンケート「新成人に贈る本」を実施
図書による展示やリサイクルブック市を開催
- 2007年 ■ 定例の子どもおはなし会に加え、司書による親子おはなし会を始める
- 2008年7月 ■ 旭・保土ヶ谷・泉・瀬谷図書館合同で「としょかんキッズスタンプラリー」開催



養老孟司氏講演会

- 11月 ■ 「旭区読み聞かせボランティア交流会」開催。
以後ほぼ毎年開催
- 2009年 ■ 図書館で活動するボランティア向け養成講座を開催
■ 書架整理・図書修理・読み聞かせボランティアが活動開始
■ こどもおはなし会をボランティアと協働開催とする
- 11月 ■ 講演会「地図で見る旭区のうつりかわり」(村田啓輔氏)開催
- 2010年11月 ■ 歴史ウォーク「重忠ゆかりの史跡をめぐる」(村田啓輔氏)開催
以後、図書館で歴史ウォークを複数回開催
- 2011年 5月 ■ 「旭図書館応援隊」(利用者懇談会)設置
7月 ■ 開館25周年記念事業開催。展示「ズーラシアのどうぶつたち」開催
展示期間内に、ズーラシア職員によるトークイベントなどを開催
11月 ■ 講演会「私流生き方窮窮自適-60歳で飛び込んだ新しい世界-」(渡辺利雄氏)開催。以後図書館で講師による「かみしばいの会」などの活躍に発展
- 2012年 3月 ■ 屋上緑化を契機に、4月から市民による「グリーンボランティア」活動が始まる
7月には講習会「グリーンボランティア研修会」を開催、10月～11月には展示「暮らしに緑を」、オープン・ガーデン「あさひくんの庭」園芸講座を開催
■ 「子育て情報コーナー」を開設。地域の子育てに関する情報や資料等の提供をはじめめる。
- 9月 ■ 保土ヶ谷・泉・瀬谷と共に学校ボランティア向け講座を開催。以後ほぼ毎年開催
- 2013年 2月 ■ 講演会「知られざる旭区のパイオニア～桜井光興の業績」(草間俊郎氏)開催
3月 ■ 旭図書館で活動する、各種ボランティアが集う交流会を初めて実施
10月 ■ 展示「あさひくんと山室萌美の世界」開催
*誕生5周年を迎えた「あさひくんと」と作者山室萌美さんの作品展
11月 ■ ボランティアフェスティバル開催
- 2014年 8月 ■ 子供向け畠山重忠講座(渡辺利雄氏、斎藤国勝氏)開催
11月 ■ 旭区読書活動推進目標策定
■ 読書推進講演会「だいすき!絵本の時間」(長野ヒデ子氏)開催
- 2015年10月 ■ ボランティア講座「やってみよう!赤ちゃん向けおはなし会」(講演:石川道子氏、講習:阪口道子氏)開催(全3回)
以後こどもおはなし会に続き、親子おはなし会もボランティアと協働で開催
- 2016年10月 ■ ボランティアによる「大人のためのおはなし会」開催。以降ほぼ毎年開催
11月 ■ 講演会「朗読との出会い～その魅力を語る」(小川竹子氏、上野廣氏)開催。以後の朗読会開催へと繋がる
■ 旭図書館30周年記念事業
講演会「子どもと味わう絵本の魔法」(中村榎子氏)などを開催
- 2017年 3月 ■ 旭図書館30周年記念事業として、旭区風景写真アーカイブ「よみがえる昭和の街並み」を旭図書館ホームページで公開。記念展示「写真で見る昭和の街並み」を旭公会堂など区内施設8か所で巡回展示開催
9月 ■ ボランティアによる「旭朗読を楽しむ会」を初めて開催。
以降毎年開催
- 2018年 2月 ■ 講演会「お年寄りと楽しむ絵本の時間」(山花郁子氏)開催
- 2019年 7月 ■ 第二次旭区読書活動推進目標策定
■ ミステリー作家・青崎有吾氏講演会&現場検証図書館ツアー開催
11月 ■ 「旭区中学生ビブリオバトル大会」(瀬部貴行氏)開催
- 2022年 2月 ■ 旭図書館35周年記念講演会「小説家たち、図書館を語りつくす!」(青崎有吾氏・大崎梢氏・森谷明子氏)オンライン配信により開催



旭図書館ボランティア交流会



30周年記念講演会

磯子図書館

昭和49(1974)年10月6日開館



開館当時の写真

住 所 〒235-0016 磯子区磯子3-5-1

建 物 鉄骨鉄筋コンクリート造 地下3階地上7階
(図書館部分地下1階)
延床面積 (2,891.66㎡)

併設施設 磯子区役所、磯子公会堂

西暦

できごと

- 1973年7月 ■ 磯子図書館準備室発足
- 1974年10月 ■ 磯子図書館開館
- 1980年6月 ■ 貸出方法をコンピュータ方式に転換
- 1984年10月 ■ 開館10周年を記念して「わがまち磯子の作家と作品展」開催
冊子『わがまち磯子の作家と作品展』発行
- 1986年3月 ■ 講演会「子どもの心と絵本」(松居直氏) 開催
- 10月 ■ 講演会「横浜ストリートライフ—その周辺—」(佐江衆一氏) 開催
- 1988年2月 ■ 講演会「南部こそアメリカだ—アメリカ南部滞在記—」(栗本慎一郎氏) 開催
- 1989年3月 ■ 文化講演会「皆川博子自作を語る—素材から作品へ—」(皆川博子氏) 開催
- 11月 ■ 文化講演会「山田太一氏にきく」(山田太一氏) 開催
- 1990年10月 ■ 文化講演会「時刻表を旅する」(種村直樹氏) 開催
- 1991年12月 ■ 斎藤栄氏から寄贈本を290冊受領
- 1992年3月 ■ 文化講演会「安西水丸セルフポートレート」(安西水丸氏) 開催
- 1993年2月 ■ 文化講演会「路上ウォッチング入門」(林丈二氏) 開催
- 1995年3月 ■ 文化講演会「桂歌丸師匠が語る”笑いのある人生”」(桂歌丸氏) 開催
- 1996年3月 ■ 文化講演会「死体とつきあう」(養老孟司氏) 開催
- 1997年3月 ■ 磯子図書館移転再整備工事着手
- 1999年3月 ■ 文化講演会「お母さんが子供の頃は、磯子の海って海水浴場だったの? ~昭和30年代の磯子・根岸の移り変わり~」(田中常義氏) 開催
- 11月 ■ 磯子区総合庁舎に移転開館。郷土資料展開催
- 12月 ■ 視覚障害者サービス開始
- 2000年9月 ■ 磯子区リサイクル文庫 愛称「みんなのコスモス文庫」開始
- 2001年7月 ■ 郷土画家坂田徳次氏の作品の寄贈を受ける
- 10月 ■ 磯子の郷土写真展開催
- 2002年5月 ■ 「親子で楽しむおはなし会」開始
- 2003年6月 ■ 「磯子区おはなし広場」(4か月見健診における絵本の読み聞かせとわらべうた) 開始
- 2005年4月 ■ 「本の修理・いそご」が磯子図書館で本の修理ボランティア活動開始
- 2006年10月 ■ 郷土資料展示会「横浜市立図書館所蔵資料に見る美空ひばり展 横浜時代とその後」開催
- 2007年9月 ■ 郷土資料展示会「磯子区の四半世紀を振り返る」開催
- 2009年10月 ■ 展示「坂田徳次絵画展 懐かしき磯子の原風景…昭和30~60年代」開催

- 2010年 2月 ■ 講演会「子どもと楽しむ絵本の世界」(中村 証子氏) 開催
- 7月 ■ 市民有志で「いそご図書館サポーターズクラブ」発足
- 9月 ■ 展示「あなたが好きな磯子の風景」[番付で楽しむ世相と評判展] 開催
- 10月 ■ 「世界の「星の王子さま」展」開催
- 2011年 1月 ■ 展示「坂田徳次絵画展Part 2 懐かしき磯子の原風景…昭和30～60年代」開催
- 3月 ■ 「医療情報コーナー」オープン記念講座開催
 - 汐見台中学校とのポップアップ展示会開催。以後継続して実施
- 4月 ■ ボランティアグループ「よこはまおはなしの会」協力による「大人のためのおはなし会」開催。以後継続して実施
 - ライブラリー・フルーツコンサート開催 (演奏:吉川久子氏)
- 6月 ■ 展示「横浜市立図書館所蔵資料に見る美空ひばり展 横浜時代とその後」開催
- 7月 ■ 企画「あなたが好きな磯子の風景」住民から投稿を募る。その後、風景写真展を10月11日まで開催
- 11月 ■ 横浜市内で初めて「ぬいぐるみといっしょのおはなし会&ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」開催
- 2013年 4月 ■ 写真展「横濱南部歴史写真帖」開催
- 2014年 1月 ■ 「磯子のまち・ひと・堀割川パネル展」開催
- 5月 ■ 40周年記念事業として講演会「デーケン氏講演会とアイルランド音楽のひととき」(アルフォンス・デーケン氏、守安功・雅子氏) 開催
- 9月 ■ 40周年記念事業として展示「昭和の磯子展」開催
 - ボランティアグループ「本の修理・いそご」に対し日本図書館協会から感謝状が贈られる
- 2015年 2月 ■ 磯子区読書活動推進目標策定
- 8月 ■ 磯子区内施設で「ライフステージに合わせた本の巡回展示」実施
- 11月 ■ 講演会「家読(うちどく)は大人を変え子どもを変える」(柳田邦男氏) 開催
- 2016年 9月 ■ 展示「坂田徳次絵画展 懐かしき磯子の原風景」開催
- 11月 ■ 講演会「小惑星探査機『はやぶさ』の的川博士が語る!『夢を追い続けて!』」(的川泰宣氏) 開催
- 2017年 9月 ■ 企画展示「磯子区の90年」開催
- 11月 ■ 講演会「写真を通じた横浜の記憶」(森日出夫氏) 開催
- 2018年 2月 ■ 講演会「初めの一步はわらべうたと絵本～幼い子のための楽しい読み聞かせ～」(石川道子氏) 開催
- 12月 ■ 講演会「人生を豊かにする読書のススメ」(阿刀田高氏) 開催
- 2019年10月 ■ 講演会「『読書』と『探検』」(角幡唯介氏) 開催
- 2020年 2月 ■ 第二次磯子区読書活動推進目標策定
- 2021年 1月 ■ 講演会「読書と根岸湾、ときどき子ども」(小杉啓司氏) 開催



ぬいぐるみのとしょかん おとまり会

かつての磯子の風景

写真は埋立て前の屏風ヶ浦の風景です。磯子区は、昭和30年代半ばからの根岸湾埋立てにより、大きく変貌しました。磯子図書館では、このような地域の変遷を記録した写真をデジタル化し、市立図書館デジタルアーカイブ「都市横浜の記憶」で公開しています。



金沢図書館

昭和55(1980)年5月15日開館



住所 〒236-0021 金沢区泥亀2-14-5

建物 鉄筋コンクリート造 地下1階地上2階
(図書館部分1・2階)
延床面積 (2,121.25㎡)

併設施設 金沢地区センター

西暦

できごと

- 1980年5月 ■ 金沢図書館開館
- 10月 ■ 「金沢区文庫の集い」開催
- 1981年3月 ■ 横浜市金沢図書館報「かなざわ」創刊
- 1984年3月 ■ 団体貸出サービス開始
 - 『武蔵国久良岐郡谷津村 小泉家文書上』を刊行
(下巻は85年3月刊行)
- 1985年11月 ■ 10日～11月17日、開館5周年記念行事「かなざわの100年展」開催
 - 『かなざわの100年展 六浦県から海の公園まで』を刊行
- 1987年 ■ 対面朗読室を設け、視覚障害者サービスを開始
 - 3月 ■ 講演会「女赤ひげの診療日記より」(佐伯輝子氏)開催
- 1988年3月 ■ 講演会「私の家族論」(桜井陽子氏)開催
- 1989年3月 ■ 講演会「詩のなかのわたし／わたしたち」(谷川俊太郎氏)開催
- 1990年2月 ■ 講演会「子どもの本といまとわたし」(清水真砂子氏)開催
- 10月 ■ 開館10周年記念講演会「書物の森へ」(荒俣宏氏)開催
- 1991年10月 ■ 区役所と共催で講演会「福島瑞穂の時代探検」(福島瑞穂氏)開催
- 1992年11月 ■ 講演会「絵のこころ」(太田治子氏)開催
- 1993年9月 ■ 講演会「四万十川今と昔」(笹山久三氏)開催
- 1994年11月 ■ 講演会「ノンフィクション作家になるまで」(久田恵氏)開催
- 1996年9月 ■ 講演会「いま、話したいこと」(沢木耕太郎氏)開催
- 1997年10月 ■ 講演会「ぼくと小説」(芦原すなお氏)開催
- 1998年12月 ■ 講演会「サッカーの世界～2002年へのキックオフ」(財徳健治氏)開催
- 2000年5月 ■ 開館20周年記念事業「図書館本ガレージフェア」開催
- 2004年 ■ 一般書フロアに「YAコーナー(ティーンズコーナー)」を開設
- 2006年 ■ 郷土資料展を開催
- 2007年1月 ■ インターネット閲覧サービス開始
 - 9月 ■ 読み聞かせボランティア養成講座の実施(～10月)
- 2008年10月 ■ 『横浜市金沢図書館貴重資料目録 金沢区制60周年記念展示』を刊行
- 2009年6月 ■ 金沢区と連携し、金沢文庫駅構内に返却ポストを設置



小泉家文書 上・下



金沢図書館所蔵 貴重資料

- 10月 ■ 耐震補強等工事のため休館し、仮設窓口で開館
- 12月 ■ 開館30周年に先駆け、金沢図書館マスコットキャラクター「りーどくん」が誕生
- 2010年 3月 ■ 耐震補強等工事完了。書架を増設しトイレのオストメイト化を実現
- 4月 ■ 関東学院大学との連携事業として展示「関東学院大学図書館コレクション星の王子さま展」開催
- 5月 ■ 開館30周年記念講演「あらホント!?目からウロコの金沢区」（県立金沢文庫：向坂卓也氏）開催
- 10月 ■ 絵本の読み聞かせ講座（湯沢朱実氏）実施
- 2011年 3月 ■ 図書館図書修理講座（森理恵氏）実施
- 4月 ■ なかとしょかんモックとかなざわとしょかんりーどの子どもの読書の日イベントを開催（～5月）
- 6月 ■ 金沢図書館図書修理ボランティア活動開始
- 7月 ■ 金沢動物園と共催で展示「大昆虫博2011」開催（～9月）
- 8月 ■ ボランティアグループみどりのたねと協働で「こわ～いおはなし会」開催
- 2012年 1月 ■ 市立図書館開館90周年事業として展示「金沢区から見る富士山」及び、講演会「金沢区から見る富士山の魅力」開催
- 3月 ■ 金沢区の方針により、金沢文庫駅構内の返却ポスト設置を終了
- 5月 ■ 展示「金沢の観光～湘南電気鉄道を中心に～」開催
- 7月 ■ 講演会「1930年代の金沢」（横浜市史資料室：久野淳一氏）開催
- 2013年 2月 ■ 展示「懐かしい昭和の金沢の写真」開催（～3月）
- 3月 ■ 講演会「称名寺と金沢文庫」（金沢文庫主任学芸員：永井晋氏）、
「朝夷奈切通と六浦津」（横濱金澤シティガイド協会：坂井一郎氏）開催
- 8月 ■ 金沢動物園と共催で講演会「身近な昆虫のお話」開催
- 10月 ■ 講演会「中近世の瀬戸周辺の歴史」（埋蔵文化財センター：鹿島保宏氏）開催
- 2014年 7月 ■ みどりのたねと共催で講演会「昔話が語る子どもの成長」（小澤俊夫氏）開催
■ 児童書フロアに「おはなし会に向く絵本のコーナー」を開設
■ 郷土資料コーナーに「金沢区ゆかりのコーナー」を開設
- 2015年 2月 ■ 金沢区読書活動推進目標策定
- 3月 ■ 講演会「目で聴き、耳でみる『シェイクスピア作品入門』」（関東学院大学シェイクスピア英語劇演出主幹：瀬沼達也氏）開催
- 4月 ■ 金沢図書館開館35周年を記念し
展示「金沢図書館が生まれたころ」開催（～5月）
- 5月 ■ 「祝！開館35周年本の福袋」実施
- 6月 ■ 金沢図書館書架整理ボランティア活動開始
- 7月 ■ 「深海のナゾに挑むJAMSTEC海洋研究開発機構」①展示②映像上映会③体験会を開催
- 秋 ■ 「金沢区読書フェスティバル」開始
- 秋 ■ 横浜市立大学、関東学院大学と連携し、かなざわ大人のライブラリーツアーを開催
- 11月 ■ 講演会「健康長寿の脳科学」（横浜市立脳卒中・神経脊椎センター病院長：山本勇夫氏）開催
- 2016年 3月 ■ 「金沢区紙芝居の会かなみん」と協働で「かみしばいを楽しもう！」の会を実施
- 11月 ■ 乳幼児4ヶ月健診での「絵本とわらべうたのおはなし」開始
- 2017年 2月 ■ 「金沢区読書施設マップ」を発行開始
- 11月 ■ 金沢消防署の協力で「おはなし会に消防士さんがやってくる！」開催
- 2018年 3月 ■ 講演会「京浜急行電鉄駅の物語 金沢区とともに」（飯島学氏）開催
- 2019年 7月 ■ 講演会「桜の名所、富岡総合公園の秘められた歴史」（大島幹雄氏）開催
- 2020年 3月 ■ 第二次金沢区読書活動推進目標策定
- 10月 ■ 開館40周年講演会として「未来の図書館をはじめめる－金沢文庫と金沢図書館に育まれて－」（岡本真氏）、「大橋新太郎と図書館」（奥泉和久氏）開催
- 2021年 2月 ■ 館内照明のLED化工事を実施
- 4月 ■ 令和3年度子供の読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受賞



金沢図書館
マスコットキャラクター
「りーどくん」

港北図書館

昭和55(1980)年8月27日開館



住所 〒222-0011 港北区菊名6-18-10

建物 鉄筋コンクリート造3階
(図書館部分1・2階)
延床面積 (2,372.05㎡)

併設施設 菊名地区センター

西暦

できごと

- 1973年 ■ 「日吉に図書館を作る会」が22,500人の署名を集めて市長陳情
- 1977年 ■ 「港北文庫のつどい」を中心に地域住民による図書館設置運動が始まる
- 1980年 8月 ■ 旧港北区役所を利用して、港北図書館開館
- 1981年 ■ 定例おはなし会が始まる
- 1983年 3月 ■ 「港北古文書を読む会」とともに『望月家文書第1輯』を発行
8月 ■ パネル展示「終戦直後の横浜展」実施。以後、1996年頃まで毎夏、戦争をテーマとした展示会を実施。新聞等でも取り上げられた。
- 1984年 3月 ■ 団体貸出サービス開始
■ 「港北古文書を読む会」とともに『皇国地誌』を発行
- 1985年 3月 ■ 『望月家文書第2輯』を発行
8月 ■ 記念事業「8.15いつか来た道」(連続講座、映画会、写真展、講演会)を開催
10月 ■ 視覚障害者サービス開始
図書館2階に対面朗読室を設置
■ 港北図書館開館5周年、港北センター5周年の記念切手発売
- 1986年 3月 ■ 『小・中学生のための港北の歴史 上』発行
- 1990年 7月 ■ 港北図書館朗読ボランティア有川満智子氏に「愛の翼賞」が贈られる
- 1995年 1月 ■ 港北図書館で活動する「港北文庫のつどい」が20周年のあゆみをまとめ、発行
- 1998年 6月 ■ 修理ボランティア活動開始
- 2002年 ■ 絵本の読み聞かせ講習会開催
- 2006年 3月 ■ 企画展示「港北区文化財パネル展」開催
- 2010年 ■ 開館30周年記念事業を実施
パネル展示「港北よくばりパネル展」開催
企画展示・講演会「菊名を巡って・・・写真と郷土資料」開催
横浜F・マリノス「こうほくサンクスマッチ」パネル出展
企画事業「みんなの好きな本、すすめる本」を募集、結果を展示
大倉精神文化研究所との共同企画展示「絵ハガキで訪ねる」開催
30周年を記念し「としょんぼ」「てんてん」「カブック」の3匹のキャラクターが誕生
港北図書館友の会が発足



開館5周年の様子

- 「暮し・おしごと情報コーナー」（現・お仕事情報コーナー）開設
- 2011年10月 ■ 「港北図書館友の会」の協働のもと、「港北図書館おはなし会活動経験交流会」を開催
この交流会がきっかけで、現在港北図書館で土曜に開催しているおはなし会・朗読会が始まっていく。
- 2012年1月 ■ 土曜日開催のおはなし会「えいごdeおはなし会」が始まる
- 緑・都筑図書館とともに横浜市北部地域写真アーカイブ「丘のヨコハマ写真館」をホームページで公開
- 4月 ■ 土曜日開催のおはなし会「一土のおはなし会」「紙芝居の日」が始まる
- 10月 ■ 土曜日開催の朗読会「大人のための朗読会」が始まる
- 11月 ■ 「丘のヨコハマ写真館」開設記念写真展を開催
- 2013年8月 ■ 耐震補強工事を行う。仮設窓口にて限定したサービスを提供
- 2014年3月 ■ 耐震補強工事を終え、25日より再開館
再開に伴い「港北まちの情報コーナー」の開設ほか、館内レイアウトを大きく変更
- 9月 ■ 土曜日開催の朗読会「朗読の部屋」が始まる
- 6月 ■ 「港北ふるさと映像上映会」の定期開催を開始
- 2015年 ■ 要望が多かった「ひよこのおはなし会」を月に1回から2回へ変更。それに伴い、読み聞かせボランティアを募集
入門講座（全4回）を受講した10名で「ひよこのおはなし会ボランティア」を結成、活動を開始
- 1月 ■ 港北区読書活動推進目標策定
- 8月 ■ 開館35周年記念事業を実施
企画展示「港北図書館開館のころ」を開催
記念イベント（人文字づくり、大道芸、紙芝居、講演会）を開催
横浜F・マリノス「こうほくサンクスマッチ」お絵かきコンテスト開催
- 12月 ■ 第17回図書館総合展「図書館キャラクター・グランプリ」にて、「見た目勝負」で港北図書館のキャラクターが入賞
- 2016年11月 ■ 第18回図書館総合展「地方創生レファレンス大賞」にて、港北図書館・港北区役所・大倉精神文化研究所がともに取り組んできた「横浜港北昔ばなし紙芝居の創作・上演・ライブラリー活動支援de地域の元気づくりと地域文化の継承」が、審査員会特別賞を受賞
- ビブリオバトルを開催（全3回）（7月・10月・17年2月）
- 2019年4月 ■ 修理ボランティア、神奈川県図書館協会より表彰
- 2020年10月 ■ 第二次港北区読書活動推進目標策定
- 開館40周年を記念し、敷地内にハナミズキを植樹
- 2021年3月 ■ 利用者からの声に応え、トイレ設備の一部を改修
- 2022年1月 ■ 新しい図書取次サービス拠点として、日吉駅前に「日吉図書取次所（愛称：日吉の本だな）」が開設される



港北まちの情報コーナー



日吉の本だな

港北図書館のキャラクター

2010年8月、港北図書館の開館30周年を記念して、3匹のキャラクターが誕生しました。

キャラクターの名前は、市民のみなさんから募集し、決選投票をして、それぞれいちばん人気のあった名前に決まりました。



緑図書館

平成7(1995)年5月9日開館



住 所 〒226-0025 緑区十日市場町825-1

建 物 鉄筋コンクリート造 地下1階地上3階
(図書館部分1階、地下)
延床面積 (1,987.38㎡)

併設施設 老人福祉センター「緑ほのぼの荘」、
十日市場地域ケアプラザ

西暦

できごと

- 1995年 5月 ■ 緑図書館開館 (蔵書数4万5千冊)
- 12月 ■ 開館記念講演会「『坊ちゃん』の時代～明治の作家たち～」(関川夏央氏) 開催
- 1996年12月 ■ 視覚障害者サービス開始
- 1997年 3月 ■ 文化講演会「テレビゲームと心の癒し」(香山リカ氏) 開催
- 9月 ■ 文化講演会「だから明治はおもしろい」(坪内祐三氏) 開催
- 1998年 3月 ■ 絵本の講習会「子育てに絵本を」(山崎翠氏) 開催
- 1999年 2月 ■ 文化講演会「子ども虐待を考える」(椎名篤子氏) 開催
- 3月 ■ 絵本の講習会「私の薦める絵本」(米田佳代子氏) 開催
- 2000年 2月 ■ 緑区制30周年記念講演会「大人と子どものつき合い方」(斎藤次郎氏) 開催
- 2002年 3月 ■ 蔵書数が10万冊を超える
- 2005年 5月 ■ カウンター拡張工事実施。開館10周年記念事業「苗木の無料配布」を実施
- 11月 ■ 開館10周年記念講演会「地球温暖化を考える」(小川恵一氏) 開催
- 2006年12月 ■ 文化講演会「カーリング観戦の楽しみ参加する喜び」(小川豊和氏) 開催
- 2007年 1月 ■ 緑図書館おはなしボランティア発足
- 2008年 2月 ■ リサイクル文庫(現リユース文庫)を入り口ホールに設置
- 3月 ■ 緑区地域子育て支援拠点いっぽ主催の第1回みどりおはなしフェスタで、緑図書館司書による「ママのための絵本入門講座 絵本の楽しみ方」開催
- 9月 ■ 横浜線開通100周年記念巡回資料展「鉄道とまちの歩み」開催(～10月)
- 10月 ■ 横浜線開通100周年記念講演会「横浜線と沿線のあゆみ」(岡田直氏) 開催
- 2009年 3月 ■ 緑区学校ボランティア交流会を初めて開催
- 4月 ■ 展示「田島征三絵本原画展」開催(～5月)
- 6月 ■ 横浜開港150周年・横浜市編入70周年記念巡回展示「4区のチェンジ! 大変貌展」開催
- 12月 ■ 緑図書館修理ボランティア発足
- 2010年 4月 ■ 開館15周年記念展示「ベストセラー・タイムトリップ1995→2010」開催(～5月)
- 5月 ■ 開館15周年記念子ども講演会「鉄道を知ろう!」(JR長津田駅駅員) 開催
- 7月 ■ 開館15周年記念「子ども+大人のためのおはなし会」開催
- 2011年 3月 ■ 緑図書館オリジナル家読み支援ビデオ「わらべうたDVD」の貸出開始
 - カウンターのレイアウトとサイン(表示)を改修
- 11月 ■ 港北・緑・都筑図書館合同事業「地図でわが町再発見」関連講演会「防災基礎講座 地図で考えるわが町の防災」(須永洋平氏) 開催
- 2012年 1月 ■ 横浜市北部地域写真アーカイブ「丘のヨコハマ写真館」をホームページで公開

- 5月 ■ 緑図書館オリジナル「はじめて出会う赤ちゃん絵本セット」と「読み聞かせ講座（初級）DVD」貸出開始
- 11月 ■ 緑図書館オリジナル「ママ・パパに贈るはじめての絵本解説講座DVD」貸出開始
- 2013年9月 ■ 横浜市史資料室所蔵写真パネル展「横浜・関東大震災の記憶」&ギャラリートーク（松本洋幸氏）開催
- 2014年8月 ■ 子ども講演会「昆虫ハカセに聞く！不思議な虫のはなし」（よこはま動物園ズーラシア職員）開催
- 10月 ■ 緑区民まつりで、本の持ち寄り交換会「かえっこBook」開催
- 11月 ■ 緑図書館オリジナル「1・2歳向け絵本セット」の貸出開始
- 2015年1月 ■ 緑区読書活動推進目標を策定、3月に「緑区読書まっぷ」発行
- 3月 ■ 緑区乳幼児健康診査で「赤ちゃん向け絵本セット」の案内を配布開始
- 5月 ■ 開館20周年記念事業「横浜創英大学による図書館入口装飾門」制作設置
緑図書館キャラクターの名前を「ぶっくまおやこ」に決定
開館20周年記念講演会「横浜線物語」（相澤雅雄氏）開催（全2回）
- 11月 ■ 地域誌「タウンニュース緑区版」で、絵本の紹介「おやこのためのおすすめ絵本」の連載開始
- 複合3施設誕生20周年記念事業「20周年まつり」を、老人福祉センター緑ほのほの荘・十日市場地域ケアプラザと合同開催
- 2016年2月 ■ 「絵本読み聞かせボランティア講座（初級全2回）」（石川道子氏）開催
- 4月 ■ 文学作品の朗読を録音したCDブックの貸出開始
- 11月 ■ 講演会「原三溪広岡浅子に学ぶブレない生き方・考え方」（永井紗耶子氏）開催
- 2017年7月 ■ ティーンズコーナーに「進路・職業コーナー」と「部活コーナー」を開設
- 絵本コーナーに「3～6歳に向く絵本コーナー」を開設
- 9月 ■ 成人図書室に「健康図書コーナー」を開設
- 12月 ■ 第19回図書館総合展「第3回図書館キャラクター・グランプリ」にて、ぶっくまおやこが審査委員会賞受賞
- 2018年7月 ■ 「中高生のビブリオバトル体験ワークショップ」を県立霧が丘高等学校で開催
- 10月 ■ 外国語図書コーナーに日本語と英語の併記絵本を受入
- セミナー「子育てママのためのお仕事探しのその前に」（山崎悦子氏）開催
- 11月 ■ トークショー「なぜ本屋大賞は、日本一の文学賞になったのか！」（杉江由次氏・草薨主税氏）開催
- 「中高生のための文章術講座」（坪田知己氏）開催
- 2019年4月 ■ 平成31年度子供の読書活動優秀実践図書館として、文部科学大臣表彰を受賞
- 8月 ■ 子ども講演会「なるにはストーリー～あこがれのしごとになる！それと本～」（緑消防署消防士、十日市場保育園保育士、横浜市営地下鉄運転士、よこはま動物園ズーラシア職員）開催
- 9月 ■ ラグビーワールドカップ2019日本大会記念講演会「あたまとからだでラグビーを学ぶ」（平尾剛氏）開催
- 「0歳から図書館へ」のチラシを緑区転入者に配布開始
- 11月 ■ 緑消防50周年記念展示「緑消防50年のあゆみ」を開催
- 12月 ■ 緑区制50周年記念緑区施設間連携事業「ミドリネットスタンプラリー」を開催
- 2020年2月 ■ 第二次緑区読書活動推進目標を策定、8月に「緑区読書まっぷ」発行
- 6月 ■ 空調設備修繕工事のため、子ども図書室のみ開館（～10月）
- 10月 ■ 開館25周年記念郷土写真展「緑区の今昔」開催（～11月）
- 11月 ■ 開館25周年記念事業「横浜創英大学による図書館入口装飾門」制作設置
- 12月 ■ 開館25周年記念講演会「ラジオDJ・ナレーター秀島史香氏が語る「今こそ、本のチカラ」」をYouTubeで配信（～3月）
- 2021年3月 ■ 開館25周年記念講演会「春の十日市場歴史散歩」（相澤雅雄氏）開催
- 館内の全トイレを洋式に交換。成人図書室の壁のクロスを張り替え



緑図書館キャラクター
「ぶっくまおやこ」

山内図書館

昭和52(1977)年4月12日開館



住所 〒225-0011 青葉区あざみ野2-3-2

建物 鉄筋コンクリート造3階
(図書館部分2階)
延床面積 (2,147.22㎡)

併設施設 山内地区センター

西暦

できごと

- 1973年 ■ 「いずみ文庫」の呼び掛けで「緑区美しが丘地域に公共図書館をつくる会」が発足
- 1977年4月 ■ 山内図書館開館。記名式トークン貸出方式を採用
- 1977年10月 ■ 県立図書館の相互貸借協力車巡回開始
- 1978年10月 ■ 講演会「お話しとテーブル人形劇」(加藤暁子氏)開催
- 1979年2月 ■ 一日の貸出数7,384冊を記録し、貸出数日本一の図書館となる
- 1980年6月 ■ コンピュータ貸出開始
- 1981年11月 ■ 映画会開催、ポーランド映画『地下水道』上映
- 1983年8月 ■ 舞台「きりん座げきじょう」ができる。
- 1984年11月 ■ 講演会「子どもの成長と昔ばなし」(小澤俊夫氏)開催
- 1985年11月 ■ 講演会「恐竜の謎をさぐる」(ヒサクニヒコ氏)開催
- 1986年11月 ■ 講演会「こちら本の探偵ですさがしものは何ですか」(赤木かん子氏)開催
- 1987年1月 ■ 増改築工事による仮設プレハブでの開館(～12月)
- 1988年1月 ■ 改修工事が竣工し図書館の広さは約2倍に拡大
- 団体貸出サービス開始
- 2月 ■ 人形劇講習会を開催
- 3月 ■ 講演会「エビと日本人」(鶴見良行氏)開催
- 1988年3月 ■ 海保洋司氏を講師に招き、夏の工作会を開催
- 1989年11月 ■ 郷土資料展示会「民具や写真でたどる故郷の歴史」開催
- 講演会「私達にとってヨーロッパ中世とは」(阿部謹也氏)開催
- 1990年3月 ■ 視覚障害者サービス開始(市内5館目)
- 1995年1月 ■ 講演会「現代の子どもたちと児童文学」(さとうまきこ氏)開催
- 12月 ■ 横浜国際こども手作り絵本巡回展を開催
- 1997年2月 ■ 講演会「『読む』『書く』『生きる』たのしさ」(増田れい子氏)開催
- 昔話講座「昔話～グリムを中心に～アンデルセンと現代の作家たち」(乾侑美子氏)開催
- 1997年5月 ■ 大人のための語りを聞く会「中国の昔話～昔話の知恵～」開催
- 9月 ■ 開館20周年事業歴史講座「青葉区山内地域の歴史」開催



コンピュータ貸出の様子



仮設プレハブの様子

- 1998年 2月 ■ 開館20周年事業講演会「『旅する巨人』を書き終えて」(佐野眞一氏) 開催
 - 手作り絵本講習(神奈川県手作り絵本サークル連盟) 開催
- 1999年 2月 ■ 春休みブックトーク大会開催
- 2005年 1月 ■ 企画展示「身近に見つかる郷土の歴史『都筑閑話』と挿絵の原画展」開催
 - 12月 ■ 青葉区内地区センター1施設での貸出・返却サービス開始
東急田園都市線3駅への返却ポスト設置
- 2006年11月 ■ 青葉おはなしフェスティバル開催
- 2007年10月 ■ 青葉区内地区センター等5施設での貸出・返却サービス開始
 - 開館30周年事業を展開
展示「青葉区の文化財パネルと埋蔵物展」、「あざみ野～あの時の昭和と平成～」、「みんなの本にまつわるエトセトラ」開催
 - 11月 ■ 「図書館で星を見よう!～秋から冬の星空のはなし～」開催
 - 郷土講演会「鷲神社の祭礼と石川村」開催
 - 「子どもと絵本を!乳幼児と一緒に楽しむ、家族のための絵本講座」開催
- 2008年 1月 ■ 企画展示「青葉区の大山街道」開催
 - 8月 ■ 「青葉区風景写真データベース」公開
- 2009年 8月 ■ 講演会「『キノの旅』が生まれるまで～時雨沢恵一氏が語る～」開催
 - 12月 ■ 青葉区の地域写真を展示した「吉村俊介写真展」開催
- 2010年 2月 ■ 「『あおばのもり』を歩く～青葉区郷土資料ウォーク」開催
 - 4月 ■ 山内図書館で指定管理者による運営開始
火～金曜日の開館時間を午後8時30分まで延長
青葉区内コミュニティハウス1施設での貸出・返却サービス開始
 - 12月 ■ 山内図書館で有料宅配サービスの試行開始
- 2012年 4月 ■ 開館35周年事業を展開
 - 7月 ■ 企画展示「1977年への旅～開館時の山内図書館と青葉区の歩み～」開催
 - 9月 ■ 講演会「中村メイコ講演会『私の生き方』～楽しい老いを迎えるために～」開催
このほか田園都市開発講演会、ジオラマ作製等を実施
- 2013年 7月 ■ 有料託児サービス開始
- 2014年10月 ■ 青葉区読書活動推進目標策定
- 2015年 4月 ■ 山内図書館で指定管理者による運営第2期開始
- 2017年 1月 ■ 青葉区役所と共催で村上龍講演会を開催
 - 4月 ■ 開館40周年事業を展開(私の1冊40人展、ビブリオバトル、岸本葉子氏講演ほか)
- 2018年 5月 ■ LifewithReadingのワークショップを開催、以降普及活動をすすめる
- 2020年 4月 ■ 山内図書館で指定管理者による運営第3期開始
- 2021年 3月 ■ 第二次青葉区読書活動推進目標策定



駅返却ポスト



企画展示「1977年への旅」

山内図書館のキャラクター

山内図書館のキャラクターは、「やまちゃん」。
 レッサーパンダの雄、4才という設定です。
 催しのチラシや館内展示、ホームページ、ブログ、ツイッターなどで活躍しています。また、毎月月替わりでシールを作って来館者にお配りしています。これを楽しみに来てくれる子どもたちもたくさんいます。



都筑図書館

平成7(1995)年4月25日開館



住 所 〒224-0032 都筑区茅ヶ崎中央32-1

建 物 都筑区総合庁舎
鉄筋コンクリート造 地下1階地上6階
(図書館部分1階)
延床面積 (2,396.42㎡)

西暦

できごと

- 1995年3月 ■ 都筑区総合庁舎竣工
- 1995年4月 ■ 25日、都筑図書館開館
- 1999年 ■ 都筑区制5周年記念シンポジウム「地域図書館の新たな役割を考える」開催
- 2001年 ■ 郷土資料目録『これであなとも都筑通 都筑資料虎の巻』発行
■ 年間貸出冊数100万冊突破
■ 視覚障害者サービス開始
- 2003年 ■ 市民ボランティア団体「つづき図書館ファン倶楽部」発足
- 2004年 ■ 都筑区制10周年記念事業実施
パネル展示「都筑区10年の歩み～航空写真・地図・文化財パネル展」開催
展示『まるごと港北ニュータウンpart2』開催
- 2005年 ■ 『港北ニュータウン関係資料目録』発行
- 2006年1月 ■ 「読み聞かせとわらべうた講演会(経験者向け)」(石川道子氏)開催
11月 ■ 「ストーリー・テリング講座(初心者向け)」(伊藤洋子氏)開催
- 2008年 ■ 認知症の理解を踏まえる取組として企画展示「知ることから始めよう」開催(以後、毎年実施)
■ 都筑区4か月児健診でのおはなし会を開始
- 2009年 ■ 企画展示「写真でたどる都筑の歴史～つづき入門～」開催
■ 講演会「4区の大変貌(チェンジ)展～都筑郡の歴史」(斉藤司氏)開催
- 2010年 ■ 開館15周年記念事業実施
キャラクター決定トーナメントの結果、都筑図書館キャラクター「みゃーご」「ちゅーず」誕生
講演会「柴田愛子と長野ヒデ子のアイアイ・デコデコ対談」開催
展示「長野ヒデ子原画展」開催
展示「祝15周年つづき図書館誕生祭パネル展」開催
パネル展示「港北ニュータウンを知る」開催
- 2011年2月 ■ つづき図書館ファン倶楽部主催の講座受講生を中心に「つづきっこ読書応援団(TDO/つどおう)」発足



港北ニュータウン
関係資料目録



学校図書館ボランティア大交流会

- 港北・緑図書館との合同企画・マップ博in丘のヨコハマ開催
- 第1回学校図書館ボランティア大交流会開催
- 2012年 ■ 郷土資料パネル展「空から見る都筑」開催
- 1月 ■ 港北・緑図書館とともに横浜市北部地域写真アーカイブ「丘のヨコハマ写真館」をホームページで公開
- 12月 ■ 都筑図書館と関連する市民団体による「都筑図書館から未来を描く協働の会（TMEK）」発足
- レファレンスサービスモデル館として地域情報を集めた「港北ニュータウン地域の暮らし」をホームページで公開。郷土関連レファレンス事例の整備を実施
- 2013年 ■ 区役所・地元企業と連携し、企業紹介パネル展示「メイドインつづき」開催
- 映画「図書館戦争」公開記念展示「ビブリオバトルINつづき」開催
- つづきっこ読書応援団JijiBaBa隊による読み聞かせ「よんであげますよ～」開始
- 2014年10月 ■ 都筑区読書活動推進目標策定
- 講演会「"孤児のアン"から作家に」（山崎洋子氏）開催
- 都筑区子育て支援センター「ポポラ」での出張おはなし会開始
- 2015年 ■ 開館20周年記念事業実施
- ライブラリーナイト（前夜祭）、「本+音+楽」（フィナーレ）開催
- 特別展示「都筑図書館・二十歳の展示会」開催
- 講演会「異文化としての子ども～子どもの本をとっかかりにして～」（吉原高志氏）開催
- 「未来につなぐ、本のあるまち@横浜・都筑フォーラム」開催
- タウンニュース都筑区版『子どもといっしょに絵本を読もう読みきかせのススメ』連載開始
- 2016年 ■ 平成28年度子どもの読書活動優秀実践校等として文部科学大臣表彰を受賞
- 『図説都筑の歴史』企画関連資料展・講演会開催（2019年まで全6回開催）
- 2017年 ■ 本の修理ボランティア養成講座開催
- 2019年11月 ■ 都筑図書館Twitterアカウント開設
- 2020年3月 ■ 第二次瀬都筑区読書活動推進目標策定
- 10月 ■ 出張図書館事業「みゃーごとちゅーずのおでかけ図書館」開始
- 11月 ■ 開館25周年記念事業「つづきブックフェスタ2020」実施



20周年記念事業「ライブラリーナイト」



みゃーごとちゅーずのおでかけ図書館

都筑図書館のキャラクター

2010年、都筑図書館開館15周年を記念して「都筑図書館キャラクター決定トーナメント」というイベントを実施し、都筑図書館のPRキャラクターが誕生しました。

4組のキャラクターの中から、みなさまの投票で選ばれたのが、ブックトラックねこの「みゃーご」と司書ねずみの「ちゅーず」です。名前もたくさんの応募の中から選ばれました。

2015年、第17回図書館総合展で開催された「図書館キャラクター・グランプリ」の「館の働き者」部門に入賞しました。



みゃーご



ちゅーず

戸塚図書館

昭和53(1978)年11月1日開館



住所 〒244-0003 戸塚区戸塚町127

建物 鉄筋コンクリート造 地下1階地上3階
(図書館部分1・2階、地下)
延床面積 (3,386.00㎡)

併設施設 戸塚地区センター、戸塚公会堂

西暦

できごと

- 1977年 8月 ■ 22日戸塚図書館準備室発足
- 1978年 11月 ■ 1日戸塚図書館開館。コンピューター方式 (POS方式) の貸出を初めて導入
- 1979年 5月 ■ 市内全域を対象とした視覚障害者サービスで録音図書の製作・貸出、対面朗読を開始
 - 定例おはなし会を開始
- 11月 ■ 開館一周年記念「横浜絵と戸塚浮世絵展」開催 (協力: 郷土戸塚区歴史の会)
- 1980年 1月 ■ 横浜市戸塚図書館報『戸塚』創刊
- 1982年 9月 ■ 12日台風18号の影響で3時に閉館。地下駐車場と図書館地下書庫に浸水被害。蔵書3万冊余りを失う。10月4日まで復旧作業のため休館
- 1983年 2月 ■ 団体貸出サービスを開始
- 11月 ■ 開館5周年記念行事として人形劇「ねずみの嫁入り」開催
- 1984年 4月 ■ 視覚障害者サービスで点字図書の貸出を開始
- 6月 ■ 講演会「子どもと読書」(長崎源之助氏) 開催
- 1985年 4月 ■ 図書館利用者の登録更新を実施
- 1987年 10月 ■ 郷土資料展「歴史の道と旅」開催 (協力: 戸塚歴史の会)
- 1988年 7月 ■ 1階フロアの開架式書架を増設
- 12月 ■ 開館10周年記念講演会「ことばの泉」(外山滋比古氏) 開催
- 1989年 3月 ■ 戸塚センター・戸塚図書館で開館10周年記念事業、劇団ひまわり「魔法をかけられた王子たち」公演
- 1990年 10月 ■ 講演会「心とことばが会えるとき」(工藤直子氏) 開催
- 1991年 3月 ■ 連続講演会「世界と時代への航海」(柳原良平氏・豊田穰氏) 開催
- 1998年 9月 ■ 図書と資料による巡回展「児童虐待を考える」開催
- 1999年 2月 ■ 開館20周年記念事業「戸塚区に関する資料の展示会」開催 (「戸塚区資料リスト」配布)
 - 「リサイクル本市」開催
 - 開館20周年記念講演会「描かれた戸塚を知る」(斉藤司氏) 開催
- 2000年 2月 ■ 講習会「おはなし・絵本読み聞かせ講習会」(伊藤洋子氏) 開催
- 2002年 1月 ■ Yokohama's memory展示会「描かれた東海道<神奈川・保土ヶ谷・戸塚>」を開催
- 2004年 11月 ■ 文化財課・財団法人ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターと連携し「戸塚区指定文化財パネル・埋蔵文化財展」を開催



浸水被害の様子

- 12月 ■ 東戸塚行政サービスコーナーでの貸出・返却サービスの試行開始
- 2006年12月 ■ 再整備工事着手（12月18日～2007年7月19日まで工事のため休館）
- 2007年 ■ リサイクル文庫を設置
- 6月 ■ 12日乳幼児4か月健診での「おはなし広場」を開始
- 7月 ■ 19日再整備工事完了
- 2008年8月 ■ 開館30周年事業「図書館で星を見よう！」（神奈川県立青少年センター講師）開催
- 11月 ■ 開館30周年記念講演会「戸塚の過去・現在・未来」「大倉陶園の伝統の技」開催
開館30周年記念事業資料展示「描かれた戸塚宿」開催
開館30周年記念事業「戸塚宿レクチャー&ウォーキング」開催
- 2009年3月 ■ 戸塚区おはなしボランティア交流会実施
- 5月 ■ 区制70周年記念パネル展示「東海道戸塚宿ものがたり」開催
- 10月 ■ 区制70周年記念展示「タイムスリップ！航空写真や地形図で見る昭和の戸塚」開催
- 11月 ■ 区制70周年記念講演会「記念碑が語る昭和の戸塚」開催
- 2010年3月 ■ 市民参加の仕組みづくりのための利用者懇談会開催
- 5月 ■ オンラインデータベースの導入
- 8月 ■ ボランティアによる夏休みのおはなし会開催
- 9月 ■ ボランティアによるおはなし会「土曜ニコニコおはなし会」開始
- 11月 ■ 子どもの本コーナーに「はじめてものがたりコーナー」開設
- 2011年4月 ■ 司書補助業務委託導入
- 10月 ■ 講演会「戸塚の地盤変動」（笠間友博氏）開催
- 2012年 ■ レファレンスサービスモデル館として「地元企業・組織の社史・記念誌等資料の収集と展示」を実施。社史等57冊、学校関連44冊、団体42冊寄贈受入
- 3月 ■ 市立図書館創立90周年記念講演会「近代の戸塚と交通のあゆみ」（岡田直氏）開催
- 4月 ■ 明治学院大学との連携協定締結
- 6月 ■ 開館35周年記念地域学講座「戸塚のホタルを見る」（丸茂高氏）を開催
- 2014年6月 ■ 戸塚の地震『祐之地震道記 戸塚で活写された元禄大地震』を手がかりにした地形観察会実施
- 2015年2月 ■ 戸塚区読書活動推進目標策定
- 4月 ■ BDS（ブックディテクションシステム）試行開始
- 10月 ■ 戸塚区読書活動推進懇談会開催
- 11月 ■ 「とつか読書マップ」発行
- 2016年11月 ■ 子どもの本コーナーに「読み聞かせ絵本コーナー」開設
- 2018年5月 ■ 開館40周年記念講演会「東海道と戸塚の明治・大正・昭和～宿場町からベッドタウンへ～」（岡田直氏）開催
- 10月 ■ 開館40周年記念講座「赤羽末吉の世界」（赤羽茂乃氏）開催
- 11月 ■ 開館40周年記念講座「昔話の魅力」（小澤俊夫氏）開催
■ 読書活動推進月間イベント・戸塚センター40周年記念朗読コンサート開催
- 2019年 ■ 「戸塚区郷土資料コーナー」を開設
- 1月 ■ 区制80周年記念事業展示「浮世絵で見る戸塚」開催
- 4月 ■ 公衆無線LAN運用開始
- 9月 ■ 台風13号により戸塚センター通用口側階段及び壁から水が吹き出し、図書館床が一部浸水被害
- 10月 ■ 区制80周年記念講座「カステラ 長崎から横浜へ」（文明堂）開催
- 2020年4月 ■ 令和2年度子供の読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受賞
- 10月 ■ 第二次戸塚区読書活動推進目標策定
- 11月 ■ 戸塚区と協働して動画「とつか読書チャンネル」を開設



利用者懇談会

社史等57冊、学校関連44冊、団体42冊寄贈受入

栄図書館

平成元(1989)年3月14日開館



住 所 〒247-0014 栄区公田町634-9

建 物 鉄筋コンクリート造2階
延床面積 (1,518.15㎡)

西暦

できごと

- 1989年3月 ■ 市内14番目の図書館として、栄図書館開館
6月 ■ 第1回おはなし会開催
以後、定例おはなし会として毎月第2水曜日に開催
11月 ■ 講習会「子どもの本を読んでみませんか？」(金原瑞人氏)開催(全3回)
- 1990年3月 ■ 屋外読書スペース及び屋上庭園の利用開放を開始
- 1992年3月 ■ 講習会「子どもたちに絵本の豊かな世界を」(山崎翠氏)開催(全2回)
10月 ■ 視覚障害者サービスを開始
- 1995年3月 ■ 講習会「神宮輝夫氏が語る子どもの本」開催(全2回)
11月 ■ 講演会「『赤毛のアン』に隠されたイギリス文学」(松本侑子氏)開催
- 1999年 ■ 開館10周年を記念して、栄区民話紙芝居三部作
3月 ■ 開館10周年記念「リサイクル・ブック市」開催
- 2002年8月 ■ 講習会「インターネットで探してみよう」開催
- 2006年1月 ■ 「初心者向けストーリー・テリング講座」開催(全3回)
10月 ■ 埋蔵文化財展示会開催。以後、定期的に開催
- 2007年 ■ 「初めてであう絵本コーナー」開設
10月 ■ 栄区誕生20年を経過したのを機に郷土史研究グループと連携し、栄区の歴史をテーマとしたパネル展示の実施及び講演会「栄区の町名の由来」開催
- 2008年12月 ■ 開館20周年記念事業「図書館で星を見よう！」開催
- 2009年2月 ■ ぶらっと栄フェスタ&栄図書館開館20周年記念講演会(関口知宏氏)開催
3月 ■ 開館20周年記念講演会「地球温暖化と抑止-そのやさしい科学」(小川恵一氏)開催
開館20周年記念事業「栄図書館いま昔写真展」開催
- 2010年 ■ 修理ボランティア開始
■ 栄区役所で4か月健診おはなし会開催。以後、定期的に開催
11月 ■ 国民読書年、読書週間、はまっ子読書の日記念事業として、司書によるブックトークを実施
- 2011年3月 ■ 「はじめてものがたりコーナー」開設
11月 ■ 市立図書館創立90周年記念栄図書館大衆文化講座
「横浜で交差した音-レコードでたどる日本と世界の90年-」開催(全2回)



栄区民話紙芝居三部作

2014年 3月 ■ 開館25周年を記念して、展示「芥川賞・直木賞の四半世紀」開催

開館25周年記念イベントに栄区を流れるいたち川のマスコットキャラクター・タッチーくんを招き、記念植樹、撮影会、紙芝居、おはなし会を開催

12月 ■ 区民の読書活動推進のため読書貯金通帳を作成

2015年 ■ 「読んでみようこんな本コーナー」を常設で開設。以降、2017年に学年別3段階の別置を実施

3月 ■ 栄区読書活動推進目標策定

11月 ■ 歴史講座「縄文時代の謎の「顔」—栄区公田町出土の土製品—」（神奈川県立歴史博物館：千葉毅氏）開催。配布資料を抜粋し、「人面把手」を知るブックリストを作成

2016年 ■ 書架整理ボランティア開始

3月 ■ 「区制30周年記念栄図書館所蔵空中写真展 空からみた栄区のいまむかし」開催
以降、区内施設9か所で巡回展示を実施

10月 ■ 歴史講座「市民の暮らしの中を流れる川に～いたち川の30年」（吉村信一氏）開催
「いたち川を知るブックリスト」を作成

11月 ■ 「栄区の歴史を知るブックリスト」を作成。

2017年 3月 ■ 区制30周年記念事業リレーイベント「山車・神輿づくりプロジェクト」写真展開催

2018年 8月 ■ 開館30周年を記念して、閉館後に栄フィルハーモニー交響楽団の協力による「夏の夜のミニコンサート」を開催

10月 ■ 開館30周年記念講座「旧海軍施設からひもとく栄区の歴史」（市史資料室：羽田博昭氏）開催

11月 ■ 「子育て情報コーナー」開設

2019年 2月 ■ 栄区読書活動推進講演会（絵本作家：西村繁男氏）開催

3月 ■ 開館30周年を記念して、囲碁と紙芝居をテーマとした講座を開催

また、過去の文学賞受賞作品を3冊セットにした「本の福袋」の貸出を実施

■ エレベーター更新工事を実施

2020年 2月 ■ 栄区読書活動推進講演会（翻訳家：小宮由氏）開催

■ 外壁改修工事を実施

2021年 3月 ■ 第二次栄区読書活動推進目標策定

12月 ■ 講演会「栄の遺跡」（横浜市ふるさと歴史財団：鹿島保宏氏）開催

2022年 3月 ■ 記念冊子『栄の遺跡』発行



開館25周年事業

栄図書館作成のブックリスト

栄図書館では地域の郷土資料に関するブックリストを作成し、ホームページで公開しています。栄区の歴史を調べるための基本的な資料を紹介したもの、栄区のシンボルリバー・いたち川に関する資料、公田町で出土した「人面把手（じんめんとって）」の関連資料、栄図書館で閲覧できる地図を時代別に紹介したもの、住宅地図目録、栄区内の小・中学校の学校周年記念誌目録などがあります。



泉図書館

平成元(1989)年2月22日開館



住 所 〒245-0016 泉区和泉町6207-5

建 物 鉄筋コンクリート造2階
延床面積 (1,520.31㎡)

西暦

できごと

- 1988年4月 ■ 泉図書館着工
- 1989年2月 ■ 泉図書館開館。蔵書約46,000冊。市内図書館13館目
- 1990年10月 ■ 視覚障害者サービス開始
- 1999年 ■ 開館10周年記念事業を実施。蔵書数約113,000冊
記念事業「リサイクル・ブック市」等開催
廃棄図書を個人向けに提供する初めての試み
- 2001年 ■ Yokohama's memory展示会「描かれた東海道
神奈川・保土ヶ谷・戸塚」開催
- 2004年 ■ 開館15周年記念事業を実施
文化財連携事業「泉区の産業と郷土資料展」開催
- 2005年 ■ 移動図書館が「緑園東公園」への巡回を開始
■ 絵本の読み聞かせ講座（初心者向け）開催
- 2006年 ■ 区制20周年記念関連事業を実施
パネル展示「ニュースに見る泉区の20年」開催
泉区・郷土のビデオ上映会開催
- 2007年 ■ 埋蔵文化財展示「掘り出された泉区 古代・中世の遺跡展」、展示ミニレクチャー
開催
■ 読み聞かせ・おはなしボランティア交流会開催
- 2008年 ■ 開港150周年イベント写真パネル展「みなと・よこはま・百年祭」開催
7月 ■ 泉・保土ヶ谷・旭・瀬谷図書館合同企画「としょかんキッズスタンプラリー」開催
- 2009年 ■ 開館20周年記念事業を実施。蔵書数139,000冊
記念事業「図書館まつり」開催。区のマスコット「いっずん」も登場
写真展「泉図書館のおたんじょうび」開催
ビデオ上映会「いずみむかしむかし」開催
サロントーク「いずみととしょかん物語」開催
記念文集『としょかんと私』発行
- 2009年 ■ 開港150周年記念連続講演会開催
4月 ■ (第1回)「YOKOHAMA ミステリー開港記念
日は2つあった!？」(フェリス女学院大学教授：大西比呂志氏)
5月 ■ (第2回)「洋食のうつりかわり150年～食の開



リサイクルブック市



開館20周年「図書館まつり」

- 港〜」(泉区歴史の会会長：翠川宣子氏)
 講演会「こんなに違った泉区のむかし〜泉区のお年寄りに聞く戦争中の暮らし」
 パネル展「横浜開港そして泉区〜開港と泉区の歴史をひもとこう!〜」開催
- ボランティア講師による「親子で楽しむわらべうた」の会が始まる
- 2010年
- 製本工房いずみによる本の修理ボランティア活動が始まる
- 6月
- いいとこづくり委員会(泉図書館懇談会)設置
- 2011年3月
- 「おはなしクーゲル&オルゴール」による「日曜おはなし会」が始まる
 - 「泉区ノスタルジー」イベントを開催
- 10月
- 企画展示「昭和の泉区写真展」開催
 - 郷土ビデオ上映会「ふるさとの行事」開催
- 11月
- 伝承草花遊びの会開催
- 12月
- 企画展示「私の手作りー図書館のこの本で作りました」開催
 - 図書館海援隊事業関連事業「地域みんなで支えよう〜認知症サポーター養成講座〜」開催
- 2012年10月
- 書架整理ボランティア活動が始まる
 - 保土ヶ谷・旭・瀬谷図書館合同で学校ボランティアに向けた「まずはここから!絵本の読み聞かせコツのコツ」講座を開催※以後ほぼ毎年開催
- 2013年4月
- 「おはなしのいずみの会」による「土曜おはなし会」が始まる
 - 開館25周年記念事業を実施
- 連続講演会 スポットライトいずみ開催
- 第1回「百人一首「競技かるた」の魅力」(カルタ永世クイーン：渡邊令恵氏)
- 第2回「泉区の自然を撮り続けた日々ー弥生台日記100号を迎えて」(弥生台のせせらぎとホテルを守る会：横田光邦氏)
- 第3回「傾聴のすすめ」(傾聴ボランティア・モモ代表：萩原明美氏)
- 2015年3月
- 泉区読書活動推進目標策定
- 7月
- はじめて大人を対象とした素話によるおはなし会を始める
 - スポットライトいずみ開催
- 「定式幕の舞台裏〜いずみ歌舞伎の200年」(いずみ歌舞伎保存会会長：馬場克己氏)
- 2016年
- 区制30周年記念関連事業を実施
 - 「読書マラソン」冊子配布
 - 「BOOK福袋」の貸出
 - 泉図書館バックヤードツアーの開催
 - 連続講演会 スポットライトいずみ開催
- 第1回「泉区の産業史話」(横浜開港資料館：斎藤多喜夫氏)
- 第2回「境界としての境川」(川戸清氏：泉区歴史の会)
- 2019年
- 開館30周年記念事業を実施
 - 連続講演会 スポットライトいずみ開催
- 第1回「泉区の生き物が図鑑になった」(新橋の森を守る会所属：横田光邦氏)
- 第2回「折り紙の世界」(日本折紙協会理事・折紙師範：永田文夫氏)
- 2021年3月
- 第二次泉区読書活動推進目標策定



開館25周年連続講演会



開館30周年記念講演会

瀬谷図書館

昭和60(1985)年1月17日開館



住 所 〒246-0015 瀬谷区本郷3-22-1

建 物 鉄筋コンクリート造2階
(一部中2階)
延床面積 (1,547.94㎡)

西暦

できごと

- 1985年1月 ■ 市立図書館9館目の図書館として開館
テープカットは瀬谷中・瀬谷小・大門小の図書委員
- 4月 ■ ボランティアのおはなし会・職員のおはなし会ともに始まる
- 7月 ■ 徳善寺の笹を使った七夕飾り始まる
- 1986年1月 ■ 開館1周年記念講演会「私と自然と文学と」(加藤幸子氏) 開催
- 6月 ■ 17日初めての図書特別整理による休館(～7月2日)
- 11月 ■ 文化講演会「ことばは国境を越えて」(赤瀬川隼氏) 開催
- 1988年11月 ■ 郷土資料展「フォト・マップ・ビデオによるせや1868～1945」開催
- 1989年12月 ■ 文化講演会「『筑前竹人形』(水上勉・作)ひとり語り」(古屋和子氏) 開催
- 1990年11月 ■ 文化講演会「田原順子の琵琶ひき語り」(田原順子氏) 開催
- 1991年4月 ■ 文化講演会「宇宙のものみんな描いちゃおう～本当の自分との出会い～」(松本キミ子氏) 開催
- 1992年11月 ■ 文化講演会「ボロとくらしの物語～ファイバーリサイクルを見直そう～」(中野聰恭氏) 開催
- 1993年9月 ■ 文化講演会「自然を楽しむ～見る・作る・食べる・育てる～」(おくやまひさし氏) 開催
- 1995年5月 ■ 「おかあさんといっしょのおはなしかい」開始
- 11月 ■ 10周年記念講演会「子どもと大人の文学の間で」(上野瞭氏) 開催
- 1996年11月 ■ 文化講演会「宮沢賢治 鳥からのメッセージ」(国松俊英氏) 開催
- 1997年11月 ■ 文化講演会「ハーブの香る英国の庭」(広田靨子氏) 開催
- 2001年5月 ■ 「おかあさんといっしょのおはなしかい」が「ひよこのおはなし会」に名称変更
- 2004年3月 ■ 講演会「地図が語る瀬谷の移り変わりー『迅速測図』・『偵察録』と『皇国地誌』に見る明治初期から現在へー」(田中常義氏) 開催
- 2005年 ■ 文化財パネル展「ふるさと瀬谷の歴史みち」開催
- 3月 ■ 布絵本講習会開催
- 12月 ■ 瀬谷図書館20周年「ベストセラーでたどる35年間展」開催
「瀬谷かるた歴史講座」開催
- 2006年2月 ■ 瀬谷図書館20周年「おりがみ講習会」開催
- 2009年12月 ■ 区政40周年記念「瀬谷区ふるさとビデオ上映会」開催



開館当時の様子

- 区政40周年記念パネル展示「写真で見る昔の瀬谷」開催
- 2011年11月 ▪ 西部4館合同企画「読み聞かせボランティアステップアップ講座」開催
- 2012年7月 ▪ 「坂部文昭さんと朗読を楽しむつどい」(坂部文昭氏)を開催
 - 9月 ▪ 西部4館合同企画「まずはここから！絵本の読み聞かせのコツのコツ」開催
- 2013年 ▪ 瀬谷区風景写真データベース作成
 - プレ開館30周年企画郷土パネル展「ふるさと瀬谷のうつりかわり」開催
- 2014年1月 ▪ 瀬谷区読書活動推進目標策定
 - 12月 ▪ 開館30周年事業「親子で楽しむ瀬谷の歴史と民話」開催
- 2015年1月 ▪ 開館30周年記念講演会「横浜港の発展と瀬谷の人々」(西川武臣氏)開催
 - 開館30周年事業「懐かしの瀬谷風景写真展」開催
 - 11月 ▪ 読書活動推進講演会「言葉・読書・生きる力～ネット社会に負けない生き方を～」(柳田邦男氏)開催
- 2017年1月 ▪ 「お年寄りと絵本でちょっといい時間～高齢者への読み語り講習会～」(山花郁子氏)開催
 - 6月 ▪ 「やってみよう高齢者への読み語り」体験型講習会(山花郁子氏)開催
 - 10月 ▪ 講演会「幼い子どもたちに絵本とわらべうたの楽しさを」(伊藤道子氏)開催
 - 11月 ▪ 講習会「やってみよう乳幼児への読み聞かせ・わらべうた」開催
- 2018年1月 ▪ 講演会「あなたの声を届けよう～朗読の楽しさ」(高橋淳之氏)開催
 - 2月 ▪ 講習会「あなたの声を届けよう～朗読の楽しさ実践編」(高橋淳之氏)開催
 - 3月 ▪ 講演会「紙芝居と絵本 その魅力と違い」(長野ヒデ子氏)開催
 - 6月 ▪ 「紙芝居って楽しい！演じ方講習会」(畠山宣子氏)開催
 - 11月 ▪ 「高齢者と絵本を楽しもう講演会・交流会」(吉岡真由美氏)開催
 - 12月 ▪ 「読み聞かせをさらに楽しくする「わらべうたあそび」実践講座」(田村洋子氏)開催
- 2019年1月 ▪ 「新年開運図書館みくじ」始まる
 - 10月 ▪ 区制50周年記念講演会「地図で読み解く瀬谷の移り変わり」(田中常義氏)開催
 - 区制50周年資料展示会「地図と写真で見る瀬谷区が生まれた頃」開催
- 2020年3月 ▪ 第二次瀬谷区読書活動推進目標策定
- 2021年10月 ▪ 講演会「国語辞書の歴史・現在・未来～三省堂の辞書作りと共に振り返る～」(株式会社三省堂：山本康一氏)開催
 - 12月 ▪ 相模鉄道株式会社との連携事業「相模鉄道キャラクターそうにゃんの絵本展」開催

ふるさと瀬谷のうつりかわり～瀬谷区風景写真データベース～

ふるさと瀬谷のうつりかわり～瀬谷区風景写真データベース～は、開館30周年記念事業のひとつとして、郷土の魅力をより発信していこうと地域の方が撮影した写真を集めデジタル化し、地区ごとに分類・整理を行いました。

瀬谷区内の各地域の街並みや風景の移り変わりを記録した貴重なデータベースになっています。

索引は瀬谷図書館ホームページ、写真は市立図書館デジタルアーカイブ「都市横浜の記憶」で公開しています。



三ツ境駅付近(昭和39年頃) 撮影:相澤詔二

移動図書館

西暦

できごと

- 1970年 8月 ■ 移動図書館「はまかぜ1号・2号」(初代)による巡回貸出開始
巡回開始当時の駐車場は26か所、ひとり2週間2冊まで
- 1971年 6月 ■ 移動図書館利用者向け新刊案内「はまかぜあたらしいほん」創刊
- 7月 ■ 移動図書館の貸出をブラウン式からトークン方式へ変更
- 8月 ■ 移動図書館用車庫及び書庫が完成
- 1972年 1月 ■ 駐車場「汐見台」(磯子区)と「東芝」(戸塚区)を廃止し、町内会貸出に変換
- 1975年 ■ 移動図書館待機団体が68団体に及ぶ
- 1978年 ■ はまかぜ1号・2号を更新(2代目。ガソリン車からディーゼル車に)
- 1986年 4月 ■ 移動図書館の貸出冊数を2冊から3冊に変更
- 1987年 4月 ■ 移動図書館での紙芝居の貸出を開始
- 1988年 9月 ■ はまかぜ2号車を更新(3代目)
- 1989年 8月 ■ はまかぜ1号を更新(3代目)
- 1994年 4月 ■ 貸出・返却等について、ポータブル端末機を用いた記録処理を行う
カード共通化により貸出冊数が3冊から6冊に変更
- 1998年 9月 ■ はまかぜ2号車を更新。車椅子対応車両を導入(4代目)
- 1999年 4月 ■ 図書館の利用が困難な市民がいる施設(医療施設、福祉施設)への巡回を本格実施
- 2005年 4月 ■ はまかぜ1号を更新(4代目)
- 2006年 3月 ■ はまかぜ2号の運行停止
- 2009年 4月 ■ 金沢区の駐車場「八景西」で市民との協働運営を開始
- 10月 ■ 2006年に運行を停止した「はまかぜ2号」を山形県高畠町に譲渡
- 2010年 7月 ■ 地域住民に加え、ビジネス街で働く人の利用を目的とし、みなとみらい地区にビジネス書等を積載して巡回を開始
- 40周年事業として「移動図書館「はまかぜ号」40年のあゆみ」展、はまかぜ号車内見学ツアー、移動図書館キャラクター名決定投票を実施
- 2012年 4月 ■ 祝日や施設点検の休館日にあたる場合も運行を開始
- 2016年 3月 ■ はまかぜ1号を更新(5代目)
新車両運行記念ミニ展示「移動図書館はまかぜ号展」を中央図書館で実施
- 2017年11月 ■ ツイッターで運休時の情報提供を開始
- 2020年 ■ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴うサービス制限のため運休(4月9日から6月1日)
- 巡回開始から50周年の記念ポスターをはまかぜ号車内に掲示
- 2022年 3月 ■ はまかぜ2号の完成
- 4月 ■ はまかぜ2号、新車両運行開始



はまかぜ2号イラスト



移動図書館マスコットキャラクター

移動図書館はまかぜ号 巡回場所の変遷

市町村	平成(年度)																															令和(年度)																				
	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3
鶴見	＜鶴見図書館閉館＞																																		矢向																	
大角橋																																																				
神奈川																																																				
西																																							みなとみらい													
中																																							馬の博物館													
大岡																																																				
藤ノ木																																							永田みなみ台													
南																																																				
港南																																																				
瀬戸ヶ谷																																																				
常盤金																																																				
日本綱管※1																																																				
住友※2																																																				
川島																																							狩場													
榎山																																																				
東希望が丘																																							希望が丘													
ひかりが丘①																																																				
ひかりが丘②																																																				
白根																																																				
中沢																																																				
左近山																																																				
磯子																																																				
三井杉田																																																				
杉田大谷																																																				
谷津坂西部																																																				
泥亀																																																				
並木																																																				
八景西																																																				
高田																																																				
南日吉																																																				
綱島東																																																				
青葉台																																																				
市ヶ尾																																																				
ならやま																																																				
竹山																																																				
藤が丘																																																				
北八期																																																				
川和																																																				
桂田																																																				
東山田																																																				
アザリエ																																																				
戸塚																																																				
原宿																																																				
舞園																																																				
柏尾																																																				
小糸																																																				
品濃																																																				
名濃																																																				
俣野																																																				
上郷																																																				
桂台																																																				
野七里																																																				
庄戸																																																				
栗																																																				
阿久和																																																				
明和※3																																																				
三ツ境																																																				
瀬谷																																																				
五真目																																																				

※1 保土ヶ谷区常盤台
※2 保土ヶ谷区常盤台
※3 瀬谷区阿久和町

◇名称変更

図書館功労者表彰

横浜市立図書館功労者表彰

受賞者名簿

表彰状

読み聞かせ等ボランティア

おはなし南の会
おはなし・にこっと
おはなしのいずみの会
おはなしひろばの会
ことりの会
市民グループ「子どもと本」
めぐみ座

図書修理ボランティア

港北図書館 修理ボランティア

環境整備ボランティア

あさひ茶花道協会

音訳者（対面朗読・録音図書製作）

横浜市立図書館音訳者

その他読書活動の推進に貢献された方々

石川 道子
港北文庫のつどい
つづき図書館ファン倶楽部
鶴見歴史の会
夏山文庫
虹の部屋
平井 誠二

感謝状

読み聞かせ等ボランティア

旭図書館読み聞かせボランティア
大森 厚
おはなしオルゴール
おはなしクーゲル
おはなしくまさん
おはなしダイヤモンド
おはなしパレット戸塚
風の会
かたり語りの会
加藤 恒子
かながわこどもひろば
金沢紙芝居の会「かなみん」
かもめおはなしの会
金色ポケット
港北おはなしネットワーク
一土のおはなし会
港北おはなしネットワーク
えいご d e おはなし会
阪口 道子
中央図書館読み聞かせボランティア
てんとうむし
とつかおはなしの会
成岡 慶子
にこにこおてんとうさん
はらっぱの会
ひよこのおはなし会
読み聞かせボランティア
ほどがやわらべうたの会



緑図書館おはなしボランティア

みどりのたね
森の絵本ひろば
矢部小おはなしころころ
よこはまおはなしの会
朗読グループ NEXUS きずな
朗読の会 クローバー
朗読の会 ビプロ

図書修理ボランティア

旭図書館図書修理ボランティア
金沢図書館図書修理ボランティア
製本工房いずみ
製本ボランティア・舞鶴
中央図書館図書修理ボランティア
藤平 等子
本の修理・いそご (手づくり製本の会)
緑図書館図書修理ボランティア
南図書館図書修理ボランティア
リペアー期の会

書架整理ボランティア

旭図書館書架整理ボランティア
金沢図書館書架整理ボランティア
中央図書館書架整理ボランティア

環境整備ボランティア

旭図書館グリーンボランティア

その他読書活動の推進に貢献された方々

いそご図書館サポーターズクラブ
「ほびっと」
金沢おはなしネットワーク
ウェズランディア
紙芝居おじさん としょくん
港北図書館友の会
特定非営利活動法人 港南歴史協議会
PCどりーむ
「ほどがや」えかたり〜べ
松山 良子

[活動区分別・50音順 敬称略]

横浜市立図書館功労者表彰について

図書館開業100周年を記念して創設されました。横浜市立図書館における読書活動の推進に貢献し、図書館の振興に尽力されている個人・団体へ、感謝の意を表し、その功績を表彰してその活動を広く紹介し、市民の読書活動に関する取組を進めるため、各図書館が推薦し、横浜市教育長から贈られます。

表彰状

読み聞かせ等ボランティア



おはなし^{なん}南の会

平成11年に活動を始め、長年に渡り、南図書館や小学校でのおはなし会を通じて、子どもたちと本との出会いの場をつくっています。

現在は奇数月第2土曜日に、南図書館で「4歳から大人のための土曜日のおはなし会」を開催しています。



おはなし・にこっと

平成2年に結成し、港南図書館で第4日曜日に子どもや大人を対象に、昔話などのストーリーテリングや絵本の読み聞かせをする会を開いています。

平成29年度以降は、港南図書館と共に「大人が楽しむおはなし会」を行っています。



おはなしのいずみの会

平成9年に活動を始め、泉図書館で毎月第1土曜日に子ども向けおはなし会、年2回の大人向けおはなし会を継続的に開催するなど、泉図書館の読書活動を積極的に支えています。



おはなしひろばの会

平成2年に港南図書館が主催した「ストーリーテリング講習会」の受講者が始めた自主グループです。

保育園でのおはなし会の他、港南図書館で月に1回、絵本の読み聞かせやカーテンシアターなどのおはなし会を行っています。



ことりの会

平成13年に小学校4校のボランティアが集まり、地域でのおはなし会を目的に結成しました。

中図書館では隔月でストーリーテリングのおはなし会「おはなし・おはなし」を開催し、子どもたちがおはなしの世界を堪能しています。



市民グループ「子どもと本」

平成4年の活動開始以来、講演会や講習会及びおはなし会など、その名の通り「子どもと本」の架け橋になる活動を続けています。

現在は、南図書館で「みんないっしょのおはなし会」（毎月第3火曜日）と「おはなしフェスティバル」（毎年3月）を開催しています。



めぐみ座

幼稚園での保護者有志の活動から平成8年に結成しました。その後、地域での読み聞かせに活動は広がり、中図書館では平成17年からご協力いただいています。

毎月第1土曜日の「めぐみ座のおはなし会」では多くの子どもたちが絵本やおはなしを楽しんでいます。

図書修理ボランティア



港北図書館 修理ボランティア

港北図書館の修理ボランティアは、メンバーの入れ替わりを経ながら、約20年間にわたり活動しています。

現在は週2回の活動で、利用者みなさんができるだけ長く図書を利用できるように、簡易な修理から難しい修理までしてくださっています。

環境整備ボランティア

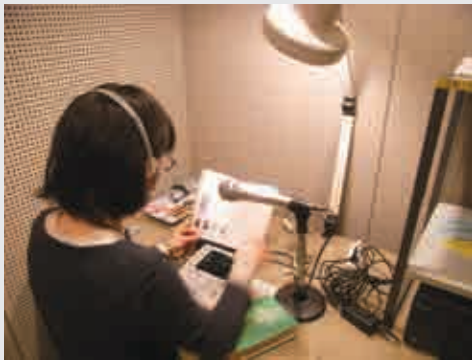


あさひ茶花道協会

あさひ茶花道協会は、地域に日本の伝統文化を継承していくことを目的に昭和61年に発足しました。

旭図書館でのいけばなの展示は開館後まもなく昭和62年に始まり、様々な流派の先生方がいけばなを飾ってくださっています。

音訳者（対面朗読・録音図書製作）



横浜市立図書館音訳者

音訳者の皆様には、録音図書製作のための音訳活動や、利用者と対面して図書・資料を読み上げる対面朗読の活動に携わっていただいています。製作した録音図書は当館を通して全国の視覚障害者等にも利用されています。

その他読書活動の推進に貢献された方々



石川 道子

家庭文庫や幼稚園で、長年わらべうたや読み聞かせの活動を続けてこられました。

また、横浜市をはじめとして全国の図書館などでわらべうたや読み聞かせの大切さを伝える講演を行い、数多くのボランティアを育成されてきました。



港北文庫のつどい

港北文庫のつどいは、40年以上の長きにわたって活動しています。「子どもの本を通して子どもの心を考える」というテーマのもと、全国から作家、学者の方などを講師に招き、講演会などを開催し、貴重な読書活動の場を市民に提供しています。



つづき図書館ファン倶楽部

図書館を応援する市民の団体として、都筑図書館と協働して地域の読書文化を盛り上げる活動に取り組んできました。ファン倶楽部を母体として「つづきっこ読書応援団」や「つづきブックカフェ」が生まれ、区内で活躍されています。



鶴見歴史の会

郷土史の研究と地域文化に寄与することを目的に、昭和56年に設立された市民団体です。平成3年には鶴見図書館との共著『鶴見の坂道』を刊行しました。機関誌「郷土つるみ」も創刊号からご寄贈いただいています。



夏山文庫

文庫開設は昭和50年で、すでに45年以上の歴史をお持ちです。市内でも最古参の文庫の一つとして、団体貸出制度を長くご利用いただいています。地域に根差した読書活動を息長く続けて、身近な図書館として親しまれています。



虹の部屋

昭和61年に山内図書館が主催した第1回ストーリーテリング講習会終了後、語りの世界に魅せられた仲間が集まって発足しました。月に1回の定例会では、語りや読み聞かせ等の練習や情報交換をしています。山内図書館の定例のおはなし会や「大人のためのおはなし会」、「夏のおはなし祭り」へのご協力をいただいています。



平井 誠二

大倉精神文化研究所理事長の平井氏は郷土史研究者として知られています。

著作『わがまち港北』シリーズは、数ある港北区の郷土資料の中でも読みやすさは随一です。

港北図書館友の会等の地域活動にも参加され、同研究所の目的のひとつ“地域貢献”を体現されています。

感謝状

読みきかせ等ボランティア



旭図書館読み聞かせボランティア

旭図書館のおはなし会は、1人で聞ける子は1人で、乳幼児は親子で参加します。開催は、2種類合わせて月4回です。

ボランティアの皆さんは、赤ちゃんから大人まで、幅広い年齢層に読書の楽しさを伝えています。

外部の講座では、司書とともに講師を務めてくださいます。



大森 厚

港北図書館友の会のメンバーで俳優の大森氏は、平成24年4月から開催している「紙芝居の日」に、初期の頃から出演してくださっています。

現在、毎月第3土曜日に開催されている「紙芝居の日」は、子どもから大人まで一緒に楽しみ、大変人気があります。



おはなしオルゴール

平成23年に活動を開始しました。

泉図書館において、毎月第2日曜日に「日曜おはなし会」を開催しています。毎回多くの親子が参加して、語りやおはなし、絵本を楽しんでいます。



おはなしクーゲル

平成20年に活動を開始しました。
 泉図書館で、語り手の養成の他、「日曜おはなし会」、「夏休みおはなし会」、「大人が楽しむおはなし会」など、耳で聴くおはなし（ストーリーテリング）の魅力を発信し、毎回好評を博しています。



おはなしくまさん

平成14年に結成し、港南図書館で第2・4金曜日に0歳から4歳までの子どもと保護者を対象にしたおはなし会を開いています。
 絵本やパネルシアター、わらべうたを親子で一緒に楽しんでいます。



おはなしダイヤモンド

区内の小学校で絵本の読み聞かせボランティアをしています。
 また、瀬谷図書館で、平成22年度からおはなしフェスティバルや休日おはなし会などに参加され、楽しいおはなしを沢山紹介してくださっています。



おはなしパレット戸塚

平成22年に戸塚図書館で読み聞かせの活動を開始しました。
 メンバー6人で保育園、地区センター等を中心に活動しています。
 区役所乳幼児健診の待ち時間にも親子が楽しめるおはなし会を行うなど、地域の読書活動に貢献されています。



かたり語りの会

平成22年に戸塚図書館で読み聞かせの活動を開始しました。メンバー5人で小学校や保育園、地区センター等で活動しています。

子どもたちがストーリーテリングの醍醐味を味わえるようにはなし会を工夫され、地域の読書活動に貢献されています。



加藤 恒子

鶴見区乳幼児健診で実施している絵本とわらべうたの紹介事業のスタッフとして、平成14年の事業開始時から活動しています。

豊富な経験と穏やかな物腰で、スタッフの中でも頼れるリーダー的な存在です。



かながわこどもひろば

子どもから大人まで読書に親しめるよう、栄図書館のほか、本郷台駅前のあーすぷらざ・保育園・小学校など、近隣施設で絵本の読み聞かせやわらべうたやストーリーテリングを行っています。

20年以上にわたり、地域の読書活動に貢献されてきました。



金沢紙芝居の会「かなみん」

金沢区区民活動センターの講座を修了したメンバーで結成されました。平成27年度からは、金沢図書館で公演してくださっています。

迫力ある絵の表現、郷土関連のオリジナル作品の制作など、積極的に紙芝居と向き合っておられます。



かもめおはなしの会

戸塚図書館の「読み聞かせ活動入門講座」参加者で作ったグループです。メンバー5人で図書館や保育園等で活動しています。

子どもたちがまた聞きたくなるような楽しいプログラム作りを工夫され、地域の読書活動に貢献されています。



金色ポケット

乳児を抱える母親が集まり、平成11年にスタートしたグループです。

平成17年から港南図書館で、月1回乳幼児向けに、手遊びや読み聞かせの他、人形シアターやパネルシアター等のプログラム内容で、おはなし会を実施しています。



港北おはなしネットワーク 一土のおはなし会

港北図書館の「一土のおはなし会」は平成24年4月に始まりました。

「ストーリーテリング」や「絵本の読み聞かせ」などを行い、小学生以上を対象とした大人も一緒に楽しめる会です。

土曜日に開催しているため、ご家族で参加される利用者の姿も見られます。



港北おはなしネットワーク えいご de おはなし会

港北図書館の「えいごdeおはなし会」は、平成24年1月に始まり、現在、偶数月の第2土曜日に開催されています。

プログラム内容は、英語絵本の読み聞かせや英語の歌を楽しむもので、利用者の関心が高く、とても人気があります。



阪口 道子

平成21年に活動を開始しました。

泉図書館でも最も人気の高い講座の一つである、0歳から1歳6か月児とその保護者向け「親子で楽しむわらべうた」の会を主催しています。本講座は月1回×5か月連続講座で、年2回開催しています。



中央図書館読み聞かせボランティア

平成20年4月より活動を開始しました。

図書館の養成講座に応募し、ボランティア登録された方々により、毎週土曜日と毎月第4水曜日の午後のおはなし会を担当していただいています。



てんとうむし

平成22年に戸塚図書館で読み聞かせの活動を開始しました。

小学校から地域へ活動の場を広げる時にグループが結成されました。

子どもたちが多くの本に会えるよう、メンバー4人で東戸塚を拠点に活動され、地域の読書活動に貢献されています。



とつかおはなしの会

昭和53年に戸塚区と現在の泉区内で家庭文庫を開いていたメンバーがストーリーテリングをめざして集まり、図書館や小学校、保育園等で活動しています。

子どもと本の架け橋になれるように活動され、地域の読書活動に貢献されています。



成岡 慶子

平成21年度から瀬谷図書館のひよこのおはなし会にボランティアとして参加し、乳幼児と保護者向けのおはなし会を長く支えてくださっています。

また、「おはなしダイヤモンド」の代表としても、活動しています。



にこにこおてんとうさん

戸塚図書館の「読み聞かせ活動入門講座」参加者で作ったグループです。メンバー8人で図書館や保育園、子育て支援拠点等で活動しています。

子どもたちと一緒に絵本の世界を楽しみながら活動され、地域の読書活動に貢献されています。



はらっぱの会

平成23年度から、瀬谷図書館のおはなしフェスティバルや休日おはなしに参加され、楽しいお話をたくさん紹介してくださっています。

また、区内のコミュニティスクールでのおはなし会や、高齢者の方向けのおはなし会もしています。



ひよこのおはなし会 読み聞かせボランティア

平成27年4月に活動を開始し、港北図書館で月2回のひよこのおはなし会のうち、第2木曜日を担当しています。

わらべうたや絵本について自主的に研鑽を重ねて、乳幼児期からわらべうたや絵本に親しむ場を提供しています。



ほどがやわらべうたの会

保土ヶ谷区内の子育て関連施設で、乳幼児向けわらべうたや絵本の読み聞かせをしています。

グループの皆様は熱心に活動し、地域のイベントでも親子おはなし会を開催しています。



緑図書館おはなしボランティア

緑図書館の読み聞かせ講座に参加したメンバーで、平成19年から活動を開始しました。

緑図書館のおはなし会を中心に幅広く活動し、子どもたちに楽しいおはなしの世界を届けています。



みどりのたね

子どもと本をつなぐ目的で平成13年に結成し、各所でおはなし会活動を行っています。

金沢図書館では、夏恒例の人気行事「こわ〜いおはなし会」や大人向けの「ストーリーテリングを楽しむ会」でご協力いただいています。



森の絵本ひろば

平成22年に戸塚図書館で読み聞かせの活動を開始しました。メンバー14人で保育園や地区センター、学童保育所等で活動しています。

参加型の紙芝居を行うなど、子どもたちが笑顔になれるおはなし会を工夫され、地域の読書活動に貢献されています。



矢部小おはなしころころ

平成22年に戸塚図書館で読み聞かせの活動を開始しました。矢部小学校の図書ボランティア有志10人で活動しています。子どもたちが楽しめるように毎回メンバー全員で話し合ってプログラム作りをされるなど、地域の読書活動に貢献されています。



よこはまおはなしの会

平成23年に磯子図書館で活動を開始しました。現在は、企画事業「ぬいぐるみといっしょのおはなし会&お泊り会」や「おとなが楽しむおはなし会」で、こどもやおとなを対象としたおはなし会をしていただいています。



朗読グループ NEXUS きずな

平成26年9月から活動しています。奇数月の第2土曜日に港北図書館にて「朗読の部屋」、鶴見図書館でも年に3回「朗読サロン」を開催しているほか、参加者を募って次々に朗読し、みんなで楽しむ「朗読マラソン」というイベントも実施しています。



朗読の会 クローバー

「朗読の会クローバー」は平成26年4月に活動を開始しました。神奈川図書館を会場に、文学作品等を朗読する「大人のための朗読会」は、毎回多くの参加者を集める人気イベントです。使用された本の貸出も多く、読書活動の推進に貢献していただいています。



朗読の会 ビブロ

平成24年10月から活動しています。
毎月第4土曜日に港北図書館にて「大人のための朗読会」を開催しており、大人向けに小説などの朗読をしています。
参加者も多く、利用者の関心が非常に高いイベントです。

図書修理ボランティア



旭図書館図書修理ボランティア

平成21年に活動を開始しました。
現在は旭図書館で水曜日から金曜日の中で集い、図書館の本の傷みを直し、また気持ちよく使ってもらえるよう活動されています。



金沢図書館図書修理ボランティア

令和3年で活動が10年目となりました。
毎週木曜日9時半から12時まで、図書館が依頼した破損本の修理を行っていて、活動開始から計3,297冊（令和3年1月末時点）を修理しています。



製本工房いずみ

平成22年に活動を開始しました。
破損が激しく修理に時間がかかる資料を中心に、再び貸出や閲覧が可能になるレベルまでしっかりと修理し、泉図書館の資料保存にご協力いただいています。



製本ボランティア・舞鶴

破れたり、壊れたりしてしまった資料の修理ボランティアとして、平成20年から鶴見図書館で活動しています。
多くの資料を蘇らせるため、図書館を含む鶴見区内4施設で定期的に活動しています。



中央図書館図書修理ボランティア

平成22年1月より活動を開始しました。
図書館の養成講座に応募し、ボランティア登録された方々により、ボランティア活動室内において、破損した図書館資料の修理をしていただいています。



藤平等子

平成23年より港南図書館で図書修理ボランティアとして、傷んだ図書館資料の修理をしてくださっています。
また、わらべうた講座講師やブックトーク演者も務めるなど、図書館事業にご協力いただいています。



本の修理・いそご(手づくり製本の会)

平成17年4月から活動を開始し、現在は磯子図書館で月2回本の修理をしていただいています。
また、毎年講師をお願いしている「学校図書館・本の修理講座」は大変好評です。



緑図書館図書修理ボランティア

破損本が職員だけでは修理しきれない量になったため、平成22年度に立ち上げ、お力をお借りしています。現在だけでなく、未来の利用者に本をつないでいくため、熱心に活動していただいています。



南図書館図書修理ボランティア

平成22年に活動を開始し、毎月2回ほど集まって、壊れた本の修理をしてくださっています。南図書館の蔵書は修理ボランティアの皆様のお力で支えられています。



いちご リペアー期の会

平成23年に活動を開始し、月に約4回山内図書館に集まり本の修理をしてくださっています。夏休みや春休みには、利用者の前でオープン修理を行っています。本の取り扱いに関心を持ってもらうことができ、注意喚起にもつながっています。年に1回の「本の病院」では、一般の方の本の修理を行い人気の事業です。図書館主催の修理講座でもご協力をいただいています。

書架整理ボランティア



旭図書館書架整理ボランティア

旭図書館の書架には、整然と本が並んでいます。その環境を支えるのが書架整理ボランティアの方々です。本が好き!というお気持ちが、長続きの原動力とか。図書館利用の前後に、あるいはほぼ毎日活動なさる方もあり、施設点検日には大勢の参加で一気に書架が整います。



金沢図書館書架整理ボランティア

平成27年6月から活動を開始しており、令和3年で活動が6年目となりました。
毎月の施設点検日の10時から12時まで、図書館全体の書架の整理を行っています。



中央図書館書架整理ボランティア

平成23年4月より活動を開始しました。
中央図書館にボランティア登録された方々により、中央図書館のすべての公開フロアを対象に、書架の整理をいただいています。

環境整備ボランティア



旭図書館グリーンボランティア

平成24年に活動を開始し、月1回の施設点検日を中心に日々花苗を管理する活動をされています。
オープンガーデンの日は、「あさひくんの庭」の説明係としても活躍されています。

その他読書活動の推進に貢献された方々



いそご図書館サポーターズクラブ 「ほびっと」

平成22年に発足し、現在は、磯子図書館で年3回の展示活動をしています。また、企画事業「ぬいぐるみといっしょのおはなし会&お泊り会」で多大なご協力をいただいています。



金沢おはなしネットワーク ウェズランディア

各所で読み聞かせ等をしてきたメンバーが、グループの垣根を越えてネットワークを組みました。横断的に集まって、研修等を行っています。

平成22年度からは、図書館の「ボランティア交流会」の企画・実施でご協力いただいています。



紙芝居おじさん としょくん

平成24年に旭図書館での活動を開始し、毎年数回「かみしばいの会」に出演。巧みな話術に好評をいただいています。

また、ご自身でも『畠山重忠公物語』などの紙芝居を作られています。



港北図書館友の会

平成22年6月に発足しました。

古本市の開催で得た収益を港北図書館に還元していただいたり、講演会の開催等の他、毎月の定例会で図書館と情報共有を図るなど、港北図書館を支え育ててくださる存在です。



特定非営利活動法人 港南歴史協議会

平成20年4月の発足当初から、港南図書館でも活動を開始しました。現在は図書館内外で年数回、港南区史を中心に歴史講座や歴史街歩きを開催しています。港南区の郷土資料も多数出版し、図書館へご寄贈頂いています。



PCどりーむ

平成20年に活動を開始し、月に1回第4水曜日に旭図書館で講習会を開催しています。図書検索機の操作に不慣れな方が使えるようマンツーマンでサポートする活動をしています。(現在はコロナ禍のため活動を休止中)



「ほどがや」えかたり〜べ

保土ケ谷に伝わる「民話」を掘り起こしたオリジナルの紙芝居を製作・口演しています。保土ケ谷区を中心に口演を行いつつ、ご自身のYouTubeチャンネルでも動画を公開しています。



松山 良子

平成22年戸塚図書館利用者懇談会の発足当時から、委員として図書館の運営にご尽力いただいています。また、地域の小学校で読み聞かせの活動を行うとともに、地域の新聞に本の紹介コーナーを作られるなど、地域の読書活動推進にも貢献されています。

横浜市立図書館100周年記念事業

新たに取り組んでいる図書館事業・サービス

図書館は、読書により生活を豊かにするだけでなく、市民の生活・社会の基盤である福祉・経済・医療・学び等を支えるインフラでもあります。

100周年を契機として、年齢・国籍の違い、障害の有無に関わらず、これまでに利用の機会がなかった多くの市民の方にも身近で頼れる図書館として、親しみを持って利用していただくことを目的に、「身近で便利な図書館サービスの充実」に取り組んでいます。

*電子書籍サービス開始

インターネットにつないだパソコンやスマートフォン、タブレットで、24時間、いつでもどこでも読書が楽しめる電子書籍サービスを、令和3年3月から開始しました。

小説やレシピブックなどの実用書はもちろん、絵が動く絵本や図鑑、音声付きの語学書、外国語の本等、いろいろなジャンルの本をご用意しています。

文字の拡大や、文字色の反転、音声読み上げ等、電子書籍ならではの機能もあり、高齢の方や障害のある方も使いやすいように工夫されています。

*移動図書館事業の拡大

移動図書館「はまかぜ号」は本棚を取り付けた特別仕様の車です。約3,000冊の図書を載せて、図書館から遠い地域を中心に、市内21か所を1台で定期的に巡回しています。

令和3年度に車両をもう1台製作し、令和4年度から巡回先を増やします。令和4年度以降の事業展開にご期待ください。

*図書取次サービスの拡充

図書取次サービスは、図書館以外の場所で、予約した図書館の本の受取や返却ができるサービスです。

二俣川駅や東戸塚駅の行政サービスコーナー等のほか、令和4年1月に港北区日吉に新たな図書取次所も開設し、市内11か所で実施しています。

*オンライン対面朗読開始

対面朗読は、音訳者が視覚障害者に直接朗読するサービスです。感染症予防対策や、読書機会のより一層の充実を図るため、遠隔コミュニケーションアプリを使用したオンラインによる対面朗読サービスを令和3年3月から開始しました。

*外国につながる児童生徒の読書支援

外国につながる児童生徒のため、各国で人気の児童書、母語に翻訳された日本の教科書掲載作品や児童書、やさしい日本語で書かれた日本語学習用図書などを揃えました。図書館から各学校に貸出を行い、子どもたちの読書活動を支援します。



電子書籍サービス



移動図書館「はまかぜ号」巡回の様子



オンライン対面朗読の様子(イメージ)



ペーパークラフト

移動図書館のペーパークラフトを100周年記念事業参加者の方などに配布しました。組み立てると、小さな移動図書館車ができます。

1 当日の様子

(1)記念式典



図書館功労者表彰の様子

(2)記念講演会



会場風景



スタジオジブリプロデューサー・鈴木敏夫様

横浜市立図書館100周年記念式典・講演会

令和3年6月13日に、市民の皆様、図書館の運営を支えてくださった図書館功労者の皆様等をお招きして記念式典・講演会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、式典・講演会は会場の人数を制限し、オンライン配信を行いました。

1 日時・会場

(1)日時：令和3年6月13日(日) 午後1時30分～午後4時

(2)会場：港南公会堂ホール (525席)

(港南区港南中央通10-1)

※新型コロナ感染防止の観点から定員の半数以下に減らして実施

2 出席・参加者

(1)会場参加者合計202名

ア 来賓 7名

(市会議長、子ども青少年・教育委員会委員長、子ども青少年・教育委員会副委員長(1名)、神奈川県立図書館長、隣接市図書館長(川崎市、大和市、横須賀市の3名))

イ 主催者 8名

(市長、教育長、教育委員1名、他5名)

ウ 功労者 63名(功労者表彰の個人、団体代表者(各1名))

エ 一般参加(市民公募) 124名

(申込者数257名、当選150名)

(2)オンライン配信参加 約150名

(常時接続者のおおよその数、申込者数は354名)

3 プログラム

ア 第一部「記念式典」 午後1時30分～午後2時10分

内容：主催者挨拶、祝辞、図書館功労者への表彰等

イ 第二部「記念講演会『つなぐ とどける そこに本』」

午後2時30分～午後4時

(スタジオジブリプロデューサー・鈴木敏夫さん、

編集者・永塚あき子さんの対談)

4 横浜市立図書館功労者表彰

図書館開業100周年を記念して創設されました。横浜市立図書館における読書活動の推進に貢献し、図書館の振興に尽力されている個人・団体の皆様へ、感謝の意を表し、その功績を表彰してその活動を広く紹介し、市民の読書活動に関する取組を進めるため、各図書館が推薦し、教育長から贈られました。

(1)功労者表彰者数 計72個人・団体(70～89p「図書館功労者表彰」参照)

【内訳】

・表彰状：活動年数がおおむね20年に渡る方に贈呈
計17個人・団体(個人：2、団体：15)

・感謝状：活動年数がおおむね10年に渡る方に贈呈
計55個人・団体(個人：7、団体：48)



(2)式典における表彰者

表彰状及び感謝状の受賞者のなかからそれぞれ代表して

1名の方に贈呈

- ・表彰状：鶴見歴史の会
- ・感謝状：おはなしくまさん



受付：新型コロナウイルス感染予防の対応をとって開催しました

【式典・記念講演会資料】

横浜市立図書館
100周年記念式典・講演会

日 時 令和3年6月13日(日)
午後1時30分～午後4時

場 所 港南公会堂

司会進行 フリーアナウンサー 岩崎 里衣

次 第

第一部 記念式典

1 開会宣言	横浜市中央図書館長	下澤 明久
2 市歌清聴		
3 登壇者紹介		
4 主催者挨拶	横浜市 市長	林 文子
5 来賓祝辞	横浜市議会 議長	清水 富雄 様
	神奈川県図書館協会 会長 (神奈川県立図書館館長)	南雲 正二 様
6 横浜市立図書館功労者表彰 教育長表彰状贈呈 教育長感謝状贈呈		
7 謝辞	横浜市教育長	鯉淵 信也
8 閉会		

休 憩

第二部 記念講演会「つなぐ とどける そこに本」

対談	スタジオジブリ・プロデューサー	鈴木 敏夫 様
	スタジオジブリ・編集者	永塚 あき子 様


次第表紙

記念講演会
「つなぐ とどける そこに本」

高畑勲・宮崎駿両監督と共に、数々のアニメーション作品を送り出してきた鈴木敏夫さん。その基礎を作り、世界をひろげたのは映画、そして本でした。横浜が舞台の「コクリコ坂から」など、これまでに製作された作品にまつわる膨大な記録の中から、過去・現在・未来を紹介している『ALL ABOUT TOSHIO SUZUKI』。1冊の本を編む過程を共に歩まれた、編集者の永塚さんとの対談です。


スタジオジブリ・プロデューサー
鈴木 敏夫 様

1948年、名古屋生まれ。慶応義塾大学文学部卒業後、徳間書店入社。『週刊アサヒ芸能』を経て、『アニメージュ』の創刊に参加。副編集長、編集長をおよそ12年務める。『風の谷のナウシカ』『火垂るの墓』『となりのトトロ』などの高畑勲・宮崎駿作品の製作に関わる。1985年にスタジオジブリの設立に参加。1989年からスタジオジブリ専従。以後、『もののけ姫』『千と千尋の神隠し』『風立ちぬ』等、ほぼすべての劇場作品をプロデュース。
現在、スタジオジブリ代表取締役プロデューサー。



スタジオジブリ・編集者
永塚 あき子 様


東京都出身。編集・デザイン会社で書籍や雑誌などの編集者として働いた後、2017年スタジオジブリに入社。アーカイブ業務に従事する中で、時々出版業務に携わり、『トトロの生まれたところ』(岩波書店)、『ALL ABOUT TOSHIO SUZUKI』(KADOKAWA)を編集。





司会進行 フリーアナウンサー 岩崎 里衣

ラジオ日本で横浜市の広報番組リポーターを約30年務め、大前研一氏が代表を務めるオンラインマネジメントスクールBBT(ビジネスブレックス)では、大学・大学院をはじめ数々のビジネス講座のキキスター、アシスタントを担当。様々なイベント、セミナー、表彰式、ディナーショー、記者会見をはじめ、子供から大人まで楽しめるコンサートの司会も数多く務めている。



次第裏表紙



100周年記念しおり



記念式典・講演会ポスター



当日配布資料
(左から、パンフレット、講演会ブックリスト、次第)



当日チケット



展示全景

中央図書館企画展示 市立図書館開業100周年記念展示

中央図書館で市立図書館開業100周年を記念した展示を開催しました。横浜市立図書館のあゆみを紹介するパネル展示に加え、幻の図書館の外観図が掲載されている本、関東大震災の被災を免れた、たった1冊の本、図書館のデータがオンライン化される前の「目録カード」や各図書館で使われていた古い「図書館カード」など懐かしい資料も展示しました。

会場／中央図書館1階展示コーナー

期間／令和3年5月11日(火)～6月20日(日)



目録カード



幻の図書館の外観図が掲載されている本やかつての市立図書館の写真などを展示



「Java」

1855年に出版された、インドネシア ジャワ島の民族に関するオランダ語で書かれた資料。仮閲覧所時代に受け入れた本のうち、唯一残った本。関東大震災の時、都内の業者に製本を依頼していたため、焼失を免れた。



たくさんのメッセージをいただきました
(写真：山内図書館)

100周年記念パネル展示 「横浜市立図書館100年のあゆみ」

開業100周年を迎える横浜市立図書館のあゆみを紹介する、パネル展示を開催しました。

中央図書館での記念展示を皮切りに、市立図書館全館を巡回しました。パネルの最後の1枚には、来場者の方に、次の100年に向けて「これからの図書館に期待すること」「理想の図書館」「図書館の好きなおところ」などをふせんに書いて貼っていただきました。写真展の様子とメッセージの一部をご紹介します。

(パネルは「市立図書館100年のあゆみ」(4～11p)に掲載)





中央図書館

会場／中央図書館1階展示コーナー
期間／3月20日(土・祝)～31日(水)



栄図書館

会場／栄図書館1階展示コーナー
期間／5月7日(金)～28日(金)



南図書館

会場／南図書館階段踊り場
期間／6月1日(火)～14日(月)



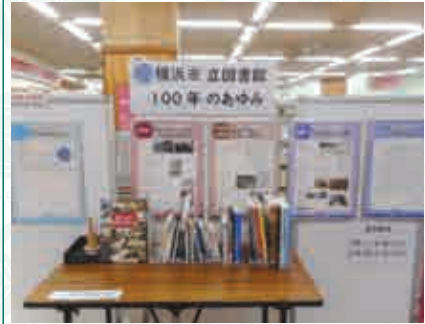
港北図書館

会場／港北図書館1階港北まちの情報コーナー
期間／6月2日(水)～20日(日)



金沢図書館

会場／金沢図書館1階ロビー
期間／6月2日(水)～24日(木)



中図書館

会場／中図書館1階入口前
期間／6月11日(金)～30日(水)



緑図書館

会場／緑図書館中廊下
期間／8月4日(水)～30日(月)



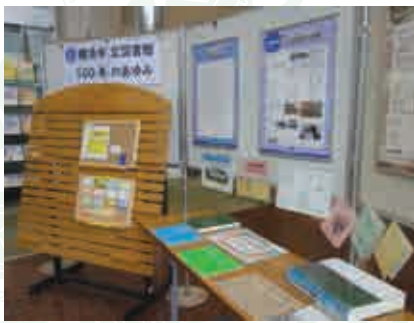
鶴見図書館

会場／鶴見図書館2階
期間／9月1日(水)～30日(木)



泉図書館

会場／泉図書館2階フロア
期間／9月17日(金)～27日(月)



瀬谷図書館

会場／瀬谷図書館玄関ホール
期間／9月4日(土)～20日(月・祝)



磯子図書館

会場／磯子図書館ロビー
期間／10月1日(金)～10日(日)



山内図書館

会場／山内図書館展示コーナー
期間／10月1日(金)～31日(日)



都筑図書館

会場／都筑図書館郷土資料コーナー
期間／11月1日(月)～30日(火)



旭図書館

会場／旭区役所ろびーぎゃらりー(1階展示スペース)
期間／11月2日(火)～8日(月)



戸塚図書館

会場／戸塚図書館展示コーナー
期間／11月4日(木)～25日(木)



保土ヶ谷図書館

会場／保土ヶ谷図書館
期間／11月11日(木)～24日(水)



神奈川図書館

会場／神奈川図書館ロビー
期間／12月1日(水)～28日(火)



港南図書館

会場／港南図書館2階展示コーナー
期間／令和4年1月12日(水)～31日(月)

来場者の方からいただいた「これからの図書館に期待すること」「理想の図書館」「図書館の好きなところ」メッセージ（一部）

100周年オメデトウ。長い間のご苦勞に感謝します。次世代のIT・デジタル・国際図書館を目指してください。／きれいな本がいっぱいあるといい／蔵書を廃棄せずすべて保管してほしい。／図書に関し、デジタルとリアル（現実）をつなぐリアルな場所／温故知新 新しい挑戦とともに昔の懐かしい図書館を思い出されるような企画・雰囲気づくりをお願いします！／本が好きな人同士と語り合える素敵な場所にしてほしい。／雑誌をもっと読みたい！／新刊書の数多くしてください。／しずかで本がきれいにならんでいること／本が少なくて読む物がありません。／世界じゅうの本がそろえてあるとしゃかん／本がきれいにならんでいてすきな本がすぐに見つかるしゃかん／バーコードを表紙に張るのをやめるなど、本の情報量が削られることのない方法を考えてほしいです。古い本を大切にしたい。／駅に返却ポストを導入してください。／借りた本の返却場所がもっと身近にたくさんあると借りやすくなります。／このとしゃかにいろんなほんがあってうれしいです。／読みたい本がどんどん見つかる／本がたくさんあって楽しい／この図書館があったからここで勉強できたから今の自分があります。人生のリ・スタートはここから始まりました。感謝です。／大学に通う市民ですが、こうした禍下に於いても自宅にて資料のありかを探して、それをもとに来館して図書を閲覧できる至便さに大いに助けられています。100年おめでとうございませう。偶然にも記念すべき日に来られてうれしい。／たくさんの宝物に出会える場所。大好きです！／電子書籍が便利です。／次の100年も応援しています。／横浜市の図書館は、他の自治体図書館と違い専門書が多く収集されており、仕事や勉強にとっても役立ちます。これからもよろしくお願ひします。／いつもありがとうございます。私の学校です。／図書館を利用することで“読む”習慣をいつまでも続けていきたいと思ひます。



横浜市立図書館100周年記念事業

期間限定ツイート 100カウントダウン

市立図書館開業100年の100日前にあたる令和3年3月3日から、6月11日の開業日まで、横浜市立図書館Twitterで、カウントダウンを実施しました。

100年を振り返る写真、市立図書館のサービスや、資料などを毎日ツイートしました。

94日前 (3月9日)

93日前 (3月10日)

92日前 (3月11日)

74日前 (3月29日)

23日前 (5月19日)

14日前 (5月28日)

5日前 (6月6日)

1日前 (6月10日)

2日前 (6月9日)

100日前 (3月3日)

横浜市立図書館 @yokohama_lib 2021/03/03

【100周年まであと100日】今日は令和3年3月3日ですが、横浜市立図書館は3ではなく100にご縁があります。横浜市立図書館 100周年まで、あと100日！100年続く図書館の情報を毎日発信します。ぜひお楽しみからカウントダウン！6月11日(開業日) #lib100 本館の顔写真 city.yokohama.lg.jp/kurashi/kyokai...

44日前 (4月28日)

25日前 (5月17日)

100周年 (6月11日)

横浜市立図書館 @yokohama_lib

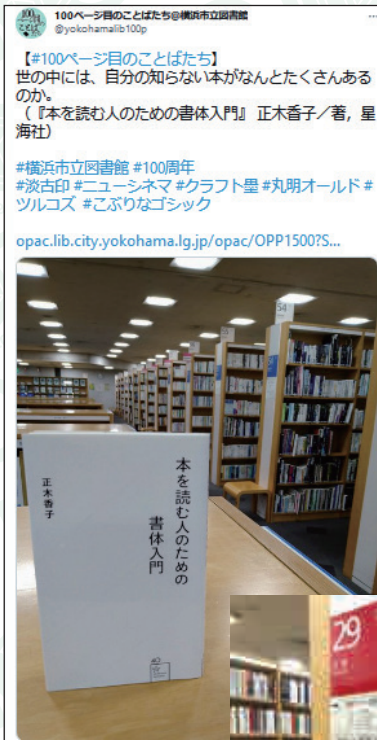
【#横浜立図書館100周年！】本日6月11日は市立図書館の開業日です。100年前に市民の熱い要望で、横浜市立図書館は建設より前に「仮閲覧所」として開業しました。これからも次の100年に向けて共に歩んでいただけたら幸いです。#誕生日 #100年の知識を100年先 city.yokohama.lg.jp/kurashi/kyokai...

100 YOKOHAMA CITY LIBRARY 横浜市立図書館

1921-2021

- 100年の知識を100年先も -

投稿内容の一例



期間限定ツイート 100ページ目のことばたち

開館100周年にちなみ、期間限定の新しいTwitterアカウント「100ページ目のことばたち」を開設しました。このアカウントは、本の「100ページ目」に載っている、心に響く「ことば」を転載して資料の写真とともにツイートし、本や図書館の魅力を発信することを目的として展開しました。

紹介する本は横浜市立図書館の職員が選び、原稿作成や写真撮影、出版者等への許諾申請、アカウントの新設といった作業を経て、3月23日より投稿を開始しました。紹介した本数は180点でした。

ツイート期間/令和3年3月23日(火)～12月28日(火)

ツイートした
ことばと写真を
パネルにし、書
棚や壁面への掲
出、パネル展示
などを行いました。



南図書館

会場/南図書館階段踊り場
期間/6月18日(金)～30日(水)



磯子図書館

会場/磯子図書館検索機台
期間/7月13日(火)～12月28日(火)



中央図書館

会場/中央図書館1階展示コーナー
期間/8月11日(水)～9月20日(月)



泉図書館

会場/泉図書館1階カウンター前
期間/9月1日(水)～30日(木)



中図書館

会場/中図書館1階
期間/9月7日(火)～30日(木)



神奈川図書館

会場/神奈川図書館玄関ホール入口付近一般児童フロア
期間/9月14日(火)～10月10日(日)



港北図書館

会場/港北図書館1階港北まちの情報コーナー
期間/10月8日(金)～31日(日)



横浜市立図書館100周年記念事業



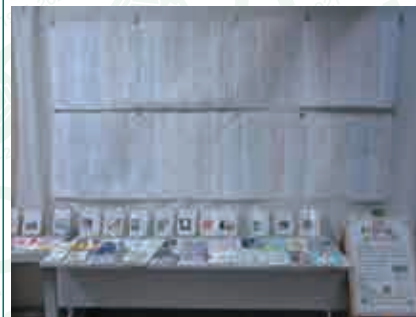
緑図書館

会場／緑図書館中廊下
期間／12月1日(水)～28日(火)



鶴見図書館

会場／鶴見図書館3階
期間／12月24日(金)～令和4年2月2日(水)



都筑図書館

会場／都筑図書館
期間／令和4年2月1日(火)～18日(金)

市立図書館各館の展示や企画等

市立図書館100周年×市営交通100周年

ともに令和3(2021)年に100周年を迎えた市立図書館と横浜市営交通。それを記念し、横浜市交通局と連携した企画展を開催しました。

【中央図書館】

「100周年！ 図書館×市営交通」

中央図書館の1階から5階まで、すべての閲覧フロアで図書館と交通局が連携した展示を行いました。

期間：令和3年4月1日(木)～5月5日(水・祝)



「100周年！ 図書館×市営交通」

(共催：横浜市交通局 協力：横浜市電保存館) (1階)

図書館と市営交通の年表、市電で使用していた方向幕、腕章、鞆等物品の他、記念切符、ポスター、電車模型等も展示しました



「市電今昔」

(共催：横浜市交通局 協力：横浜市電保存館、しでんの学校) (3階)

懐かしい市電の写真と、同じ場所の現代の写真。貴重な絵ハガキなどを展示しました



「市営地下鉄・バス車両と、それを支える人々」
(共催：横浜市交通局) (4階)

「バイサイドブルー」などの車両と、車両基地や整備工場働く人たちの写真を展示しました



「永井一正の仕事と図書館資料にみるポスターたち」
(共催：横浜市交通局) (5階)

市営交通100周年ポスターを作成したグラフィックデザイナー永井一正氏のポスターと、作品を扱った図書を展示しました



記念パネル展示「路面電車が走った時代 神奈川県いま・むかし」(神奈川県図書館)



講演会「神奈川を走った市電の歴史」ポスター
(神奈川県図書館)



展示「横浜市電いま・むかし「杉田線」」(栄図書館)

【鶴見図書館】

パネル展示「市電の思い出写真展」

生麦線を中心に写真を展示しました。

期間／令和3年10月26日(火)～11月14日(日)

会場／鶴見図書館

協力／横浜市交通局、横浜市電保存館

【神奈川図書館】

記念パネル展示「路面電車が走った時代神奈川県いま・むかし」

横浜市電保存館と神奈川県図書館が所蔵する、神奈川県内を走る市電の写真と関連図書を展示しました。

期間／令和3年10月12日(火)～11月1日(月)

会場／神奈川県図書館

協力／横浜市電保存館、しでんの学校

講演会「神奈川を走った市電の歴史」

かつて横浜の街には、路面電車が走っていました。大正10(1921)年に市電が誕生してから、令和3(2021)年で100周年を迎えました。

市民の足として愛された、市電の歴史をたどりました。

開催日／令和4年3月26日(土) 午前10時30分～正午

会場／老人福祉センター横浜市うらしま荘(神奈川県図書館2階) 会議室

定員／30人

講師／横浜市電保存館館長 武藤隆夫氏

協力／横浜市電保存館

◆同時開催 写真パネル展示◆

「路面電車が走った時代 神奈川県いま・むかし」

令和4年3月8日(火)～3月31日(木)

【栄図書館】

展示「横浜市電いま・むかし「杉田線」」

かつて「ちんちん電車」の愛称で親しまれた横浜の路面電車の中から、杉田線の写真を展示しました。

日時／令和4年2月1日(火)～2月28日(月)

会場／栄図書館1階展示コーナー

協力／横浜市電保存館、しでんの学校



【泉図書館】

100周年記念パネル展示

市電の写真や、市営地下鉄が戸塚駅から湘南台駅へ延伸した時の写真などを展示しました。

期間／第1弾：令和3年10月29日（金）～11月5日（金）

第2弾：令和3年11月11日（木）～12月3日（金）

会場／第1弾：泉図書館2階会議室

第2弾：泉図書館2階ロビー

協力／横浜市電保存館、しでんの学校

100周年記念講座

「のびる地下鉄 戸塚 湘南台間 計画から開業まで」

市営地下鉄が「戸塚駅」から泉区を通り「湘南台駅」まで伸びた経緯を中心に、当時の担当者ならではの貴重なお話を伺うことができました。講演会の動画を市立図書館ホームページでアーカイブとして公開しました。

日時／令和3年11月27日（土）午前10時30分～正午

会場／泉図書館2階会議室

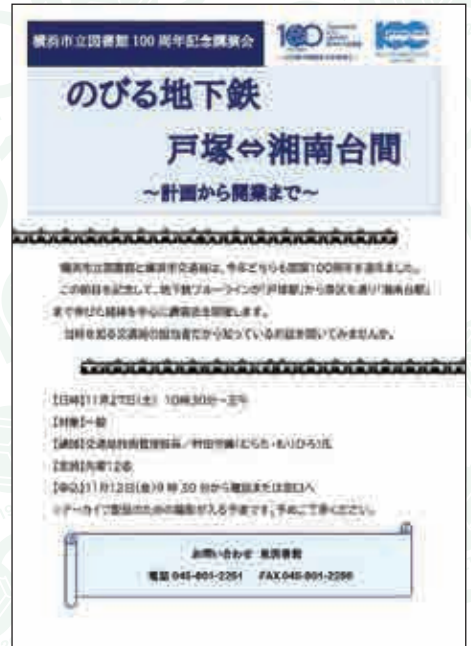
来場人数／12人

講師／交通局技術管理部長 村田守廣氏

協力／横浜市交通局



100周年記念記念パネル展示（泉図書館）



100周年記念講座「のびる地下鉄 戸塚 湘南台間」ポスター（泉図書館）

市立図書館100周年×市営交通100周年 ×野毛山動物園70周年

【市立図書館 [全館]】

なつやすみ図書館deビンゴ ～ビンゴを揃えてしおり」をゲット！

テーマに関連した本を読んでマスを埋めるビンゴを、小・中学生を対象として、夏休みに開催しました。縦横斜めのいずれか3冊を読み、解答したビンゴ用紙をもってきた回答者にしおりをお渡ししました。しおりは交通局、令和3年に70周年を迎えた野毛山動物園提供の写真に掲載したオリジナルです。

期間／令和3年7月21日（水）～8月31日（火）

主な対象／市立図書館に来館する小・中学生



「なつやすみ図書館deビンゴ」ポスター



【オリジナルしおり】
（しおり用写真提供 上：交通局、下：野毛山動物園）



展示の様子(中央図書館)

市立図書館100周年×横浜DeNA ベイスターズ10周年

【市立図書館9館】

企画展示

「誕生10周年目!横浜DeNAベイスターズ×開業100周年!横浜市立図書館」

令和3年に、誕生10周年目のシーズンを迎えた横浜DeNAベイスターズの選手が選んだおすすめの本、ベイスターズや野球に関する本を紹介しました。計9図書館で巡回展を開催しました。

図書館名	期間
中央図書館	令和3年8月11日(水)～9月12日(日)
泉図書館	令和3年10月22日(金)～11月5日(金)
中図書館	令和3年11月16日(火)～12月6日(月)
南図書館	令和3年12月14日(火)～12月26日(日)
都筑図書館	令和4年1月8日(土)～1月23日(日)
磯子図書館	令和4年1月26日(水)～2月3日(木)
緑図書館	令和4年2月9日(水)～2月16日(水)
神奈川図書館	令和4年2月23日(水・祝)～3月4日(金)
金沢図書館	令和4年3月9日(水)～3月20日(日)

【中央図書館】

企画展示「100年出版社～受け継がれる出版の志」

市立図書館開業100周年にちなみ、この100年、出版の志を受け継ぎ、数々の書を世に送り出してきた老舗出版社とその刊行図書を、蔵書でご紹介しました。

会場/中央図書館3階カウンター前

	期間等	
第1回	令和3年1月13日(水)～2月14日(日)	辞書・語学書で著名な2社を取り上げました。
	<div data-bbox="258 1384 807 1581"> <p>白水社</p> <p>1915年(大正4年)創業。「白水社」の社名は屋敷の長持から取ったもので、秋めば芋の神楽を意味すること。 創業3年目の1918年には、学問の不便を解消しようとフランス語辞書『実用広義西文辞』を刊行。1921年には「国語学大辞典」を刊行、その後の出版の方向性を決定づけた。他に朗読メモ『ナポレオンの人』(第一巻1938年刊)、『ニューター夫人伝』(同年刊行)、翻訳シリーズ『新しい世界の文学』の「ライオンでつかまえて」(1964年刊)など。</p> </div> <div data-bbox="842 1384 1391 1581"> <p>研究社</p> <p>1907年(明治40年)「英語研究社」創立。1916年(大正5年)「研究社」に社名改称。 創立以来、一貫して英語関連の出版事業を手掛け、「おにぎり世界に届けた出版」をキーワードとして、辞書・語学辞書・電子辞書の領域において水準の高い出版を続けています。刊行物に『英文学叢書(Kenkyusha English Classics)』(1921年刊行開始)、『新英和大辞典』(1931年刊行)、『新英和中辞典』(1967年刊)など。</p> </div>	
第2回	令和3年4月1日(木)～5月17日(月)	自然科学系の出版社2社を取り上げました。
	<div data-bbox="258 1630 807 1827"> <p>誠文堂 新光社</p> <p>1912年(明治45年)書籍取次業として東京神田に「誠文堂」を創業。創業後出版に取り組み、1935年(昭和10年)「新光社」を吸収。社名を「誠文堂新光社」と改称。 1923年(大正12年)の関東大震災時は、社屋倒壊の被害の中、いち早く「官地踏査大図大の東京」を刊行。翌年、今に続く雑誌『子供の科学』と『無線と実験』(M)を創刊。1945年(昭和20年)、神教団員の10月に『日本会館手帳』を刊行。出版までの早さとベテランとなる受け継ぎは、出版界の誇りとなりました。</p> </div> <div data-bbox="842 1630 1391 1827"> <p>培風館</p> <p>1924年(大正13年)東京神田に「培風館」創業。同社HPでは上記の通りですが、1916年(大正5年)創立と記す文献もあり、創業当初から教科書や教育関係書の出版を手掛け、1926年(大正15年)出版の『成教参考書』『最新代数学辞典』は、著者「吉川三郎」の代名として長く版を重ねました。第二次大戦後「戦時下の求めに応じた書籍を急いで作りあげて届けること」を社是とし、理工学書を中心とする専門出版社として息長く活動しています。1984年(昭和59年)『物理学辞典』、1992年(平成4年)『心理臨床大辞典』など。</p> </div>	
第3回	令和3年5月18日(火)～6月20日(日)	人文科学系の出版社2社を取り上げました。
	<div data-bbox="258 1877 807 2074"> <p>吉川 弘文館</p> <p>歴史は古く1867年(安政4年)、吉川半七が書籍の仕立を始めたことに始まります。半七は1863年(文久3年)四谷の貸本屋延文堂を継ぎ、1870年(明治3年)には京橋に吉川書房を創設。店内に書籍を閲覧できる「実証貸読所」を設け、1877年(明治10年)頃には出版を手始め、市内書局向書籍となりました。半七は書術書を中心に出版を続け1902年(明治35年)に過ぎましたが、翌々年書局は合資会社「吉川弘文館」となり、大辞典や叢書など国史・国文学分野に輝々たる出版を成す老舗書籍となりました。</p> </div> <div data-bbox="842 1877 1391 2074"> <p>富山房</p> <p>創業者の根本高治氏は、幼少小野の経営する東洋館書店に入りましたが、小野の没後その遺志を継ぎ、1886年(明治19年)神田神保町に「富山房」を創業。同年の天野高之「経済学叢書」を処女出版に、『益世報』を社是として、主に教科書や辞書類の質の高い出版を続けました。現在は、全業書類や児童書の出版に注力しています。刊行物に、教育類向け『大日本国語辞典』(1913(大正4年))、吉田重吾『大日本地名辞書』(1900(明治33年))、大塚文彦『大言海』(1932(昭和7年))、『国民百科大辞典』(1934(昭和9年))など。</p> </div>	

横浜
市立
図書館
100
周年
記念
事業

展示「書名に「百」のつく本」

6月に市立図書館が100周年を迎えることにちなみ、書名に「百」のつく様々な本を紹介しました。
日時／令和3年5月7日(金)～6月20日(日)
会場／中央図書館5階エレベーター前

企画展示「図書館の展覧会」

市立図書館100周年を記念し、中央図書館開館以前の横浜市図書館および中央図書館で開催した各種「展覧会」の中から、横浜に関連する展覧会のポスターや出品目録などを展示しました。
期間／令和3年6月25日(金)～8月9日(月・振休)
会場／中央図書館3階展示コーナー

野毛山動物園開園70周年・横浜市立図書館開業100周年交換パネル展

開園70周年を迎えた野毛山動物園(西区)が作成した記念パネルを図書館で展示し、野毛山動物園では図書館のパネルを展示していただきました。
日時／令和3年7月13日(火)～8月9日(月・振休)
会場／中央図書館1階展示コーナー

100周年記念事業

「こどもりゅーる～針と糸でつづる本づくりの教室～」

夏休みに読んだ本を記録できる、読書ノートの製本講座を開催しました。一折中綴じという綴じ方を紹介しました。
日時／令和3年7月28日(水) 午前10時～正午
会場／中央図書館5階第一会議室
参加人数／小学校高学年9人

100周年記念「令和3年度 第1回 ヨコハマライブラリースクール※ 中村高寛監督が語る図書館活用術 あの映画はこうして作られた！」

『ヨコハマメリー』や『禅と骨』などのドキュメンタリー映画で知られる中村高寛監督は、映画製作において、中央図書館を活用しています。

中村監督ならではの図書館活用術や、実際に活用した資料をもとに、映画が作り出される過程などについてお話を伺いました。

日時／令和3年8月28日(土) 午後2時～午後4時
会場／中央図書館地下1階ホール
参加人数／61人
講師／中村高寛氏

※ヨコハマライブラリースクールについてはコラム29pをご覧ください

展示「100年の会社—受け継がれる老舗のチカラ」

中央図書館所蔵の社史コレクションから、創立100年を超える会社や団体の記録をご紹介します。
日時／令和3年9月1日(水)～9月20日(月・祝)
会場／中央図書館4階エレベーター前



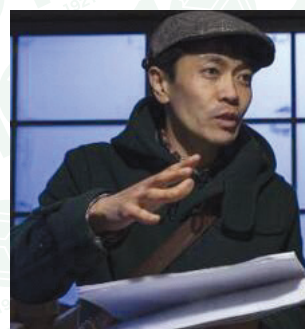
企画展示「図書館の展覧会」



企画展示「野毛山動物園開園70周年・横浜市立図書館開業100周年交換パネル展」



完成した読書ノート



講師／中村高寛氏



展示「100年の会社」



企画展示「図書館100周年! 図書館に行こう! 横浜のJ1チームを応援しよう!」



企画展示「バリアフリーの布絵本展in横浜市中央図書館」



企画展示「神奈川新聞で振り返る横浜市立図書館100周年」

企画展示「図書館100周年! 図書館に行こう! 横浜のJ1チームを応援しよう!」

横浜市にホームタウンを置くプロサッカーのJ1チーム（横浜FC、横浜F・マリノス）の選手・スタッフからの図書館100周年記念メッセージや、両チームのユニフォームや歴史、共闘の記録とともに本を展示しました。

期間／令和3年9月13日（月）～10月10日（日）

会場／中央図書館地下1階展示スペース

協力／株式会社横浜フリースポーツクラブ

一般社団法人F・マリノススポーツクラブ

企画展示「バリアフリーの布絵本展in横浜市中央図書館～すべての子どもたちのために～」

市立図書館100周年を契機として、障害者スポーツ文化センター横浜ラポールで貸し出している布絵本や、布絵本の製作をしているボランティアグループの作品を展示させていただきました。

期間／令和3年10月12日（火）～11月14日（日）

会場／中央図書館1階展示コーナー

協力／障害者スポーツ文化センター横浜ラポール（社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団）

企画展示「神奈川新聞で振り返る横浜市立図書館100周年」

横浜市立図書館が開業100周年を迎えた令和3（2021）年は、横浜に日刊新聞が誕生して150年という節目の年でもあります。

この機会に、長きにわたり県下報道の第一線を走り令和2年に創業130周年を迎えた神奈川新聞社とともに、地域の情報拠点である市立図書館の100年を振り返りました。

また、日本新聞博物館から寄贈いただいた、100周年の年の図書館開業日にあたる、令和3年6月11日付けの新聞126紙も展示しました。

期間／令和3年12月21日（火）～令和4年1月30日（日）

会場／中央図書館3階展示コーナー

主催／神奈川新聞社、中央図書館

協力／ニュースパーク（日本新聞博物館）

～中央図書館では、令和3年度に創立100周年を迎えた近隣の2つの小学校と連携事業を実施しました。～

稲荷台小学校（西区）×中央図書館

出張こどもりゅーる@稲荷台小学校

令和3（2021）年に創立100周年を迎えた稲荷台小学校（西区）で製本講座を開催しました。

「一折中綴じ」という製本の手法で、子どもたちがオリジナル読書ノートを作りました。

日時／令和3年12月6日（月）午後2時30分～午後3時15分

会場／稲荷台小学校図書館

参加人数／5、6年生の図書委員 18人



100周年コラボしおりの配布

稲荷台小学校図書委員の子どもたちが作ったしおり100枚を来館者に配布しました。併せてポスターも掲示しました。
期間／令和3年11月20日(土)～しおりがなくなるまで
会場／中央図書館1階児童書コーナー

南太田小学校(南区)×中央図書館

展示「南太田小学校創立100周年記念 百年一首」

南太田小学校5年2組の児童が作成した創立100周年にちなんだオリジナル和歌の読み札と、それに関連する写真を展示しました。

期間／令和4年3月23日(水)～4月6日(水)

会場／中央図書館1階フロア

【鶴見図書館】

神奈川県図書館協会功労者表彰・横浜市立図書館功労者表彰受賞記念講演

鶴見歴史の会 連続講座(全2回)

第1回「鶴見商店街の歴史 一近代理想的都市建設の商店街一」

第2回「古文書に見る旧東海道筋の村々 一橋樹郡市場村の歴史とくらし一」

長年郷土研究を行っている「鶴見歴史の会」の方より、身近な鶴見の歴史を紹介していただきました。

日時／第1回：令和3年11月6日(土) 午後2時～午後4時

第2回：令和3年11月13日(土) 午後2時～午後4時

会場／鶴見区役所 9号10号会議室

参加人数／延39人

講師／第1回：高橋伸和氏

第2回：酒井晴雄氏

協力／鶴見歴史の会

つるみ読書講演会・市立図書館100周年記念

「ニホン語に住む私たち 台湾生まれの私の場合」

読書するとき、「ことば」や「言語」について考えることはありませんか？

作家の温又柔さんに、著作や体験を交えて「ことば」や「言語」、「読書」についてお話していただきました。

新型コロナウイルス感染症拡大のため、会場での開催は見送り、無観客での講演を録画し、後日YouTubeで配信しました。

【以下は当初予定】

日時／令和4年2月19日(土) 午後2時～午後3時30分

会場／鶴見区役所6階会議室

対象／一般(中学生以上) 80名

講師／温又柔氏

主催／鶴見図書館、鶴見区役所



企画展示「100周年コラボしおりの配布」



鶴見歴史の会 連続講座(全2回)



「ニホン語に住む私たち 台湾生まれの私の場合」ポスター



連続歴史講座「本牧の百年」ポスター



「物語を描く 一佐竹美保講演会」ポスター



人形劇団ひとみ座から借用した人形（実物）
「ドン・ガバチョ」（中央）「トラヒゲ」（右）

【中図書館】

横浜市立図書館開業100周年記念 連続歴史講座「本牧の百年」【中止】

横浜市立図書館は令和3年6月に開業100周年を迎えました。
これにちなみ、横浜市八聖殿郷土資料館より講師を招き、本牧の百年の歴史についてお話しいただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

【以下は当初予定】

日時／第1回 令和4年2月8日（火）
第2回 令和4年2月15日（火） ※両日とも中止
いずれも午後2時～午後4時
※連続講座です。2回連続で参加できる方のみ。

会場／中図書館2階会議室

定員／15人（申込先着順）

講師／横浜市八聖殿郷土資料館 相澤竜次氏

【南図書館】

横浜市立図書館100周年記念×南区読書活動推進事業 「物語を描く 一佐竹美保講演会」

『虚空の旅人』『魔女の宅急便』など、古典からSF、ファンタジーまで数多くの作品の装画・挿絵を手がけてきた佐竹美保さんに、物語を描くという仕事についてお話しいただきました。

日時／令和3年11月27日（土）午後2時～午後4時

会場／南区役所1階多目的ホール

参加人数／50人

講師／佐竹美保氏

主催／南図書館、南区役所地域振興課

【港南図書館】

横浜市立図書館100周年×横浜市港南図書館35周年特別企画 展示会「井上ひさし展～ふかいこととおもしろく～」

卓越した言語感覚と軽やかなユーモアで、小説・戯曲・エッセイと数多くの作品を世に送り出した井上ひさし氏（1934-2010）。

本展では著作物や年譜に加え、作品の土台となった緻密な資料として「ひょっこりひょうたん島」「吉里吉里人」の手書き創作ノート、原稿の一部（いずれも複製）などを展示しました。また、「ひょっこりひょうたん島」の人形劇で使用された人形や、その紹介パネルも展示し、「井上ひさし氏著作展示リスト」を作成・配布しました。

11月23日には、井上氏をして「いわば「心友」ともいえるべき存在」と言わしめた小川莊六氏による講演会『わが友 井上ひさし』も、港南区役所で行い、学生時代のエピソードを中心にユーモアを交えてお話しいただきました。（参加人数／94人）

日時／令和3年11月3日（水・祝）～12月7日（火）

会場／港南図書館2階会議室

来場人数／1,701人

協力／井上事務所、県立神奈川近代文学館、こまつ座、仙台文学館、人形劇団ひとみ座、山形県川西町遅筆堂文庫



横浜市立図書館100周年記念事業

【主な展示品】

- ・井上ひさし氏の著作（市立図書館所蔵）
- ・井上ひさし氏に関する著作
- ・ひょっこりひょうたん島人形・キャラクター紹介パネル
- ・ひょっこりひょうたん島プロットノート（複製）
- ・ひょっこりひょうたん島文庫本BOX
- ・『吉里吉里人』原稿（複製）
- ・『吉里吉里人』創作ノート（複製）
- ・「吉里吉里国地図」（複製）
- ・『父と暮せば』原稿（複製）
- ・雑誌『the 座』
- ・井上ひさし氏色紙（レプリカ）
- ・井上ひさし氏年譜（複製）
- ・井上ひさし氏肖像写真
- ・井上ひさし氏が使用した原稿用紙

【保土ヶ谷図書館】

展示「タイトルに100のつく本！」

横浜市立図書館開業100周年に関連して、タイトルに100のつく本を展示しました。

展示期間／令和3年6月1日（火）～6月30日（水）

会場／保土ヶ谷図書館3階展示架



井上ひさし氏の肖像写真と、「ひょっこりひょうたん島」のキャラクター紹介パネル



展示「タイトルに100のつく本！」

「大人のためのおはなし会」

司書が多様な読書の楽しみ方を提案する機会として、絵本の読み聞かせやストーリーテリングなど、目だけでなく耳で本の内容を楽しむ、大人の方に向けたおはなし会を開催しました。

日時／令和3年11月17日（水）午前10時30分～正午

会場／保土ヶ谷図書館2階会議室

参加人数／10人



「大人のためのおはなし会」

【旭図書館】

横浜市立図書館100周年&旭図書館35周年記念・読書ノートプレゼントキャンペーン

シリーズものを読破したい人や、読書記録をつけてみたい人を応援します！読んだ本の記録を付けられる、旭図書館オリジナル読書ノート用紙としおりを配布しました。また令和4年2月から、旭図書館ホームページで、読書ノートのデータを公開しました。

期間／令和3年6月13日（日）～7月11日（日）

会場／旭図書館カウンター前



配布した読書ノートとしおり



「小説家たち、図書館を語りつくす！」チラシ



企画展示「大正時代の横浜」

横浜市立図書館100周年・旭図書館35周年記念事業 「小説家たち、図書館を語りつくす！」

横浜市立図書館にゆかりのある小説家（青崎有吾氏、大崎梢氏、森谷明子氏）が、図書館の楽しさについて語り合いました。

コロナ禍における「まん延防止等重点措置」の延長を受け、会場観覧・サイン会を中止し、Live配信のみとしました。

日時／令和4年2月26日（土）午後2時～午後4時

会場／旭公会堂（旭区役所4階）

参加人数／57人（Live配信）

講師／青崎有吾氏、大崎梢氏、森谷明子氏

共催／旭区地域振興課

協力／東京創元社



【磯子図書館】

企画展示「大正時代の横浜」

横浜市立図書館開業100周年を記念し、明治後期から大正期の横浜各地を写した絵葉書20枚（複製）・地図1枚（複製）を独自に作成した説明文とともに展示しました。

期間／令和3年10月12日（火）～11月14日（日）

会場／磯子図書館ロビー

【港北図書館】

パネル展示「港北むかしの写真展」

大正や昭和初期等の港北区の風景写真を展示しました。

期間／令和3年7月2日(金)～7月25日(日)

会場／港北図書館1階港北まちの情報コーナー

企画展示「港北の小学生がえらぶ本」

港北区の小学生に「一番好きな本」を投票してもらいました。

1,500人の投票結果を発表し、本も展示しました。

期間／令和3年11月5日(金)～12月19日(日)

会場／港北図書館1階港北まちの情報コーナー、区内10書店、その他区内小学校

【投票について】

投票期間／令和3年6月25日(金)～7月20日(火)

投票場所／港北区内小学校、港北図書館、港北区役所、

菊名地区センター、菊名コミュニティハウス、

大倉精神文化研究所、日吉南学童保育所

総投票数／1,571票(小学校1485票、図書館71票ほか)



企画展示「港北の小学生がえらぶ本」(港北図書館での展示)



「港北の小学生がえらぶ本」ポスター

【緑図書館】

展示「緑図書館の100～横浜市立図書館は6月11日に100周年～」

横浜市立図書館100周年に合わせ、タイトルに100の付く資料の展示、貸出をしました。

期間／令和3年6月1日(火)～6月30日(水)

会場／緑図書館窓辺コーナー

横浜市立図書館100周年記念「大人のためのおはなし会」

絵本やストーリーテリング(語り)などを楽しんでいただきました。

日時／令和3年11月4日(木) 午前10時30分～正午

会場／緑図書館会議室

参加人数／13人

出演／緑図書館司書、緑図書館おはなしボランティア



「大人のためのおはなし会」



「春の十日市場歴史散歩」ポスター

横浜市立図書館100周年記念「春の十日市場歴史散歩～江戸近郊の村人祈禱の地を訪ねて～」

江戸時代の庶民の生活を、村人たちの信仰をとおして紐解きます。講演会で知識を得た後、実際に緑区十日市場町を徒歩で散策し、近世の人々の思いを見つめました。

日時／令和4年3月26日(土) 午前9時30分～正午

会場／緑図書館会議室

定員／10人

講師／地域史研究家 相澤雅雄氏

【山内図書館】

〈100周年記念事業〉おはなしスペシャルウィーク

「やまうちとしゃかん夏のおはなし祭り2021」

子どもから大人まで、たくさんの、いろいろなおはなしを楽しむ「おはなし祭り2021」を開催しました。

読み聞かせ・語り・朗読・人形劇・パネルシアター、プロレスラーのおはなし会、キダーぶるぶるクッションを使った体感型おはなし会など5日間で計22回のおはなし会を開催しました。

期間／令和3年8月5日(木)～8月9日(月・振休)

会場／山内図書館やまちゃんおはなしの部屋及び前庭等

参加人数／192人

【参加団体】

荏田おはなしの会、おはなしアトリエみも座、おはなし会「ちゃ・ちゅ・ちょ」、おはなしのくに、おはなしパステル、おはなしひなたボッコ、スプンク劇場、つつじ文庫、りぶりんと・あおば、こがようこ、小阪真理子、桜井円、びわふるーる、ブラックめんそーれ(全日本プロレス)、柴崎美奈(慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 Embodied Media Project)



「おはなし祭り2021」チラシ表面・裏面

〈100周年記念事業〉企画展示「しらべものミカタ」展示

読書週間にあわせて、参考図書コーナーや、百科事典などの参考図書を紹介しました。

百科事典を活用するクイズも実施し、記念品として100周年記念のしおり、または、移動図書館はまかせ号のペーパークラフトをお渡ししました。

期間／令和3年10月27日(水)～11月9日(火)

会場／山内図書館児童参考図書コーナー



企画展示「しらべものミカタ」

横浜市立図書館100周年記念事業

【都筑図書館】

横浜市立図書館100歳のお誕生日おめでとう つづきブックフェスタ2021 プレイベント 秋のライブラリーナイトin 都筑図書館

閉館後の図書館でミニコンサートを開きました。宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』など物語に合わせて、ピアノとバイオリンで音楽を奏でました。

日時／令和3年11月14日(日) 午後5時30分～午後6時30分

会場／都筑図書館閲覧フロア

参加人数／40人

出演／Katochan 姉妹with みっちゃん、都筑図書館司書

共催／都筑図書館から未来を描く協働の会、都筑図書館、都筑区役所



「秋のライブラリーナイトin 都筑図書館」

【戸塚図書館】

市立図書館開業100周年事業「図書館で水博士になろう！」

戸塚ポンプ場と図書館が複合施設である特徴を活かし、戸塚ポンプ場について水再生センター職員がお話し、水に関する本を司書が紹介しました。

日時／令和3年7月29日(木) 午前10時30分～午前11時30分

会場／戸塚地区センター会議室A(図書館2階)

参加人数／小学3・4年生11人

共催／環境創造局栄水再生センター



「図書館で水博士になろう！」

【栄図書館】

展示「生誕100周年！」

大正10(1921)年に生まれた人の著作や関連本を展示しました。

期間／令和3年10月1日(金)～10月31日(日)

会場／栄図書館1階展示コーナー



記念講演会「栄の遺跡」

SAKAESTA開所・横浜市立図書館 100周年
2021 記念講演会「栄の遺跡」

区内に点在する遺跡の魅力に迫りました。

日時／令和3年12月4日(土) 午後2時～午後4時

会場／SAKAESTA(さかえすた) 大会議室

参加人数／66人

講師／横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター研究調査員
鹿島保宏氏

横浜市立図書館100周年記念発行「栄の遺跡」

令和3年12月4日に開催された横浜市立図書館100周年記念講演会「栄の遺跡」で使用した資料を基に発行しました。

発行／横浜市栄図書館 令和4年3月

協力／公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター



「栄の遺跡」(100周年記念発行)



パネル展示「三省堂の辞書作りの歴史」



記念講演会「国語辞書の歴史・現在・未来」ポスター



パネル展示「相模鉄道キャラクター そうにゃんの絵本展」

【瀬谷図書館】

パネル展示「三省堂の辞書作りの歴史」

講演会「国語辞書の歴史・現在・未来」の関連展示として、株式会社三省堂の辞書作りや辞書の紹介、関連図書の展示を行いました。

期間／令和3年9月29日(水)～10月28日(木)

会場／瀬谷図書館玄関ホール

協力／株式会社三省堂

記念講演会「～三省堂の辞書作りと共に振り返る～国語辞書の歴史・現在・未来」

日本の国語辞書はどのようにして生まれ、どのように変化していったのか。

今年創業140周年を迎えた三省堂の辞書作りと共に、国語辞書の歴史に迫りました。

日時／令和3年10月24日(日) 午後2時～午後3時30分

会場／瀬谷図書館会議室

参加人数／8人

講師／株式会社三省堂 執行役員辞書出版部部长 山本康一氏

協力／株式会社三省堂

パネル展示「相模鉄道キャラクター そうにゃんの絵本展」

横浜市立図書館開業100周年を記念し、瀬谷区内唯一の鉄道路線である相模鉄道キャラクターの「そうにゃん」の絵本や、紹介パネル、グッズなどを展示しました。

実物の「そうにゃんつり革(4種)」や帽子、信号燈を展示したほか、「そうにゃん」や路線図などをパネルにして、プロフィールや絵本も紹介しました。相模鉄道を中心に鉄道関連の書籍も展示しました。

期間／令和3年12月1日(水)～12月19日(日)

会場／瀬谷図書館1階玄関ホール

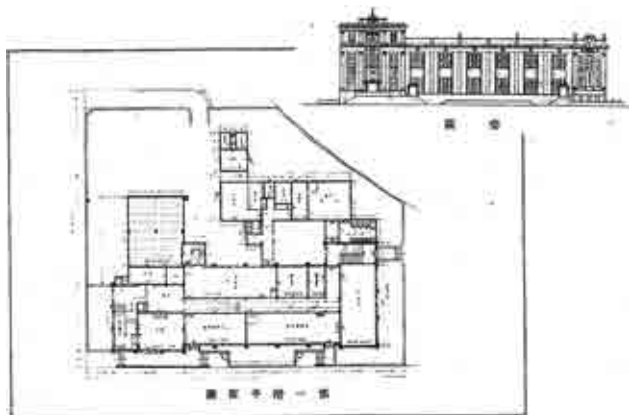
協力／相模鉄道株式会社



資料編

横浜市図書館の変遷

横浜市図書館設計図 (1919年)
建設計画が実現しなかった幻の図書館



設計図館書開市濱横

【横浜市要覧】

中村町閲覧所 (1923年)
関東大震災直後に設置された仮閲覧所



【横浜市図書館概要】

第一仮本館 (1924年)
閲覧室、休憩室、事務室、使丁室、
物置兼製本場



館本假一第

第二仮本館 (1924年)
閲覧室、婦人児童閲覧室、目録及新聞縦覧室、
書庫、物置電話室、事務室、宿直室、使丁室

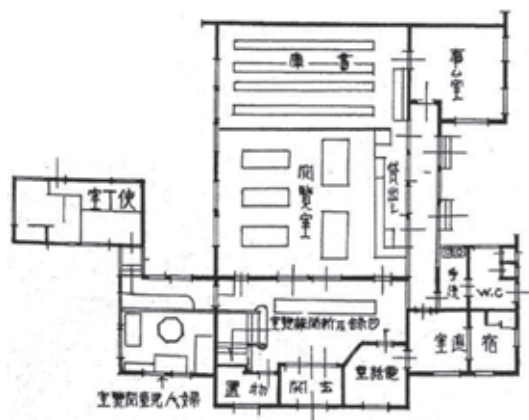


館本假二第



横浜市図書館第一仮本館平面図

縮尺三百分之七



図面平館本假二第館書開市濱横

壹分百参尺縮

【横浜市図書館概要】

力	ワ	ヲ	ル	又	リ	少	ト	ハ	小	二	口	イ
水	休	丸	館	事	書	書	新	新	新	新	貸	目
道	憩	卓	長	等	類	類	書	書	書	書	付	録
空	子	子	車	車	戸	戸	整	整	整	整	査	査
査	査	査	査	査	査	査	査	査	査	査	査	査

【横浜市図書館概要】

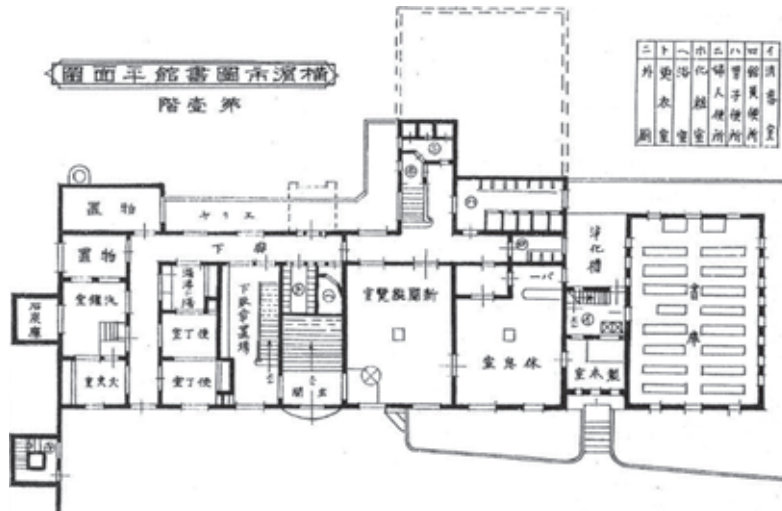
横浜市図書館 (1927年)



園山毛野



図書館配置図



1階

新聞縦覧室、書庫、休憩室、製本室、
下駄傘置場、男子便所、婦人便所、
化粧室、物置、浴室、更衣室、使丁室、
火夫室、汽罐室、石炭庫



2階

陳列室
児童閲覧室
婦人閲覧室
書庫
事務室 (館長室・応接室)



3階

普通閲覧室
特別閲覧室
目録室、書庫

屋上

ベンチ

平面図：『横浜市図書館概要』

歴代図書館長

横浜市図書館

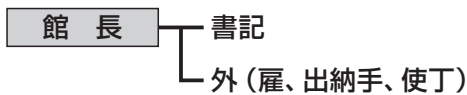
1921(大正10)年6月11日	伊東 平蔵(初代)
1926(大正15)年12月26日	早川 友三(2代)
1934(昭和9)年3月20日	鈴木保太郎(3代)
1939(昭和14)年12月12日	鵜沢 忠(4代)
1950(昭和25)年11月12日	岡本 孝正(5代)
1954(昭和29)年9月7日	草野 徳義(6代)
1955(昭和30)年8月2日	島津 為三(7代)
1960(昭和35)年2月2日	玉岡 三男(8代)
1961(昭和36)年12月1日	中村 八郎(9代)
1968(昭和43)年12月24日	山崎 運吉(10代)
1972(昭和47)年8月17日	太田俣二郎(11代)
1977(昭和52)年6月10日	大森 新一(12代)
1979(昭和54)年6月8日	牧野 博明(13代)
1981(昭和56)年5月9日	鈴木 武(14代)
1985(昭和60)年6月8日	勝田 充久(15代)
1987(昭和62)年6月1日	塩田 敏男(16代)
1990(平成2)年6月1日	木下 勝裕(17代)
1992(平成4)年6月1日	佐藤 一郎(18代)

中央図書館

1994(平成6)年2月22日	塩田 敏男(19代)
1999(平成11)年4月1日	梅田 誠(20代)
2004(平成16)年4月1日	高井 祿郎(21代)
2005(平成17)年4月1日	小川 恵一(22代)
2010(平成22)年4月1日	神谷 洋二(23代)
2014(平成26)年4月1日	山口 隆史(24代)
2019(平成31)年4月1日	田雑由紀乃(25代)
2021(令和3)年4月1日	下澤 明久(26代)

組 織 図

[大正13年9月1日現在]



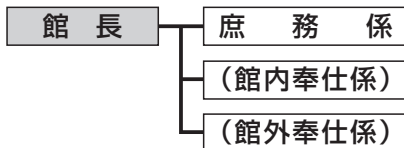
『横浜市図書館報告 第1巻』

[昭和11年9月15日現在]



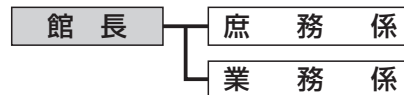
『横浜市職員録 昭和11年9月15日現在』

[昭和31年4月1日現在]



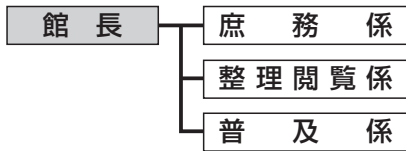
『横浜市報 第1193号』昭和31年3月25日

[昭和37年5月1日現在]



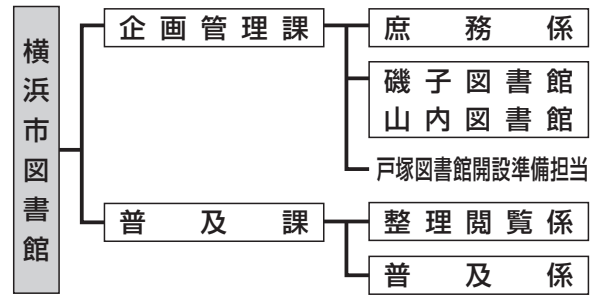
『横浜市報 号外第11号』昭和37年5月1日

[昭和41年4月19日現在]



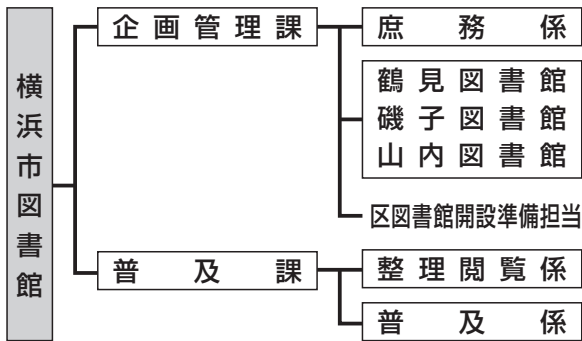
『横浜市報 第1556号』昭和41年4月25日

[昭和53年3月1日現在]



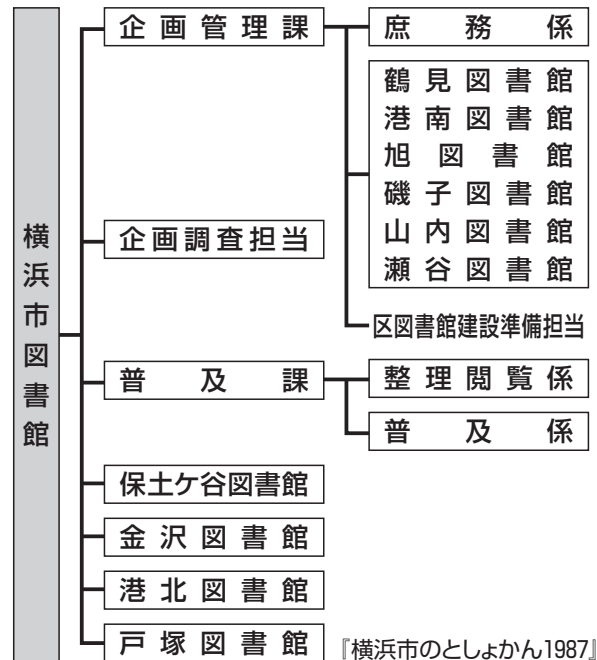
『横浜市職員録 昭和53年版』

[昭和58年7月1日現在]



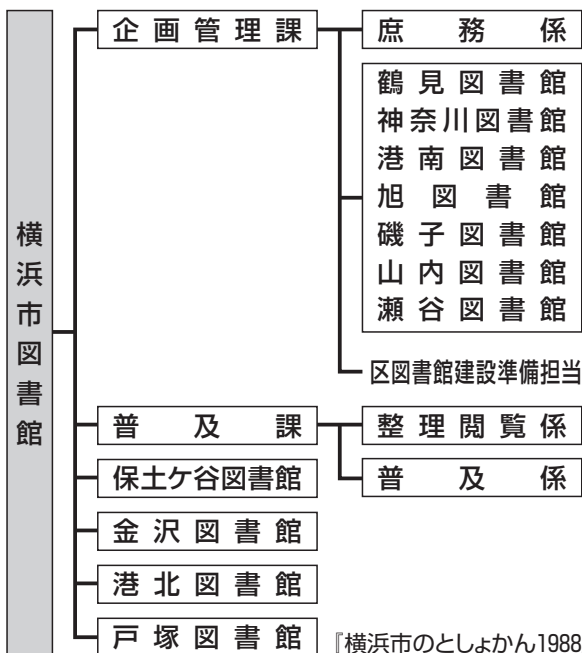
『横浜市職員録 昭和58年版』

[昭和62年3月31日現在]



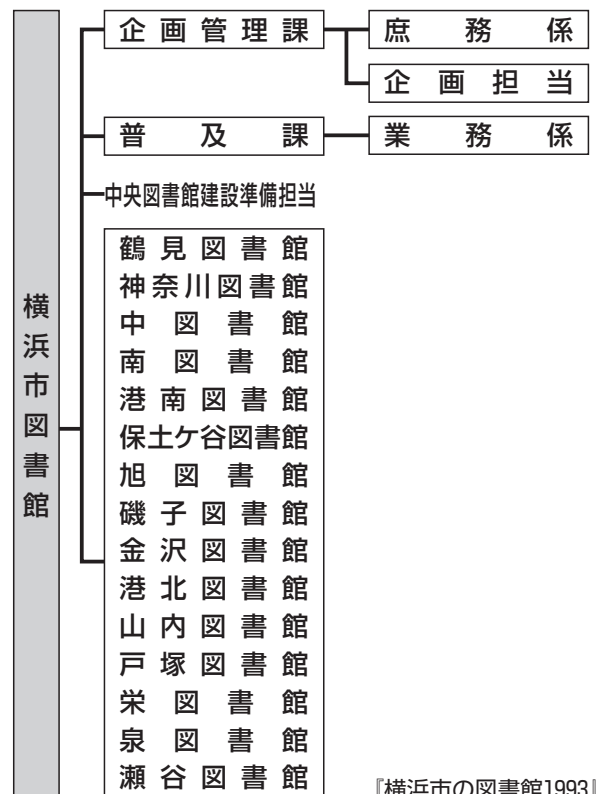
『横浜市のとしかん1987』

[昭和63年3月31日現在]



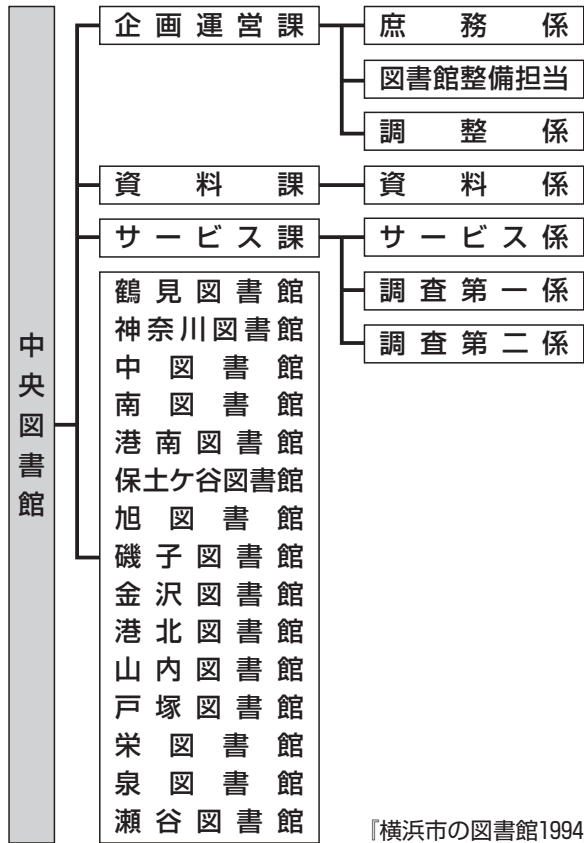
『横浜市のとしかん1988』

[平成5年6月1日現在]

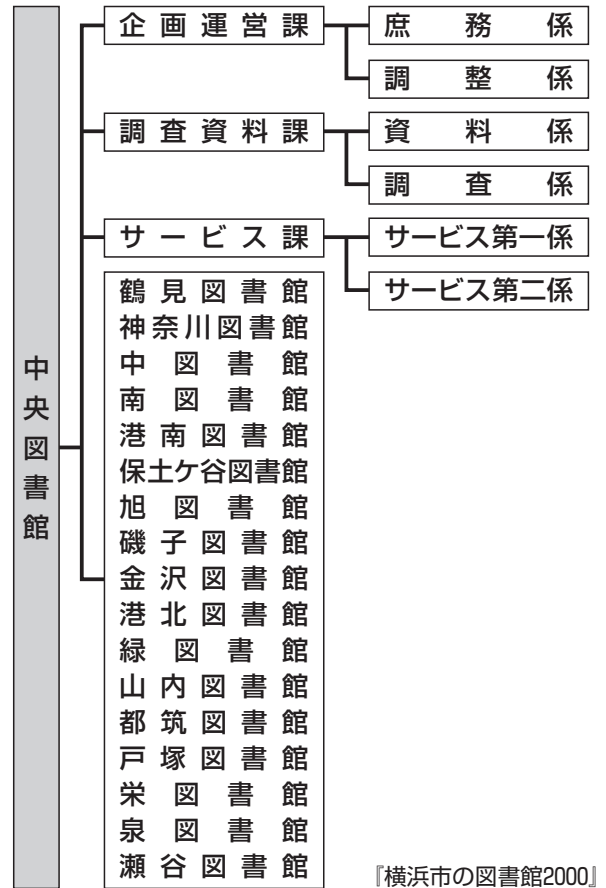


『横浜市の図書館1993』

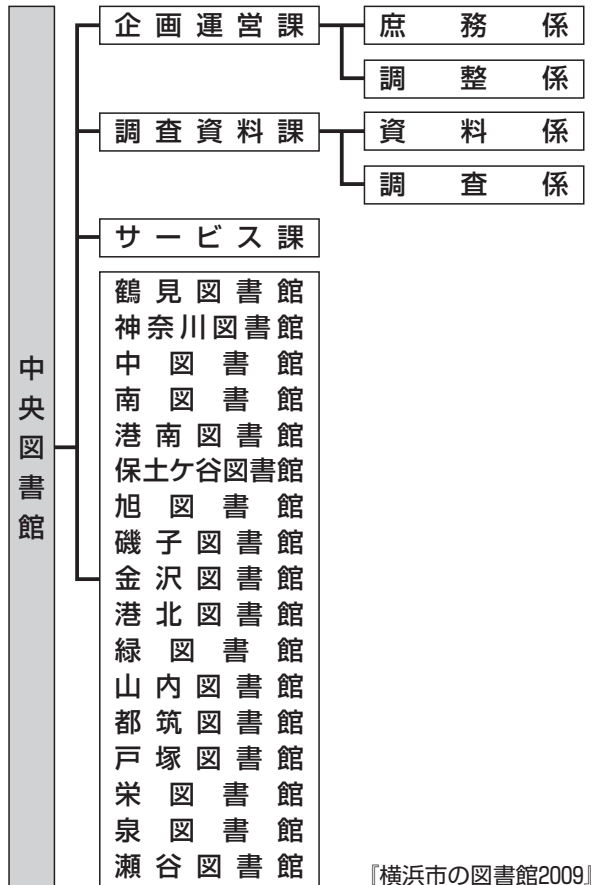
[平成6年6月1日現在] ※中央図書館開館



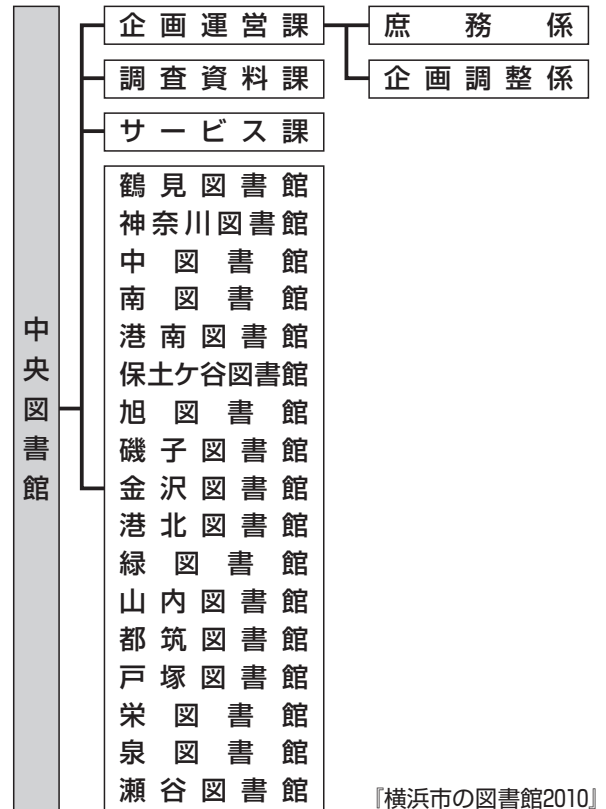
[平成12年4月1日現在]



[平成21年4月14日現在]



[平成22年4月14日現在] ※令和4年3月現在



主要刊行物一覧

刊行年	館 報	主 な 刊 行 物	
1921 T10		『横浜市図書館報告 第一』 『横浜市図書館報告 第二』 『建設図書館出陳図書目録』	
1922 T11		『横浜市図書館和漢図書分類目録 文学・語学の部』	
1923 T12		『横浜古図錦絵展覧会出陳目録』	
1927 S02		『横浜市図書館概要』 『新築落成記念横浜市史料出陳目録』 『横浜市図書館新築落成記念[絵葉書]』 『横浜市図書館案内』 ※1967年まで発行 『横浜市図書館増加図書目録 第1号』	
1928 S03			
1930 S05	『横浜市図書館報』 (第1-28号) (昭和5年-15年)	『横浜市図書館処務細則』	
1931 S06		『本館所蔵横浜開港時代参考資料目録』	
1936 S11		『優良児童読物 第3輯 昭和10年10月-昭和11年9月』 ※児童書目録	
1937 S12		『優良児童読物 第4輯 昭和11年10月-昭和12年9月』	
1940 S15		『開港歴史館へ陳列シ得ル資料図書館所蔵分一覧』	
1948 S23		『横浜市図書館沿革史』	
1954 S29	『図書館報よこはま』 (第1-46号) (館報よこはま:1-3号のタイトル) (昭和29年-46年)	『横浜市図書館所蔵開港関係資料目録』 『横浜市図書館新着図書目録』 ※1958年5月まで発行 『開港記念横浜歴史展目録』 『横浜市図書館規則・横浜市図書館処務規定』 『郷土よこはま』創刊 『めばえ』(横浜市図書館小中学生室) 『横浜市図書館蔵書目録 第1編 郷土資料篇』 『横浜市図書館蔵書目録 第2編 横浜絵・絵図篇』 『横浜市図書館年報 昭和33年度』(2月発行) ※34年度を10月に発行 『横浜市図書館貸出文庫だより』 『横浜市図書館40年略史』 『横浜市図書館年報 昭和35年度』 ※発行終了 『横浜もののはじめ』(横浜郷土叢書) 『横浜市図書館蔵書目録 第3編 伝記 日本各伝の部』 『横浜の伝説』(横浜郷土叢書) 『レコード目録』 『横浜市図書館蔵書目録 第4編 伝記 外国人の部』 『団体貸出利用団体連絡会議報告書』 『横浜市図書館蔵書目録 第5編 郷土資料その1』 『本を読む市民のつどい』 『読書会の手引』 『中林梧竹目録』(郷土よこはま) 団体貸出広報『ひろば』(第1-90号) 『著名文人書簡集 尾山篤二郎宛著名文人書簡展』 『横浜市図書館蔵書目録 第6編 郷土資料その2』	
1955 S30			
1956 S31			
1957 S32			
1958 S33			
1960 S35			
1961 S36			
1963 S38			
1964 S39			
1966 S41			
1967 S42			
1968 S43			
1969 S44			
1970 S45		『図書館報『こだま』』 (昭和45年-55年)	『横浜歴史年表 昭和42-48年』(郷土よこはま別冊) ※昭和50年まで発行 『横浜の交通展 古道より地下鉄まで』 『横浜市図書館50年の歩み 略年表』 『所蔵資料でみる横浜 横浜市図書館創立50周年記念特別資料展』 『はまかぜあたらしいほん』(移動図書館利用者向新刊案内)創刊 『横浜市図書館行政の施策と展望(意見具申)』 『横浜の新田と埋立』(横浜郷土双書) 『横浜の教育百年展 学制発布から六・三制まで』 『横浜もののはじめ 改訂版』 『横浜市町名変遷概要図』(横浜郷土双書) 『横浜市立図書館概要 昭和52年度』※市立図書館概要発行開始
1971 S46			
1972 S47			
1974 S49			
1976 S51			
1977 S52			
1980 S55			
1981 S56	『図書館報よこはま』 (第1号-28号) (昭和55年-62年)	『横浜市図書館60年の歩み 略年表』 『横浜市図書館創立60周年記念絵葉書』 『RESEARCH 問題解決のために』(戸塚図書館発行) 『レファレンスガイド 1982』(戸塚図書館発行) ※1985年版もあり 『横浜市のとしょかん 横浜市立図書館概要』※概要の名称を変更 『望月家文書 武州都筑郡小机郷新羽村 第一輯』(港北図書館発行) 『横浜市図書館所蔵亀田文庫目録』 『わがまち磯子の作家と作品展』(磯子図書館発行) 『武蔵国久良岐郡谷津村小泉家文書 上』(金沢図書館発行) ※下巻は1985年刊行 『皇国地誌 横浜市港北区』(港北図書館発行)	
1983 S58			
1984 S59			

刊行年	館 報	主 な 刊 行 物
1985 S60		『望月家文書 武州都筑郡小机郷新羽村 第二輯』(港北図書館発行) 『本牧表日記 鳥取藩海防控』 『横浜市中央図書館実施基本計画調査報告書』 『横浜市中央図書館実施基本計画調査報告書概要』 『かなざわの100年展 六浦県から海の公園まで』(金沢図書館発行)
1986 S61		『小中学生のための港北の歴史 上』(港北図書館発行)
1987 S62	図書館報「横浜」 (第1号-53号) (昭和62年-平成18年)	『横浜市中央図書館基本構想委員会報告書』 『横浜市立図書館障害者サービスごあんない』 『図書館利用に障害のある人々へのサービスを進めるための実務マニュアル』 『鶴見の百年』(鶴見図書館発行) 『金沢の100年 六浦県から海の公園まで』(金沢図書館発行) 『神奈川県橋樹郡案内記』(港北図書館発行)
1988 S63		『濱之礎 横浜市中区相沢墓地調査概報』
1989 H01		『横浜市中央図書館資料収集検討委員会報告書』
1990 H02		『えほんのリスト はじめてであう199さつ』
1991 H03		『地区センター図書コーナーネットワーク基本計画 案』 『鶴見の坂道』(鶴見図書館発行)
1992 H04		『児童サービス検討会報告書』 『としょかんはたのしいよ』(小学校1年生向けリーフレット) ※以降毎年発行
1994 H05		『港北区町名変遷概要図 1』(港北図書館発行)
1997 H09		『横浜の本と文化 横浜市中央図書館開館記念誌』
1998 H10		『写真展「本牧の70年」目録(本牧再発見)』(中図書館発行) 『自治の風景-行政改革を考える128冊』 『横浜市立図書館「館内報」』 『図書館サービス再構築の試み 図書サービス調査事業報告書 Vol.1』 『環境とは何か』、『地球温暖化を考える』(考えるためのブックリスト) 『横浜シネマ商会の業績 映画作品目録1923-1945』(神奈川図書館発行) 『本牧波瀾の100年』(中図書館発行)
1999 H11		『自治の風景-行政のあすを考える67冊』 『私の情報探査術 横浜市職員による図書館活用事例と未来への提言』 『図書館サービス再構築の試み 図書サービス調査事業報告書 Vol.2』 『昭和30年代からの磯子・根岸の埋立と開発関連文献リスト』(磯子図書館発行)
2000 H12		『図書館サービス再構築の試み 図書サービス調査事業報告書 Vol.3』 『次期図書館システム基本構想調査事業報告書』
2001 H13		『横浜市立図書館地域図書館・一般図書収集ガイドライン作成報告書』 『子ども-過去・現在・未来 21世紀の子どものために』 『亀の甲せんべい資料集 東海道神奈川宿名物』(神奈川図書館発行) 『これであなたも都筑通 つづき資料虎の巻』(都筑図書館発行)
2002 H14		『横浜のパン資料集』(神奈川図書館発行)
2004 H16		『行事とお知らせ』(パンフレット) 『読書ボランティア調査事業報告書』 『武蔵国橋樹郡神奈川宿青木町枝郷三ツ沢山田家文書』(神奈川図書館発行)
2005 H17		『港北ニュータウン関係資料目録』(都筑図書館発行)
2006 H18		『横浜市立図書館ご利用者アンケート調査結果報告』
2007 H19		『横浜市立図書館のあり方懇談会報告書』
2008 H20	市立図書館情報誌「@Lib」	『横浜市金沢図書館貴重資料目録 金沢区制60周年記念展示』(金沢図書館発行)
2009 H21	(平成20年-24年)	『おひぎにだっこで楽しむ絵本 0歳からの図書館デビュー』 『ヨコハマの子どもが選んだ150冊』 『ヨコハマDEKIGOTO資料集 1859+150=2009』 『横浜市立図書館における児童生徒に対する多文化・多言語サービス推進事業 報告書』
2010 H22		『青葉区文化財資料集』(山内図書館発行)
2011 H23		『「としょかんと私」 泉図書館開館20周年記念文集』(泉図書館発行) 『横浜市立図書館アクションプラン 市民サービスの向上を目指して』 『蔵書再構成5か年計画』 『横浜市立図書館児童サービス5か年計画』 『パネルディスカッション あの頃の、ヨコハマは...』(横浜市立図書館創立90周年記念)
2012 H24		『横浜市港南図書館の歩み 開館25周年記念誌』(港南図書館発行)
2015 H27		『横浜市立図書館アクションプラン 市民の読書活動を支える地域の情報拠点を目指して』 『横浜市立図書館蔵書5か年計画』 『F・マリノスと図書館がえらんだ えほんイレブン』
2016 H28		『おうちでいっしょに楽しむ絵本 3歳からのブックリスト』
2019 R01		『「横浜10大ニュース」一覧 昭和56年~平成30年』
2020 R02		『横浜市立図書館運営実行プラン』
2021 R03		『はじめてであうものがたり』 『横浜市立図書館100周年』(パンフレット) 『資料でたどる亀の甲せんべい 東海道神奈川宿名物の二百年』(神奈川図書館発行) 『若菜屋調査資料集 神奈川宿名物亀の甲せんべい元祖』(神奈川図書館発行)
2022 R04		『横浜市立図書館100周年記念資料集』

〔主な参考文献〕

- 『横浜市図書館概要』（[1927]）[横浜市図書館]
- 『横浜市図書館報』第1～28号（1930.1～1940.2）横浜市図書館
- 『図書館報よこはま』第1～46号（1954.7～[1971.2]）横浜市図書館
- 『横浜市立図書館概要』昭和52～57年度（1977.5～1982.5）横浜市図書館
- 『図書館報よこはま』第1～28号（1980.7～1987.3）横浜市図書館
- 『横浜市図書館60年の歩み 略年表』（1981.10）横浜市図書館
- 『横浜市のとしょかん』'83～'93（1983.6～1993.6）横浜市図書館
- 『図書館報『横浜』』第1～20号（1987.11～1993.12）横浜市図書館
第21～32号（1994.3～1998.1）横浜市中央図書館
第33～53号（1998.3～2006.3）横浜市中央図書館企画運営課
- 『横浜の本と文化 横浜市中央図書館開館記念誌』（1994.3）
横浜市中央図書館開館記念誌編集委員会/編 横浜市中央図書館
- 『横浜市の図書館』'94～2007（1994.6～2007.7）横浜市中央図書館
2008～2021（2008.7～2021.7）横浜市中央図書館企画運営課

〔横浜市立図書館100周年記念事業 デザイン・撮影〕

- * **COOLLAB 高橋 晃** ……………デザイン
横浜市立図書館ロゴマーク
横浜市立図書館100周年記念ロゴマーク
横浜市立図書館100周年記念ポスター
- * **株式会社アーチ** ……………デザイン
横浜市立図書館100周年記念パネル
横浜市立図書館100周年記念パンフレット内 表紙・横浜市立図書館の歴史
- * **有限会社シュービ** ……………デザイン・印刷
横浜市立図書館100周年記念パンフレット
横浜市立図書館100周年記念しおり
- * **山王印刷株式会社** ……………デザイン・印刷
横浜市立図書館100周年記念式典・講演会式次第
- * **株式会社イクフォー** ……………設営・動画配信・動画撮影・写真撮影等
横浜市立図書館100周年記念式典・講演会 等
- * **株式会社なまためプリント** ……………デザイン
横浜市立図書館100周年記念資料集
- * **コジマ印刷株式会社** ……………印刷
横浜市立図書館100周年記念資料集

本誌は市立図書館開業100周年を記念し、その変遷を辿るための資料集として、また100周年記念事業の記録集として刊行しました。中央図書館開館（1994（平成6）年）以前の約70年間の市立図書館の歴史については、中央図書館開館記念誌『横浜の本と文化』もあわせて参照してください。

横浜市立図書館100周年記念資料集

令和4年3月発行

編集・発行：横浜市中央図書館企画運営課

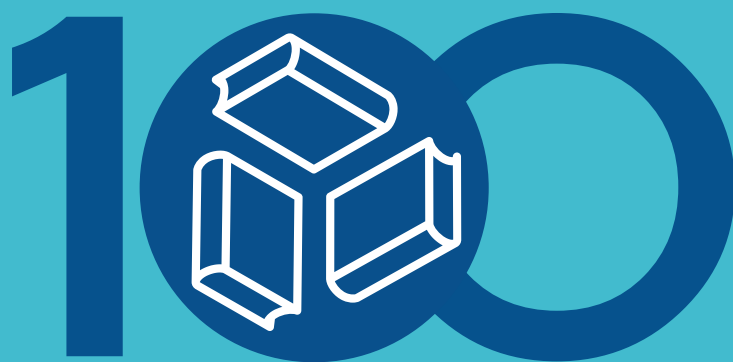
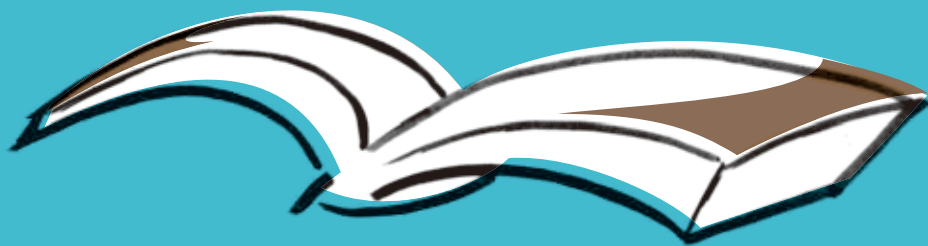
〒220-0032 横浜市西区老松町1

電話（045）262-7334 FAX（045）262-0052

Eメール ky-libkocho-k@city.yokohama.jp

URL <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kyodo-manabi/library/>

過
去
と
未
来
を
つ
な
ぐ
場
所



1921-2021

横浜市立図書館

- 100年の知識を100年先も -

